

勅令第二百三號(官報五月十一日)

陸軍大學校條例中左ノ通改正ス

第二條中校長ノ下「參謀大佐」ヲ「少將若クハ參謀大佐」ニ副官ノ下「各兵科大尉」致官ヲ兼ヘシムルコトヲ得「各兵科大尉」ニ尉長ノ下「騎兵科尉官」ヲ「騎兵科大尉」ニ改メ「尉長」ノ次ニ「軍醫」ノ一項ヲ加ヘ「教官」ノ下「獸醫」ヲ兼職セシム「一等獸醫」ニ改ム

第七條中毎年ノ下「二十五名」ヲ「五十名」ニ改ム

第八條中「六月」ヲ「五月」ニ改ム

第十條第二項中「七月」ヲ「六月」ニ「八月十五日」ヲ「七月二十日」ニ改ム

第十二條中「十二月」ヲ「一月」ヲ「一月」ニ「毎年十二月」ヨリ翌年十一月マテ「毎年一月」ヨリ十二月マテニ改ム

第二十條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

附則

第二十一條 本校學生ハ中少尉ノ外當分ノ内各兵科ノ大尉ニシテ第七條ニ掲クル所ノ資格ヲ具フル者ヲ撰拔シテ入學セシムルコトヲ得

陸軍大學校學生候補名簿欄外末文中「得ルトカ記スルカ如シ」ヲ「得ルト言フ如ク記スヘシ」ニ改ム

(參照)

勅令第七十一號陸軍大學校條例(明治二十四年八月十三日官報)抄錄

第七條 本校學生ハ左ノ資格ヲ具フル者ヲ撰拔シテ毎年二十五名以内ヲ入學セシム

各兵科ノ中少尉ニシテ一年以上且身體強健勤務精勵氣節アツテ識量ニ富ミ且學術才幹卓越ニシテ將來充分發達スベキ判斷力ヲ有スル者

第八條 聯隊長ニシテハ其隊員以下之人員ハ前條ノ資格アル者ヲ撰拔シ學生候補名簿ヲ製シ順序ヲ經テ所管長官ニ呈ス

同長官ハ之ヲ取捨シテ撰拔順次名簿ヲ製シ候補名簿ヲ併セテ六月五日限リ參謀總長ニ進達ス

第十條第三項 初審試験ハ候補者ノ學識如何ヲ檢定スルモノニシテ毎年七月間題ヲ封緘シ所管長官ニ送付ス同長官ハ候補者ヲ集メ參謀

朕陸地測量部條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年五月九日

陸軍大臣 侯爵 大山 巖

勅令第二百三號(官報五月十一日)

陸地測量部條例中左ノ通改正ス

第三條中部長ノ下「各兵科大佐」ヲ「少將或各兵科大佐」ニ科長ノ下「各兵科中(少)佐」ヲ「各兵科佐官」ニ改ム

附則第十八條削除

(參照)

勅令第七十五號陸地測量部條例(明治二十四年八月十八日官報)抄錄

附則

第十八條 本條例施行前ヨリ陸地測量部ニ出仕スル准士官及各兵下士ハ當分使用スルコトヲ得

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條ニ依リ文武官其ノ他官廳ノ命ニ依ル者ノ外日本臣民管轄地方廳ノ許可ナクシテ朝鮮國ニ渡航スルコトヲ禁スルノ件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年五月九日

- 内閣總理大臣 侯爵伊藤博文
- 海軍大臣 侯爵西鄉從道
- 陸軍大臣 侯爵大山 巖
- 農商務大臣 子爵榎本武揚
- 內務大臣 伯爵板垣退助
- 外務大臣 伯爵陸奥宗光
- 大藏大臣 子爵渡邊國武
- 司法大臣 芳川顯正
- 文部大臣 侯爵西園寺公望
- 逓信大臣 白根專一
- 拓殖務大臣 子爵高島綱之助

勅令第二百四號(官報五月十一日)

文武官其ノ他官廳ノ命ニ依ル者ノ外日本臣民ハ管轄地方廳ノ許可ナクシテ朝鮮國ニ渡航スルコトヲ禁ス犯ス者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

〔参照〕

大日本帝國憲法(抄録)
第八條 天皇ハ公共ノ安寧ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル爲緊急ノ必要ニ由リ帝國議會附會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス
此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ若議會ニ於テ承諾セサルトキハ政府ハ將來ニ向テ其ノ效力ヲ失フコトヲ公布スハシ

朕師團司令部條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年五月十一日

陸軍大臣 侯爵大山 巖

勅令第二百五號(官報五月十二日)

師團司令部條例

- 第一條 師團長ハ陸軍中將ヲ以テ之ニ補シ
- 天皇ニ直隸シ部下軍隊ヲ統率シ又師管内ノ聯隊區司令部ヲ管轄シ軍事ニ係ル諸件ヲ總理ス
- 第二條 師團長ハ其主管ニ係ル各部團隊ノ動員計畫ヲ掌リ又師管内徵兵事務並ニ召集事務ヲ統轄ス
- 前項ノ外近衛師團長ハ宮闕守衛ノ事ニ任シ第七師團長ハ屯田兵ノ徵募補充並ニ開墾耕稼ノ事ヲ掌ル
- 第三條 師團長ハ部下軍隊ノ練成ニ就テ其責ニ任ス但騎砲工輜重兵科專門ノ事ハ當該兵監ノ責任ニ屬ス
- 第四條 師團長ハ防務條例第三條ノ規定ヲ除クノ外師管内ノ防禦及陸軍諸官廳諸建築物ノ保護ニ任ス
- 地方長官地方ノ靜謐ヲ維持スルカ爲メ兵力ヲ請求スル時事急ナレハ直チニ之ニ應スルコトヲ得其事地方長官ノ請求ヲ待ツノ違ナキ時ハ兵力ヲ以テ便宜處置スルヲ得
- 前項ノ場合ニ於テハ直チニ之ヲ陸軍大臣參謀總長及當該都督ニ報告シ又近衛及第一師團長ニ在テハ其事東京及東京灣要塞ニ關スルトキハ同時ニ之ヲ東京防禦總督ニ報告スヘシ

第五條 疾疫其他非常ノ場合ニ際シ師團長一時其部下軍隊ヲ移轉セントスル時急ヲ要スレハ之ヲ實行シテ後報告スルコト前條末項ニ同シ

第六條 師團長ハ其師團内ニ在ル陸軍諸隊及諸官屬ニ於ケル軍紀風紀ヲ統監シ軍法會議ヲ管轄ス但東京ニ在テハ軍紀風紀ノ事ハ近衛及第一師團長ニ直屬スルモノ、外總テ東京防輿總督ノ統監ニ屬ス

第七條 師團長ハ軍隊給養第七師團ニ在テハ移住及動員計畫ニ關スル會計經理ノ事ニ就テハ當該師團監督部長兵器彈藥ニ關スル事ニ就テハ砲兵方面支署長ニ命令スルノ權ヲ有ス第八條 師團長ハ軍政及人事ニ關シテハ陸軍大臣動員計畫作戦計畫及教育ニ關シテハ特ニ規定アルモノヲ除クノ外當該都督ノ區處ヲ受ク

第九條 師團長ハ騎砲工輜重兵科専門ノ事ニ就キ意見アレハ直チニ之ヲ監軍ニ具申スルコトヲ得第十條 師團長ハ陸軍軍隊檢閱條例ニ據リ檢閲ヲ行フ第十一條 師團司令部ハ左ノ各部ヨリ成ル

一 參謀部

二 副官部

參謀部及副官部ヲ合シテ特ニ幕僚ト稱ス

三 法官部

四 軍醫部

五 獸醫部

第十二條 參謀長ハ幕僚ノ事務ヲ統監シ師團長ニ對シテ事務整理ノ責ニ任ス
第十三條 幕僚ノ各將校及軍吏ハ參謀長ノ監視ヲ受ケ各自擔任ノ事務ヲ掌リ其師團長ニ具申スヘキ事ニ就テハ先ツ參謀長ノ承認ヲ得ヘキモノトス

第十四條 法官部長軍醫部長及獸醫部長ハ各其主任ノ事ニ就キ事務整理ノ責ニ任ス
各部長及師團監督部長並ニ砲兵方面支署長ヨリ師團長ニ具申スヘキ事ニ就テハ先ツ參謀長ニ開陳スヘシ

附則

第十五條 第七師團長ニハ當分ノ内少將ヲ以テ之ニ充ツルコトアルヘシ

第十六條 本條例中都督ニ關スル規定ハ都督部設置ニ至ルマテハ從前ノ規定ニ據ル

第十七條 近衛師團司令部條例及屯田兵司令部條例ハ本條例發布ノ日ヨリ廢止ス

第十八條 近衛師團ノ徵兵事務召集事務其他地方ニ係ル事項ハ當分ノ内從前ノ規定ニ據ル

〔參照〕

勅令第八號防務條例(明治二十八年一月十八日官報)抄錄
第三條 首府及永久ノ目的ヲ以テ建設シタル海岸防禦地點ノ防禦ヲ四種ニ分ツ

其一 東京防禦

東京防禦ハ東京防禦總督ヲシテ要塞司令官、師團長若クハ野戰隊指揮官及橫須賀鎮守府司令官ヲ統ヘ東京防禦ニ關スル全般ノコトヲ計畫指揮セシム

東京防禦總督部ノ編制及平時ノ業務ハ別ニ定ムル所ニ依ル

總督府中ニハ海軍參謀ヲ兼務セシメ諸計畫指揮ニ遣算ナカラシムヘシ

橫須賀鎮守府司令官ハ軍港ノ直接防禦ニ關シ、橫須賀鎮守府備前兵及海軍各部ヲ統ヘ軍港防禦ニ關スル全般ノコトヲ計畫指揮ス

鎮守府司令官及要塞司令官ノ下ニハ平時ヨリ互ニ參謀一名ヲ交換兼務セシメ計畫ニ遣算ナカラシムヘシ

其二 吳、佐世保防禦

吳、佐世保ノ防禦ハ鎮守府司令官ヲシテ要塞司令官及海軍各部ヲ統ヘ軍港防禦ニ關スル全般ノコトヲ計畫指揮セシム
鎮守府司令官ノ下ニハ陸軍參謀一名ヲ兼務セシメ計畫ニ遣算ナカラシムヘシ

其三 相模、鴨川、磯原ノ下ノ關海峽ノ防禦

相模、鴨川、磯原ノ下ノ關ノ各海峽防禦ハ要塞司令官ヲシテ海上防禦司令官及守備諸兵ヲ統ヘシメ海峽防禦ニ關スル全般ノコトヲ計畫指揮セシム

要塞司令官ノ關係ニ海軍參謀ヲ兼務セシメ計畫ニ遺算ナカラシムヘシ
其四 對馬防禦
對馬防禦ハ警備隊司令官及要港司令官中高級古參ノ者ヲシテ對馬防禦司令官ヲ兼任セシメ其所屬部隊及他ノ司令官ヲ統
（防禦ニ關スル全般ノコトヲ計畫指揮セシム）

朕屯田兵監督部條例換稱及該條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年五月十一日

陸軍大臣 侯爵 大山 巖

勅令第二百六號（官報五月十二日）

屯田兵監督部條例ヲ第七師團監督部條例ト換稱シ該條例中左ノ通改正ス

「屯田兵監督部」ヲ「第七師團監督部」ニ「屯田兵司令部」ヲ「第七師團司令部」ニ「屯田兵司令官」ヲ「第七師團長」ニ「屯田兵隊」ヲ「軍隊」ニ「屯田兵官衙」ヲ「第七師團內ニ在ル陸軍官衙」ニ「屯田兵所在地內」ヲ「第七師團管內」ニ改ム

朕臺灣總督府委任文官ノ他官廳委任文官ニ轉任又ハ再任スル場合ノ官等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年五月十二日

內閣總理大臣 侯爵 伊藤博文

勅令第二百七號（官報五月十三日）

第一條 本年勅令第三百二十五號ニ依リ高等官五等以上ノ臺灣總督府委任文官ニ任セラレタル者他

官廳ノ委任文官ニ轉任シ又ハ其ノ官ヲ退キ他官廳委任文官ニ再任スル場合ニ於ケル官等ハ本令ノ規程ニ依ル

第二條 臺灣總督府委任文官ニ初任シタル者ニ在テハ高等官六等以下トス但臺灣總督府委任文官在職中陞等シタル度數ニ應シ六等ニ對シ一等若クハ數等ヲ陞敘スルコトヲ得

第三條 臺灣總督府委任文官ニ再任シタル者ニ在テハ他官廳ニ於ケル前官ノ官等以下トス但臺灣總督府委任文官在職中陞等シタル度數ニ應シ同前官ノ官等ニ對シ一等若クハ數等ヲ陞敘スルコトヲ得其ノ前官官等七等以下ノ者ニ在テハ第二條ノ例ニ準ス

第四條 第二條及第三條ニ依リ他官廳ノ委任文官ニ轉任又ハ再任シタル者ノ陞等ニ關シテハ其ノ他官廳ニ於ケル前官官等在職年數及轉任又ハ退官現時ノ臺灣總督府委任文官官等在職年數ヲ通算ス

〔參照〕

勅令第三百三十五號（明治二十九年四月十三日官報）

明治二十五年勅令第九十六號高等官官等條例第七條ノ規程ハ本月三十日ニ至ル迄臺灣總督府ニ任用スル高等文官ニ適用セス

勅令第九十六號高等官官等條例（明治二十五年十一月十四日官報）抄錄

第七條 初メテ委任文官ニ任セラレ、者ノ官等ハ六等以下トス

委任文官ヲ勤メ退官シタル者再ヒ委任官ニ任セラレ、場合ニ於テ其官等ハ前官ノ官等以下トス但前官ノ官等七等以下ナルトキハ陞シテ六等官ニ至ルコトヲ得

朕逕信省ニ於テ直接ニ從事スル鐵道工事ニ要スル職工人夫雇傭ノ請負ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年五月 勅令 第二百八號

明治二十九年五月十二日

遞信大臣白根專一

勅令第三百八號(官報五月十三日)

遞信省ニ於テ直接ニ從事スル鐵道工事ニ要スル職工人夫雇傭ノ請負ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

朕監軍部條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年五月十五日

内閣總理大臣侯爵伊藤博文
陸軍大臣侯爵大山 巖

勅令第三百九號(官報五月十六日)

監軍部條例

- 第一條 監軍部ハ陸軍軍隊練成ノ齊一進歩ヲ規畫スル所トス
- 第二條 陸軍大將若クハ陸軍中將一人ヲ以テ監軍ニ親補シ
天皇ニ直隸セシム
- 第三條 監軍ハ部事ヲ總理シ教育ニ關スル諸條規典範ヲ調査シ陸軍砲工學校、陸軍士官學校、陸軍中央幼年學校、陸軍地方幼年學校、陸軍戸山學校、陸軍教導團ヲ管轄ス
- 第四條 監軍ハ陸軍軍隊檢閲條例ニ依リ 勅ヲ奉シテ檢閲使トナリ軍隊ノ檢閲ヲ行フ
- 第五條 監軍部ニ幕僚並騎砲工輜重ノ各兵監部ヲ置キ幕僚ヲ分テ參謀部及副官部トナス
- 第六條 參謀長ハ幕僚ヲ統シ監軍ヲ輔佐シ事務整理ノ責ニ任ス
- 第七條 幕僚ノ參謀及副官ハ參謀長ノ區處ヲ受ケ事務ヲ分擔ス
- 第八條 騎兵監ハ各騎兵隊及教導團騎兵生徒隊ノ教育上本科專門ノ事ニ就キ齊一進歩ノ責ニ任シ

又本科ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ竝ニ立案スルコトヲ掌リ陸軍乘馬學校ヲ管轄ス

- 第九條 野戰砲兵監ハ各野戰砲兵隊、砲工學校學生及教導團砲兵生徒隊ノ教育上本科專門ノ事ニ就キ齊一進歩ノ責ニ任シ又野戰砲兵ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ竝ニ立案スルコトヲ掌リ陸軍野戰砲兵射擊學校ヲ管轄ス
- 第十條 要塞砲兵監ハ各要塞砲兵隊及砲工學校學生ノ教育上本科專門ノ事ニ就キ齊一進歩ノ責ニ任シ又要塞砲兵ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ竝ニ立案スルコトヲ掌リ陸軍要塞砲兵射擊學校ヲ管轄ス
- 第十一條 工兵監ハ各工兵隊、砲工學校學生及教導團工兵生徒隊ノ教育上本科專門ノ事ニ就キ齊一進歩ノ責ニ任シ又本科ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ竝ニ立案スルコトヲ掌ル
- 第十二條 輜重兵監ハ各輜重兵隊及教導團輜重兵生徒隊ノ教育上本科專門ノ事ニ就キ齊一進歩ノ責ニ任シ又本科ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ竝ニ立案スルコトヲ掌ル
- 第十三條 各兵監ハ陸軍軍隊檢閲條例ニ依リ臨時ニ當該兵隊ノ檢閲ヲ行フ
- 第十四條 各兵監副官ハ各兵監ノ下ニ在リテ事務ヲ分擔ス
- 第十五條 監軍部ニ書記トシテ下士竝ニ陸軍屬ヲ置ク

朕陸軍砲工學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年五月十五日

陸軍大臣侯爵大山 巖

勅令第三百十號(官報五月十六日)

陸軍砲工學校條例

第一條 陸軍砲工學校ハ學生ニ砲工兵各科ノ勤務ニ必要ナル學術ヲ教授スル所トス
 第二條 學生ハ砲工兵科ノ少尉ヲ以テ之ニ充テ砲工兵隊及鐵道隊ヨリ分遣セシム
 第三條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 少將大佐
 副官 大中尉
 教官 中少佐大尉
 教授
 馬術教官 大尉
 軍醫
 獸醫
 軍吏

下士、陸軍屬及陸軍技手

第四條 校長ハ監軍ニ隸シ校務ヲ總理シ學生教育ノ責ニ任ス而シテ各科専門ノ教育ニ關シテハ當該兵監ノ區處ヲ受ク
 第五條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル
 第六條 教官ハ各學術科ノ授業ヲ分擔ス
 第七條 教授ハ各普通學科ノ授業ヲ分擔ス
 第八條 馬術教官ハ學生ノ馬術訓練ニ任シ兼テ校殿一切ノ事ヲ統ヘ馬匹ノ調教ヲ掌ル
 第九條 學生修學期ハ概ネ一箇年半トス
 第十條 前條修學ヲ終リタル學生中ヨリ各兵科毎ニ約三分一ノ人員ヲ選拔シ更ニ一箇年間在學セシメ尙須要ナル學術ヲ修メシム

第十一條 學生ノ人員及入校時日ハ其時々監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス
 第十二條 學生分遣ノ告達アレハ隊長ハ入校期十日前ニ其兵籍寫ニ考科表寫ヲ添ヘテ砲工學校長ニ送達スヘシ

第十三條 學生ハ校外ニ居住セシメ修學ニ所要ノ書籍器具消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ
 第十四條 學生中ノ願居其他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス
 第十五條 學生ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サス
 第十六條 學生中疾病事故ニ依リ學期內ニ所定ノ學術ヲ修メ得サル者又ハ卒業試驗ニ落第シタル者ハ猶滯學ヲ命スルコトアルヘシ

第十七條 校長ハ修學期末ニ於テ學生ノ卒業試驗ヲ施行シ各教官ヲ集メ會議ヲ開キ修學ノ成績ヲ調査シ列序ヲ定メ考科表ヲ製シ監軍ニ進達シ其認可ヲ得テ教育課程卒業ノ證書ヲ附與ス
 第十八條 滯學ヲ命シタル學生修學ヲ終レハ前條ニ準シ卒業證書ヲ附與ス
 第十九條 毎年學生ニ凡三週間ノ夏期休暇ヲ與フルコトヲ得
 第二十條 教官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲナサシムルコトアルヘシ

第二十一條 當分ノ内第九條ノ年限ヲ一箇年ニ短縮スルコトヲ得

朕陸軍士官學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年五月十五日

陸軍大臣 侯爵 大山 巖

勅令第二百一十一號(官報 五月十六日)

陸軍士官學校條例

- 第一條 陸軍士官學校ハ生徒ニ初級士官タルニ必要ナル教育ヲ爲ス所トス
- 第二條 生徒ハ陸軍各兵科現役士官候補生ヲ以テ之ニ充テ各隊ヨリ分遣セシム
- 第三條 本校ニ生徒隊一隊ヲ置ク
- 第四條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 少將大佐

副官 大中尉

教官 中少佐大尉

教授

馬術教官 大中尉

生徒隊長 中少佐

生徒隊副官 中尉

生徒隊中隊長 大尉

生徒隊附 中尉

軍醫

獸醫

軍吏

准士官、下士、陸軍屬及陸軍助教

第五條 校長ハ監軍ニ隸シ校務ヲ總理シ生徒教育ノ責ニ任ス

第六條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第七條 教官ハ軍事學各科ノ授業ヲ分擔シ佐官ノ教官ヲ以テ各科ノ科長トス

第八條 教授ハ外國語學科ノ授業ヲ分擔ス

第九條 馬術教官ハ馬術ノ訓練ニ任シ兼テ校庭一切ノ事ヲ統ヘ馬匹ノ調教ヲ掌ル

第十條 生徒隊長ハ生徒隊一般ノ事ヲ管理シ生徒教育ノ責ニ任ス

第十一條 生徒隊副官ハ隊中一般ノ庶務ヲ掌ル

第十二條 生徒隊中隊長ハ其中隊生徒ノ訓育ニ任シ生徒ヲシテ諸勤務ニ熟セシメ且軍隊内務服

裝、行狀ヲ監視ス

第十三條 生徒隊附士官ハ所屬中隊ニ在テ生徒訓育ノ諸科目ヲ分擔シ生徒ノ躬行ニ就テハ日常注

意シ分擔ノ訓育ニ就テハ擔保ノ責ニ任ス

第十四條 生徒修學期ハ概ネ十六箇月トス

第十五條 生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其課程ハ校長案ヲ具シ監軍ノ認可ヲ得テ之ヲ定

第十六條 生徒ノ諸給與ハ別ニ定ムル所ノ規定ニ據ル

第十七條 生徒入校中ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十八條 生徒ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サス

第十九條 生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校歸隊セシム

其一 學術ノ豫習全カラスシテ實際勤務練習ノ識力ニ乏シク卒業ノ目途ナキ者

其二 軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯ス者

其三 品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者

其四 長病ニ依リ卒業ノ目途ナキ者

其五 卒業試験ニ落第セシ者

- 第二十條 生徒中疾病及ヒ其他ノ事故ニ依リ學期內ニ所定ノ學術ヲ修メ得サル者ハ猶滯學ヲ命スルコトアルヘシ
- 第二十一條 校長ハ修學期末ニ於テ生徒ノ卒業試験ヲ施行シ各教官生徒隊長及中隊長ヲ集メ會議ヲ開キ修學ノ成績ヲ調査シ列序ヲ定メ考科表ヲ製シ監軍ニ進達シ其認可ヲ得テ教育課程卒業ノ證書ヲ附與ス
- 第二十二條 滯學ヲ命シタル生徒修學ヲ終レハ前條ニ準シ卒業證書ヲ附與ス
- 第二十三條 毎年生徒ニ凡三週間ノ夏期休暇ヲ與フルコトヲ得
- 第二十四條 教官及中隊長生徒隊附士官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲサシムルコトアルヘシ
- 第二十五條 生徒演習上ノ必要ニ依リ師團各隊ヲ使用スルコトヲ得

朕陸軍中央幼年學校條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年五月十五日

陸軍大臣 侯爵 大山 巖

勅令第二百十二號 (官報 五月十六日)

陸軍中央幼年學校條例

- 第一條 陸軍中央幼年學校ハ生徒ニ概ネ尋常中學校第四年第五年ノ學科ト同一ナル教授並軍人ノ豫備教育ヲ爲シ陸軍各兵科現役士官候補生ト爲スヘキ者ヲ養成スル所トス
- 第二條 生徒ハ陸軍地方幼年學校卒業者ヲ以テ之ニ充ツ

- 第二條 本校ニ生徒隊三中隊ヲ置ク
- 第四條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 校長 大中佐
- 副官 大中尉
- 教授 大中尉
- 馬術教官 大中尉
- 生徒隊中隊長 大尉
- 生徒隊中隊附 中尉
- 軍醫
- 獸醫
- 軍吏

准士官下士陸軍屬及陸軍助教

- 第五條 校長ハ監軍ニ隸シ校務ヲ總理シ生徒教育ノ責ニ任ス
- 第六條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル
- 第七條 教授ハ各學科ノ授業ヲ分擔ス
- 第八條 馬術教官ハ生徒ノ馬術訓練ニ任シ兼テ校庭一切ノ事ヲ統ヘ馬匹ノ調教ヲ掌ル
- 第九條 生徒隊中隊長ハ生徒ノ軍人精神ヲ涵養シ且軍隊内務、服裝、行狀ヲ監視シ生徒訓育ノ責ニ任ス
- 第十條 生徒隊中隊附士官ハ生徒訓育ノ諸科目ヲ分擔シ生徒ノ躬行ニ就テハ日常注意シ分擔ノ訓育ニ就テハ擔保ノ責ニ任ス
- 第十一條 生徒修學期ハ概ネ二箇年トシ之ヲ二學年ニ分ツ

第十二條 生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其課程ハ校長ヲ具シ監軍ノ認可ヲ得テ之ヲ定メ
 第十三條 生徒ハ被服糧食等ノ費用トシテ若干ノ納金ヲナスモノトス其金額ハ別ニ定ムル所ノ規定ニ據ル
 第十四條 生徒中地方幼年學校特待生タリシ者又ハ之ニ準スヘキ者ハ納金ヲ免除スルコトヲ得
 生徒中地方幼年學校ニ於テ納金ヲ半減シタル者又ハ之ニ準スヘキ者ハ納金ヲ半額ニ減スルコトヲ得
 第十五條 生徒ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サス
 第十六條 第二年生徒中學術優等ニシテ品行方正ナル者若干ヲ選抜シテ舎長ヲ命シ特別ノ徽章ヲ附セシムルコトヲ得
 第十七條 生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校セシム
 其一 學術ノ修得全カラス卒業ノ目途ナキ者
 其二 軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯ス者
 其三 品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者
 其四 長病ニ依リ卒業ノ目途ナキ者
 其五 卒業試験ニ落第セシ者
 第十八條 生徒中各學年ニ於テ所定ノ學術ヲ修メ得サル者ト雖モ尙望ミアル者ハ一箇年延期修學セシムルコトヲ得但シ延期ハ全學期ヲ通シテ一回限リトス
 第十九條 生徒中全學期ヲ終ルモ傷痍疾病等ニテ士官候補生トナスヲ得サル者ニハ單ニ教育課程卒業ノ證書ヲ附與シテ退校セシム
 第二十條 前三條ニ該ル者アルトキハ校長事由ヲ悉シ監軍ニ上申シ監軍之ヲ裁定處分ス

第二十一條 校長ハ修學期末ニ於テ生徒ノ卒業試験ヲ施行シ各教官教授及中隊長ヲ集メ會議ヲ開キ修學ノ成績ヲ調査シ列序ヲ定メ考科表ヲ製シ監軍ニ進達シ其認可ヲ得テ教育課程卒業ノ證書ヲ附與ス其學術品行共ニ優等ナルモノハ士官候補生ヲ命スルト同時ニ二等軍曹ノ階級ニ進ムルコトヲ得
 第二十二條 每年生徒ニ凡五週間ノ夏期休暇ヲ與フルコトヲ得
 第二十三條 中隊長及中隊附士官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲナサシムルコトアルヘシ
 附則
 第二十四條 當分ノ内地方幼年學校卒業者本校定員ニ滿タサル時ハ華士族平民中本校生徒志願ノ者ヨリ試験ノ成績ニ依リ採用補缺スルコトヲ得
 第二十五條 本條例第一條第二條第十一條第十三條第十四條第十六條及第二十四條ハ明治三十三年九月一日ヨリ實施ス
 第二十六條 明治三十二年以前召募ノ中央幼年學校生徒ハ其卒業ニ至ル迄左ノ各條ニ據リ取扱フ而シテ之レカ召募ニ就テハ明治三十二年勅令第九十號陸軍幼年學校生徒召募條例ヲ適用ス
 第二十七條 生徒ハ官費半官費自費ノ三種ニ分ツ
 官費生徒ハ一切ノ經費ヲ官給シ且手當金ヲ給ス半官費生徒ハ小被服賄料ノ經費自費生徒ハ被服糧食一切ノ經費ヲ納メシム其金額ハ陸軍大臣之ヲ定ム
 第二十八條 戰死又ハ公務ノ爲メ死亡シタル高等官ノ孤兒ハ官費生徒トス
 第二十九條 前條ノ外官費生徒、半官費生徒、自費生徒ノ區分ハ監軍之ヲ裁定ス
 第三十條 生徒修學期ハ概ネ三箇年トシ其一年期ハ每年九月ニ始メ而シテ第三年ニ在リテハ五月ニ終ル
 第三十一條 第二年生徒中特ニ學術ニ長シ品行方正ニシテ他ノ望標トナル者若干員ヲ選抜シ舎長

ヲ命シ特別ノ徽章ヲ附セシム

朕陸軍地方幼年學校條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年五月十五日

陸軍大臣 侯爵 大山 巖

勅令第二百十三號 (官報五月十六日)

陸軍地方幼年學校條例

- 第一條 陸軍地方幼年學校ハ生徒ニ概ネ尋常中學校第一年乃至第三年ノ學科ト同一ナル教授ヲ爲シ兼テ軍人精神ヲ涵養シ陸軍中央幼年學校生徒ト爲スヘキ者ヲ養成スル所トス
- 第二條 生徒ハ華士族平民中陸軍將校ニ出身志願ノ者ヲ選拔シテ採用ス
- 第三條 陸軍地方幼年學校ハ左ノ六箇所ニ置ク
東京 仙臺 名古屋 大阪 廣島 熊本
- 但東京陸軍地方幼年學校ハ陸軍中央幼年學校ノ附屬トス
- 第四條 陸軍地方幼年學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 少佐大尉
副官 中尉
生徒監 大中尉
教授 軍醫

下士、陸軍屬及陸軍助教

校長以下將校同相當官及下士兵卒ハ豫備後備ノ者ヲ以テ充ツルコトヲ得其身分取扱ハ召集中ノ者ニ同シ

第五條 校長ハ監軍ニ隸シ校務ヲ總理シ生徒教育ノ責ニ任ス

第六條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第七條 教授ハ各學科ノ授業ヲ分擔ス

第八條 生徒監ハ生徒ノ軍人精神ヲ涵養薰陶シ日常其躬行起居動作ヲ監視シ生徒訓育ノ事ニ就テハ專ラ其責ニ任ス

第九條 生徒修學期ハ概ネ三箇年トシ之ヲ三學年ニ分ツ

第十條 生徒教育課程ハ校長案ヲ具シ監軍之ヲ定ム

第十一條 生徒ハ總テ校内ニ寄宿セシメ被服糧食等ノ費用トシテ若干ノ納金ヲナスモノトス其金額ハ別ニ定ムル所ノ規定ニ據ル

第十二條 生徒中戰死者及將校同相當官ノ孤兒ニ對シテハ特ニ前條ノ納金ヲ免除スルコトヲ得之ヲ特待生ト稱ス

生徒中陸海軍士官ノ孤兒ニ對シテハ前條ノ納金ヲ半額ニ減スルコトヲ得

第十三條 第三年生徒中學科優等ニシテ品行方正ナル者若干ヲ選拔シ會長ヲ命シ特別ノ徽章ヲ附セシムルコトヲ得

第十四條 生徒中止ヲ得サル事故ニ依リ退校ヲ願出ツル者アル時ハ其事情ニ依リ退校ヲ許スコトアルヘシ

第十五條 生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校セシム

其一 學術ノ修得全カラス卒業ノ目途ナキ者

其二 屢法則ヲ犯シ又品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者
其三 長病ニ依リ卒業ノ目途ナキ者
其四 卒業試験ニ落第セシ者

第十六條 生徒中各學年ニ於テ所定ノ學科ヲ修メ得サル者ト雖モ尙望ミアル者ハ一箇年延期修學セシムルコトヲ得但延期ハ全學期ヲ通シテ一回限リトス

第十七條 生徒中全學期ヲ終ルモ中央幼年學校ニ入校セシメ得サル者ハ單ニ教育課程卒業ノ證書ヲ附與シテ退校セシム

第十八條 前四條ニ該ル者アルトキハ校長事由ヲ悉シ監軍ニ上申シ其認可ヲ得テ之ヲ處分ス

第十九條 校長ハ修學期末ニ於テ生徒ノ卒業試験及身體檢査ヲ施行シ各教授及生徒監ヲ集メ會議ヲ開キ修學ノ成績ヲ調査シ列序ヲ定メ考科表ヲ製シ身體檢査表ヲ添ヘテ監軍ニ進達シ其認可ヲ得テ教育課程卒業ノ證書ヲ附與ス

第二十條 監軍ハ前條卒業者ニ就キ中央幼年學校へ入學セシムヘキ者ヲ定メテ地方幼年學校長ニ進ス

第二十一條 毎年生徒ニ凡五週間ノ夏期休暇ヲ與フルコトヲ得

附則

第二十二條 本條例ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

朕陸軍幼年學校條例廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年五月十五日

陸軍大臣侯爵大山 巖

勅令第二百十四號(官報五月十六日)

陸軍幼年學校條例ヲ廢止ス

朕陸軍戸山學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年五月十五日

陸軍大臣侯爵大山 巖

勅令第二百十五號(官報五月十六日)

陸軍戸山學校條例

第一條 陸軍戸山學校ハ學生ニ步兵戰術、射擊術、體操、劍術及鼓譜喇叭譜ノ訓練ヲ爲シ且其演習ニ關スル教則ヲ一定ナラシメ常ニ諸科學術ノ原理ヲ研究シ該教育ノ改良進歩ヲ圖ル所トス

第二條 學生ヲ分テ左ノ三種トス
其一 戰術科學生ハ步兵隊ノ士官ヲ分遣セシメテ之ニ充ツ但時トシテ少佐ヲ以テ學生ト爲スコトアルヘシ

步兵隊ノ鼓手長及騎砲工、輜重兵隊ノ喇叭長ヲ分遣セシメテ譜調學生トナシ戰術科ノ附屬トス

其二 射擊科學生ハ步兵隊ノ士官及下士ヲ分遣セシメテ之ニ充ツ但時トシテ騎兵、要塞砲兵、工兵及輜重兵ノ士官及下士ヲ以テ學生トナスコトアルヘシ

其三 體操劍術科學生ハ歩騎砲工、輜重兵隊ノ士官及下士ヲ分遣セシメテ之ニ充ツ

第三條 學生ノ訓練ニ供シ且諸般ノ研究ニ充ツル爲メ本校ニ教導大隊ヲ置キ步兵隊ヨリ下士兵卒

ヲ分遣セシメテ之ヲ編成ス

第四條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 大中佐

副官 大中尉

教官 中少佐大中尉

教導大隊長 中少佐

教導大隊副官 中尉

教導大隊中隊長 大尉

教導大隊附 中尉

軍醫

軍吏

准士官下士及陸軍屬

第五條 校長ハ監軍ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス

第六條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第七條 教官ハ戰術科、射擊科並體操、劍術科、學術ノ授業ヲ分擔シ且其各科ニ於ケル學術ヲ研究關

查シ佐官ノ教官ヲ以テ各科ノ科長トス

第八條 教導大隊ノ大隊長以下ノ服務ハ軍隊内務ノ定則ヲ適用ス

第九條 學生修學期ハ左ノ如シ

其一 戰術科學生ハ概ネ五箇月トシ毎年二回ニ分テ入校セシム

諸調學生ハ概ネ一箇月トシ毎年二回ニ分テ入校セシム

其二 射擊科學生ハ士官ニアリテハ概ネ四箇月下士ニアリテハ概ネ三箇月トシ毎年二回ニ分テ

入校セシム

其三 體操、劍術科學生ハ概ネ五箇月トシ毎年二回ニ分テ入校セシム

第十條 學生ノ人員及入校時日ハ其時々監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十一條 學生分遣ノ告達アレハ隊長ハ修學ニ適當ノ者ヲ選定シ入校期十日前ニ其兵籍寫ニ考科

表寫ヲ添ヘテ戶山學校長ニ送達スヘシ

第十二條 學生士官ハ校外ニ同下士ハ校内ニ居住セシメ修學ニ所要ノ兵器、彈藥、書籍、器具、消耗品ハ

貸與又ハ支給スルコトアルヘシ但下士學生ハ武器被服、器具ヲ携帯セシム

第十三條 學生中ノ願屆其他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十四條 學生ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サスト雖モ病氣其他ノ事故ニ依リ學術修得ノ

第十五條 校長ハ修學期末ニ於テ各教官ヲ集メテ會議ヲ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ士官ニアリ

テハ修得證明書ヲ作り署名捺印シ下士ニアリテハ考科列序ヲ定メ師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長

ニ交付シ下士ニハ更ニ學術修業ノ證書ヲ附與ス

又修學ノ成績ヲ監軍ニ報告ス

第十六條 教導大隊ニ分遣ノ下士兵卒ハ現役尙一箇年以上ノ期アル軍曹及兵卒中ヨリ選拔セシム

第十七條 教導大隊ニ分遣ノ下士及兵卒ハ武器被服、器具ヲ携帯セシメ分遣中ハ特別ノ徽章ヲ附セ

シム

第十八條 教官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲナサシムルコトアルヘシ

第十九條 演習上ノ必要ニ依リ砲工學校、校馬ヲ使用スルコトヲ得

朕陸軍教導團條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年五月十五日

陸軍大臣 侯爵 大山 巖

勅令第二百十六號(官報五月十六日)

陸軍教導團條例

第一條 陸軍教導團ハ生徒ニ步兵、騎兵、砲兵、野戰工兵、輜重兵科下士タルニ必要ナル教育ヲ爲ス所トス

第二條 生徒ハ華士族平民中步兵、騎兵、砲兵、野戰工兵、輜重兵科下士ニ出身志願ノ者ヲ選抜シテ採用ス

第三條 本團ニ步兵、騎兵、砲兵、工兵及輜重兵ノ生徒隊各一隊ヲ置ク

第四條 本團ニ左ノ職員ヲ置ク

團長 大中佐

副官 大中尉

生徒隊長 少佐

生徒隊副官 中尉

生徒隊中隊長 大尉

生徒隊附 中尉

病院長 二等軍醫正

軍醫

藥劑官

獸醫

軍吏

准士官下士及陸軍屬

第五條 團長ハ監軍ニ隸シ國務ヲ總理シ生徒教育ノ責ニ任ス

第六條 副官ハ團中一般ノ庶務ヲ掌ル

第七條 各生徒隊長ハ其隊生徒ノ教育ヲ掌リ其成績ニ就テハ責ニ任ス而シテ騎兵、砲兵、工兵及輜重兵生徒ノ教育上各科専門ノ事ニ關シテハ當該兵監ノ區處ヲ受ク

第八條 生徒隊副官ハ隊中一般ノ庶務ヲ掌ル

第九條 生徒隊中隊長ハ其中隊生徒學術ノ教育ニ任シ生徒ヲシテ諸勤務ニ熟セシメ且軍隊内務服裝行狀ヲ監視ス

第十條 生徒隊附士官ハ生徒隊又ハ所屬中隊ニ在テ生徒教育ノ諸科目ヲ分擔シ生徒ノ躬行ニ就テハ日常注意シ分擔ノ教育ニ就テハ擔保ノ責ニ任ス

第十一條 生徒修學期ハ步兵科ハ概ネ十四箇月騎兵及輜重兵科ハ概ネ十六箇月砲兵及工兵科ハ概ネ十八箇月トス

第十二條 生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其課程ハ團長案ヲ具シ監軍ノ認可ヲ得テ之ヲ定ム

第十三條 毎年採用スヘキ生徒ノ人員ハ其時々陸軍大臣之ヲ定メ監軍ニ移ス

第十四條 生徒ノ諸給與ハ別ニ定ムル所ノ規定ニ據ル

第十五條 生徒ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退團スルヲ許サス

第十六條 生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退團セシム

其一 學術ノ修得全カラズ卒業ノ目途ナキ者

其一 軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯ス者
 其二 品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者
 其四 長病ニ依リ卒業ノ目途ナキ者
 其五 卒業試験ニ落第セシ者
 第十七條 團長ハ修學期末ニ於テ生徒ノ卒業試験ヲ施行シ及第者ニハ教育課程卒業ノ證書ヲ附與ス
 第十八條 生徒中疾病事故ニ依リ卒業試験ヲ受ケサル者又ハ卒業試験ニ落第スルモ尙ホ望ミアル者ハ若干日間滯學セシムルコトアルヘシ
 第十九條 滯學ヲ命シタル生徒修學ヲ終レハ第十七條ニ準シ卒業證書ヲ附與ス
 第二十條 中隊長及生徒隊附士官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲナサシムルコトアルヘシ

○
 朕陸軍乘馬學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年五月十五日

陸軍大臣 侯爵 大山 巖

勅令第二百十七號 (官報五月十六日)

陸軍乘馬學校條例

第一條 陸軍乘馬學校ハ學生ニ馬術ノ訓練ヲ爲シ馬學ヲ習修セシムル所トス
 第二條 學生ハ騎兵科士官及下士ヲ以テ之ニ充テ騎兵隊ヨリ分遣セシム但時トシテ野戰砲兵及輜重兵ノ士官及下士ヲ以テ學生トナスコトアルヘシ

第三條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 校長 大中佐
- 副官 大中尉
- 教官 少佐 大中尉
- 殿長 大尉
- 調馬手長 中少尉
- 軍醫
- 獸醫
- 軍吏
- 下士、陸軍屬及陸軍技手

第四條 校長ハ騎兵監ニ隸シ校務ヲ總理シ學生教育ノ責ニ任ス

第五條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第六條 教官ハ各學術科ノ授業ヲ分擔ス

第七條 殿長ハ校庭一切ノ事ヲ統ヘ馬匹ノ調教ニ任ス

第八條 調馬手長ハ殿長ニ隸シ馬匹ノ調教ヲ掌ル

第九條 學生修學期ハ概ネ十箇月トス

第十條 學生ノ人員及入校時日ハ其時々監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十一條 學生分遣ノ告達アレハ隊長ハ修學ニ適當ノ者ヲ選定シ入校期十日前ニ其兵籍寫ニ考科表寫ヲ添ヘテ乘馬學校長ニ送達スヘシ

第十二條 學生士官ハ校外ニ同下士ハ校内ニ居住セシメ修學ニ所要ノ兵器馬匹馬具書籍器具消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ但下士學生ハ武器被服器具ヲ携帶セシム

- 第十三條 學生ノ願居其他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス
- 第十四條 學生ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サスト雖モ病氣其他ノ事故ニ依リ學術修得ノ自途ナキ者ハ退校歸隊セシム
- 第十五條 校長ハ修學期末ニ於テ各教官ヲ集メテ會議ヲ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ士官ニアリテハ修得證明書ヲ作り署名捺印シ下士ニアリテハ考科列序ヲ定メ師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ交附シ下士ニハ更ニ學術修業ノ證書ヲ附與ス
- 又修學ノ成績ヲ騎兵監ニ報告ス
- 第十六條 教官ハ學生教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲナサシムルコトアルヘシ

朕陸軍野戰砲兵射擊學校條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年五月十五日

陸軍大臣 侯爵 大山 巖

勅令第二百十八號(官報五月十六日)

陸軍野戰砲兵射擊學校條例

- 第一條 陸軍野戰砲兵射擊學校ハ學生ニ野戰砲兵ノ射擊術及用法ノ訓練ヲ爲シ且其演習ニ關スル教則ヲ一定ナラシメ常ニ野戰砲兵ノ射擊術及戰術ヲ研究シ該教育ノ改良進歩ヲ圖ル所トス
- 第二條 學生ハ砲兵大尉ヲ以テ之ニ充テ野戰砲兵隊ヨリ分遣セシム但時トシテ少佐ヲ以テ學生トナスコトアルヘシ
- 第三條 學生ノ訓練ニ供シ且諸般ノ研究ニ充ツル爲メ本校ニ教導大隊ヲ置キ野戰砲兵隊ヨリ下士

兵卒ヲ分遣セシメテ之ヲ編成ス

第四條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 校長 大佐
- 副官 大尉
- 教官 少佐 大尉
- 教導大隊長 少佐
- 教導大隊副官 中尉
- 教導大隊中隊長 大尉
- 教導大隊附 中尉
- 軍醫
- 獸醫
- 軍吏

准士官 下士及陸軍屬

- 第五條 校長ハ野戰砲兵監ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス
- 第六條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル
- 第七條 教官ハ各學術科ノ授業ヲ分擔シ且野戰砲兵ニ關スル學術ヲ研究調査ス
- 第八條 教導大隊ノ大隊長以下ノ服務ハ軍隊内務ノ定則ヲ適用ス
- 第九條 學生修學期ハ概ネ三箇月トシ毎年二回ニ分テ入校セシム
- 第十條 學生ノ人員及入校時日ハ其時々監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス
- 第十一條 學生分遣ノ告達アレハ隊長ハ修學ニ適當ノ者ヲ選定シ入校期十日前ニ其兵籍寫ニ考科表寫ヲ添ヘテ野戰砲兵射擊學校長ニ送達スヘシ

第十二條 學生ハ校外ニ居住セシメ修學ニ所要ノ兵器彈藥馬匹馬具書籍器具消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ

第十三條 學生中ノ願居其他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十四條 學生ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サスト雖モ病氣其他ノ事故ニ依リ學術修得ノ目途ナキ者ハ退校歸隊セシム

第十五條 校長ハ修學期末ニ於テ各教官ヲ策メテ會議ヲ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ修得證明書ヲ作り署名捺印シ師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ交付ス

又修學ノ成績ヲ野戰砲兵監ニ報告ス

第十六條 教導大隊ニ分遣ノ下士兵卒ハ現役尙一箇年以上ノ期アル軍曹及兵卒中ヨリ選抜セシム

第十七條 教導大隊ニ分遣ノ下士及兵卒ハ武器被服裝具ヲ携帶セシメ分遣中ハ特別ノ徽章ヲ附セシム

第十八條 教官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲナサシムルコトアルヘシ

朕陸軍砲兵射的學校條例廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年五月十五日

陸軍大臣 侯爵 大山 巖

勅令第二百十九號 (官報 五月十六日)
陸軍砲兵射的學校條例ヲ廢止ス

朕陸軍要塞砲兵射擊學校條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年五月十五日

陸軍大臣 侯爵 大山 巖

勅令第二百二十號 (官報 五月十六日)

陸軍要塞砲兵射擊學校條例

第一條 陸軍要塞砲兵射擊學校ハ學生ニ要塞砲兵ノ射擊術及用法ノ訓練ヲ爲シ且其演習ニ關スル
教則ヲ一定ナラシメ常ニ要塞砲兵ノ射擊術及戰術ヲ研究シ該教育ノ改良進歩ヲ圖リ又生徒ニ要
塞砲兵下士タルニ必要ナル教育ヲ爲ス所トス

第二條 學生ハ砲兵大中尉及下士ヲ以テ之ニ充テ要塞砲兵隊ヨリ分遣セシム但時トシテ少佐ヲ以
テ學生トナスコトアルヘシ又生徒ハ華士族平民中要塞砲兵下士ニ出身志願ノ者ヲ選抜シテ採用
ス

第三條 本校ニ生徒隊一隊ヲ置キ又學生ノ訓練ニ供シ且諸般ノ研究ニ充ツル爲メ教導中隊ヲ置キ
要塞砲兵隊ヨリ兵卒ヲ分遣セシメテ之ヲ編成ス

第四條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 校長 大中佐
- 副官 大中尉
- 教官 少佐 大中尉
- 生徒隊長 少佐
- 生徒隊中隊長 大尉
- 生徒隊附 中尉

教導中隊長 大尉

教導中隊附 中尉

軍醫

軍吏

准士官下士及陸軍屬

第五條 校長ハ要塞砲兵監ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス

第六條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第七條 教官ハ各學術科ノ授業ヲ分擔シ要塞砲兵ニ關スル學術ヲ研究調査ス

第八條 生徒隊長ハ生徒隊一般ノ事ヲ管理シ生徒教育ノ責ニ任ス

第九條 生徒隊中隊長ハ其中隊生徒學術ノ教育ニ任シ生徒ヲシテ諸勤務ニ熟セシメ且軍隊内務

服裝行狀ヲ監視ス

第十條 生徒隊附士官ハ所屬中隊ニ在テ生徒教育ノ諸科目ヲ分擔シ生徒ノ躬行ニ就テハ日常注意

ノ分擔ノ教育ニ就テハ擔保ノ責ニ任ス

第十一條 教導中隊ノ中隊長以下ノ服務ハ軍隊内務ノ定則ヲ適用ス

第十二條 學生修學期ハ概ネ四箇月トシ毎年二回ニ分テ入校セシム

第十三條 學生ノ人員及入校時日ハ其時々監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十四條 學生分遣ノ告達アレハ隊長ハ修學ニ適當ノ者ヲ選定シ入校期十日前提ニ其兵籍寫ニ考科

表寫ヲ添ヘテ要塞砲兵射擊學校長ニ送達スヘシ

第十五條 學生士官ハ校外ニ同下士ハ校内ニ居住セシメ修學ニ所要ノ兵器彈藥書籍器具消耗品ハ

貸與又ハ支給スルコトアルヘシ但下士學生ハ武器被服裝具ヲ携帯セシム

第十六條 學生中ノ願屆其他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十七條 學生ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サスト雖トモ病氣其他ノ事故ニ依リ學術修得

ノ目途ナキ者ハ退校歸隊セシム

第十八條 校長ハ修學期末ニ於テ各教官ヲ集メテ會議ヲ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ士官ニアリ

テハ修得證明書ヲ作り署名捺印シ下士ニアリテハ考科列序ヲ定メ師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長

ニ交付シ下士ニハ更ニ學術修業ノ證書ヲ附與ス

又修學ノ成績ヲ要塞砲兵監ニ報告ス

第十九條 生徒修學期ハ概ネ十八箇月トス

第二十條 生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其課程ハ校長案ヲ具シ要塞砲兵監ヲ經テ監軍ニ

進達シ其認可ヲ得テ之ヲ定ム

第二十一條 毎年採用スヘキ生徒ノ人員ハ其時々陸軍大臣之ヲ定メ監軍ニ移ス

第二十二條 生徒ノ諸給與ハ別ニ定ムル所ノ規定ニ據ル

第二十三條 生徒ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サス

第二十四條 生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校セシム

其一 學術ノ修得全カラス卒業ノ目途ナキ者

其二 軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯ス者

其三 品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者

其四 長病ニ依リ卒業ノ目途ナキ者

其五 卒業試験ニ落第セシ者

第二十五條 校長ハ修學期末ニ於テ生徒ノ卒業試験ヲ施行シ及第者ニハ教育課程卒業ノ證書ヲ附

與ス

第二十六條 生徒中疾病事故ニ依リ卒業試験ヲ受ケサル者又ハ卒業試験ニ落第スルモ尙ホ望ミテ

ル者ハ若干日間滯學セシムルコトアルヘシ

第二十七條 滯學ヲ命シタル生徒修學ヲ終レハ第二十五條ニ準シ卒業證書ヲ附與ス

第二十八條 教導中隊ニ分遣ノ兵卒ハ現役尙一箇年以上ノ期アル者中ヨリ選抜セシム

第二十九條 教導中隊ニ分遣ノ兵卒ハ武器被服器具ヲ携帶セシメ分遣中ハ特別ノ徽章ヲ附セシム

第三十條 教官及中隊長生徒隊附士官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲナサシムルコトアルヘシ

朕要塞砲兵幹部練習所條例廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年五月十五日

陸軍大臣 侯爵 大山 巖

勅令第二百二十一號 (官報 五月十六日)

朕陸軍將校生徒試驗委員會條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年五月十五日

陸軍大臣 侯爵 大山 巖

勅令第二百二十二號 (官報 五月十六日)

陸軍將校生徒試驗委員會條例

- 第一條 陸軍將校生徒試驗委員會ハ將校生徒ノ召募試驗ニ任スルモノニシテ之ヲ分テ常置委員及臨時委員ノ二トス
- 第二條 常置委員ハ士官候補生、中央幼年學校生徒、地方幼年學校生徒及一年志願兵志願者ノ召募試驗格立ニ試験問題ヲ起案シ且士官候補生及中央幼年學校生徒召募試驗ノ成績ヲ調査スルモノニシテ其組織左ノ如シ
- 委員長 少將 大佐
- 委員 中少佐 大尉 並同相當官
- 第三條 常置委員長及委員ハ他ニ本職アルモノヲ以テ之ニ兼補ス
- 第四條 常置委員長ハ監軍ニ隸シ委員ヲ統督シ試験ノ事ニ關シテハ監軍ニ對シ責ニ任ス
- 第五條 常置委員ハ委員長ノ下ニアリテ各試験事務ヲ分擔ス
- 第六條 監軍ハ特ニ委員中ノ若干名ニ命シ試験ニ關スル常務ヲ取扱ハシムルコトヲ得
- 第七條 監軍ハ試験ノ時期ニ際シ常置委員ノ外將校同相當官陸軍教授以下ニ命シ試験ノ事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得
- 第八條 臨時委員ハ各試験場ニ就キ試験ヲ實施スルモノニシテ其都度師團長部下ノ佐官及大尉中ヨリ所要ノ人員ヲ選シテ之ヲ命スルモノトス
- 第九條 師團長ハ試験實施ノ事ニ關シテハ監軍ニ對シ責ニ任ス

朕陸軍經理學校條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十九年五月 勅令 第二百二十三號

御名 御璽

明治二十九年五月十五日

陸軍大臣 侯爵 大山 巖

勅令第二百二十三號 (官報 五月十六日)

陸軍經理學校條例

- 第一條 陸軍經理學校ハ 陸軍監督補、陸軍軍吏及陸軍總工下長靴工下長ト爲スヘキ者ヲ養成スル所トス
- 監督補ト爲スヘキ者ヲ監督學生、軍吏ト爲スヘキ者ヲ軍吏學生、總工下長靴工下長ト爲スヘキ者ヲ生徒ト稱ス
- 第二條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク
 - 校長 一、二等監督
 - 副官 一、二等軍吏
 - 軍醫 一等軍醫
 - 教官 參謀中少佐、騎兵大尉二、三等監督、醫補一、二等軍吏、陸軍教授、陸軍技師
- 第三條 前條ニ掲クル職員ノ外下士屬及教員トシテ雇員並傭人ヲ置ク
- 第四條 校長ハ 陸軍省經理局長ニ隸シ 校務ヲ總理シ 學生及生徒教育ノ責ニ任シ 軍吏學生及生徒入學試験ニ係ル事ヲ掌ル
- 第五條 副官ハ 校中一般ノ庶務ヲ掌ル
- 第六條 軍醫ハ 衛生事務ヲ擔任ス
- 第七條 教官ノ内參謀官ハ 監督學生、軍吏ハ 軍吏學生、教員ハ 生徒ノ教授ヲ擔任シ 其他ノ教官ハ 各學生及生徒ノ教授ヲ分擔ス

第八條 監督學生ハ 各兵科大尉一等軍吏及實役停年二箇年以上ノ各兵科中尉二等軍吏ノ志願者ニシテ 試験ニ合格シタル者ヲ選抜シテ 採用ス 但陸軍大學校卒業ノ者ハ 試験ヲ行ハス

前項ノ停年ヲ算スルハ 七月一日ヲ以テス

第九條 監督學生志願者ハ 六月三十日迄ニ 願書ヲ 聯隊長又ハ 所屬長官ニ 出スヘシ 聯隊長又ハ 所屬長官ハ 之ヲ 調査シ 其ノ 願書ニ 自己ノ 意見書及 考科表寫ヲ 添ヘ 順序ヲ 經テ 之ヲ 所屬長官ニ 呈ス 所屬長官ハ 七月三十一日迄ニ 之ヲ 經理局長ニ 送附スヘシ 但軍吏ヨリ 志願スル者ノ 願書ハ 聯隊長又ハ 所屬長官ヨリ 當該監督部長ニ 送附シ 監督部長ハ 之ヲ 調査シ 自己ノ 意見書及 考科表寫ヲ 添ヘ 經理局長ニ 呈スヘシ

陸軍省及陸軍省經理局所屬官衙ノ 軍吏ヨリ 志願スル者ノ 願書ハ 所屬長官ヨリ 經理局第一課長ニ 移シ 同課長前項但書ノ 取扱ヲ 爲スヘシ

第十條 經理局長ハ 前條ノ 書類ヲ 審査シ 受験者名簿ヲ 製シ 陸軍大臣ニ 進達ス

第十一條 陸軍大臣ハ 監督學生志願者ノ 學力ヲ 檢定スル 爲メ 監督學生試驗委員ヲ 設ケ 經理局長ヲ 委員長ト 爲シ 筆記及口述ノ 試験ヲ 行ハシム

第十二條 筆記試験ハ 陸軍大臣其ノ 時日ヲ 定メ 試驗委員長ヲ シテ 受験者名簿及 祕封問題ヲ 所屬長官ニ 送附セシム 所屬長官ハ 志願者ヲ 集メ 次席ノ 將校同相當官ノ 監視ヲ 以テ 之カ 答解ヲ 筆記セシム

第十三條 試驗委員長ハ 筆記試験ノ 成績ニ 依リ 口述試験ヲ 受クヘキ者ヲ 定メ 陸軍大臣ノ 認可ヲ 請ケ 之ヲ 各所屬長官ニ 通知ス 所屬長官ハ 其ノ 受験者ヲ 經理局ニ 派遣ス

第十四條 口述試験ハ 學力應用ノ 如何ヲ 檢定スル 爲メ 口述試驗委員之ヲ 行フ

第十五條 試驗委員長ハ 筆記口述兩試験ノ 成績ニ 依リ 監督學生ニ 採用スヘキ者ヲ 定メ 陸軍大臣ニ 上申ス 陸軍大臣ハ 之ヲ 裁定シ 經理學校監督學生ヲ 命ス

第十六條 軍吏學生ハ現役歩騎砲工輜重兵特務曹長及一箇年以上現官ニアル現役各兵科曹長一等書記ノ志願者ニシテ試験ニ合格シタル者ヲ選抜シテ採用ス

第十七條 軍吏學生志願者ハ五月三十一日迄ニ願書ヲ聯隊長又ハ所屬長官ニ出スヘシ聯隊長又ハ所屬長官ハ之ヲ調査シ其ノ願書ニ考科表寫ヲ添ヘ之ヲ當該監督部長ニ送附スヘシ但陸軍省及陸軍省經理局所屬官衙ノ書記ヨリ志願スル者ノ願書ハ經理局第一課長ニ送附スヘシ

第十八條 經理局第一課長及各監督部長ハ前條ノ書類ヲ審査シ受験者名簿ヲ製シ六月三十日迄ニ經理局長ニ進達ス經理局長ハ之ヲ經理學校長ニ下附ス

第十九條 軍吏學生採用試験ハ經理局長其ノ時日ヲ定メ經理學校長ヲシテ試験問題ヲ作り之ヲ經理局第一課長及各監督部長ニ送附セシム經理局第一課長及各監督部長ハ試験委員ヲ設ケ試験ヲ施行ス

監督部所在地外ニアル者ハ監督部長ヨリ試験施行ヲ本人ノ所屬長官ニ依託スルコトヲ得

第二十條 經理局第一課長及各監督部長ハ前條試験ノ答解書ヲ審査シ優等者ノ答解書ニ得點表及受験者ニ係ル自己ノ意見書ヲ添ヘ經理局長ニ呈ス經理局長ハ之ヲ經理學校長ニ下附ス

第二十一條 經理學校長ハ前條ノ書類ヲ審査シ優劣人名簿ヲ製シ之ニ自己ノ意見書ヲ添ヘ經理局長ニ呈ス經理局長ハ之ヲ審査シ陸軍大臣ノ認可ヲ請ケテ軍吏學生ニ採用スヘキ者ヲ定メ各其所屬長官ニ通知ス所屬長官ハ本人ニ經理學校軍吏學生ヲ命ス但經理局所屬官衙ノ者ハ經理局長之ヲ命ス

第二十二條 生徒ハ現役豫備役後備役ノ兵卒ヨリ採用ス

第二十三條 各學生及生徒ノ人員入校時日及其採用ニ關スル規定ハ陸軍大臣之ヲ定メ告達ス

第二十四條 各學生及生徒入學ノ告達アレハ聯隊長、直屬長官、聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ本人ノ兵籍寫ヲ經理局長ハ監督學生ノ考科表寫ヲ經理學校長ニ送附スヘシ

第二十五條 修學期ハ監督學生ハ概ネ二箇年、軍吏學生及生徒ハ概ネ一箇年半トス

第二十六條 各學生ハ校外ニ生徒ハ校内ニ居住セシメ修學ニ所要ノ書籍器具及消耗品ハ貸與又ハ支給ス

豫備役後備役ノ籍ニアル生徒ニハ被服糧食及手當金ヲ支給ス

第二十七條 各學生及生徒ノ名籍ハ原所管ニ存置シ願屆其他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第二十八條 各學生及生徒ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サス

第二十九條 校長ハ期ヲ定メテ各學生及生徒ノ試験ヲ施行シ其終末試験ヲ終レハ其ノ成績ヲ審査シ列序ヲ定メ考科表ヲ製シ經理局長ニ進達シ其認可ヲ請ケテ卒業證書ヲ附與シ原所管ニ復歸セシム

第三十條 校長ハ各學生及生徒中傷痍疾病ノ爲メ終末試験ヲ受クルコト能ハサル者アルトキハ詮議ノ上尙若干月間修學ヲ許シ又ハ特ニ本人ノ爲メニ試験ヲ施行スルコトアルヘシ

第三十一條 各學生中疾病其他ノ事故ニテ卒業ノ目途無キ者ハ退校ノ上原所管ニ復歸セシム

第三十二條 生徒中左ノ事項ノ一ニ該ル者ハ退校ヲ命シ現所管ニ復歸セシム

其一 學術ノ修得全カラスシテ卒業ノ目途ナキ者

其二 軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯ス者

其三 品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者

其四 自己ノ不攝生ヨリ發病シ久シク休業スル者

其五 長病ニ罹リ卒業ノ目途ナキ者

其六 終末試験ニ落第セシ者

第三十二條 校長ハ生徒中優等ノ者ハ學期未滿ト雖モ臨時試験ヲ施行シ經理局長ノ認可ヲ請ケテ卒業證書ヲ附與スルコトヲ得

前項ノ者ハ時宜ニ依リ第二十五條ノ學期中教員ノ助手ニ充ツルコトヲ得

第三十四條 第三十一條第三十二條ニ該ル者アルトキハ校長ハ事由ヲ悉シ經理局長ニ上申シ其認可ヲ請ケテ退校ヲ命ス

附則

第三十五條 明治二十二年勅令第二百六十五號陸軍經理學校條例同年勅令第二十號陸軍被服工長學舍條例ハ本條例施行ノ日ヨリ廢止ス但明治二十九年三月三十一日以前入校及入舎ノ監督講習生軍吏學生及工長學生ニハ從前ノ規定ヲ適用ス

第三十六條 各學生及生徒ハ修學期ハ補充上ノ都合ニ依リ當分ノ内短縮スルコトヲ得

朕明治二十八年十月十九日丁抹國ヨベンハーゲンニ於テ朕カ全權委員ト丁抹國全權委員ノ記名調印シタル通商航海條約ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年五月十六日(官報 五月十八日)

內閣總理大臣侯爵伊藤博文
外務大臣伯爵陸奥宗光

通商航海條約

日本國皇帝陛下及丁抹國皇帝陛下ハ兩國臣民ノ交際ヲ皇張増進シ以テ幸ニ兩國間ニ存在スル所ノ厚禮ヲ維持セムコトヲ欲シ而シテ此ノ目的ヲ達セムニハ從來兩國間ニ存在スル所ノ條約ヲ改正ス

ハニ如カサルヲ確信シ公正ノ主義ト相互ノ利益ヲ基礎トシ其ノ改正ヲ完了スルコトニ決定シ之カ爲メニ日本國皇帝陛下ハ丁抹國駐劄帝國辦理公使正五位勳五等赤羽四郎ヲ丁抹國皇帝陛下ハ其ノ侍從內閣總理大臣兼外務大臣ダネブロク勳章ノ「コンマンドル」ダネブロクスマンドル「キエルド」ト「ル」ダグ、キグト、男爵「レール」ス、トウトヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ良好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ諸條ヲ協議決定セリ

第一條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖内何レノ所ニ到リ、旅行シ或ハ居住スルモ全ク隨意タルヘク而シテ其ノ身體及財產ニ對シテハ完全ナル保護ヲ享受スヘシ

該臣民ハ其ノ權利ヲ伸張シ及防護セムカ爲メ自由ニ且容易ニ裁判所ニ訴出ルコトヲ得、又該裁判所ニ於テ其ノ權利ヲ伸張シ及防護スルニ付内國臣民ト同様ニ代言人、辯護人及代人ヲ選擇シ且使用スルコトヲ得、而シテ右ノ外司法取扱ニ關スル各般ノ事項ニ關シテ内國臣民ノ享有スル總テノ權利及特典ヲ享有スヘシ

住居權旅行權及各種動産ノ所有遺囑又ハ其ノ他ノ方法ニ因ル所ノ動産ノ相續並ニ合法ニ得ル所ノ各種財產ヲ如何ニ處分スルコトニ關シ兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖内ニ在リテ内國臣民若ハ最惠國ノ臣民或ハ人民ト同様ノ特典、自由及權利ヲ享有シ且此等ノ事項ニ關シテハ内國臣民若ハ最惠國ノ臣民或ハ人民ニ比シテ多額ノ税金若ハ賦課金ヲ徵收セラル、コトナカルヘシ

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ良心ニ關シ完全ナル自由、及法律、勅令及規則ニ從テ公私ノ禮拜ヲ行フノ權利、並ニ其ノ宗教上ノ慣習ニ從ヒ埋葬ノ爲メ設置保存セラル、所ノ適當便宜ノ地ニ自國人ヲ埋葬スルノ權利ヲ享有スヘシ

何等ノ名義ヲ以テスルモ該臣民ヲシテ内國臣民若ハ最惠國ノ臣民或ハ人民ノ納ムル所若ハ將來納ムル所ニ異ナルカ又六之ヨリ多額ノ取立金若ハ租稅ヲ納メシムルヲ得ス

兩締盟國ノ一方ノ臣民ニシテ他ノ一方ノ版圖内ニ住居スル者ハ陸軍、海軍、護國軍、民兵等ニ論ナク
總テ強迫兵役ヲ免カレ且其ノ服役ノ代リトシテ取立ル所ノ一切ノ納金ヲ免カレ又一切ノ強募公債
及軍事上ノ賦歛或ハ捐資ヲ免カルヘシ

第二條

兩締盟國ノ間ニハ相互ニ通商及航海ノ自由アルヘシ
兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖内何レノ所ニ於テモ總テ正業ニ屬スル各種ノ生産物、製
造品及貨物ノ卸賣若ハ小賣營業ニ従事スルヲ得ヘシ右營業ニ従事スルニ於テ自身ニ之ヲ爲シ、或
ハ代理人ヲ以テシ、又ハ一人ニテ之ヲ爲シ、或ハ外國人若ハ内國臣民ト組合ヲ結ビテ之ヲ爲スモ隨
意タルヘク又家屋、倉庫ヲ所有シ或ハ之ヲ借受ケ又ハ使用シ且住居及商業ノ爲メニ土地ヲ借受ケ
ルコトヲ得、但シ内國臣民ト同様其ノ國ノ法律、警察規則及稅關規則ヲ遵守スルヲ要ス
該臣民ハ他ノ一方ノ版圖内ノ各地、諸港及諸河ニシテ外國通商ノ爲メ開カレ又ハ開カルヘキ場所
ヘ船舶及貨物ヲ以テ自由ニ到ルヲ得且通商及航海ニ關シテハ政府、官吏、公吏、一人或ハ會社若ハ
何等施設ノ名義ヲ以テスルカ又ハ其ノ利益ノ爲メニ課セラル、所ノ稅金或ハ取立金ハ其ノ性質若
ハ名稱ノ如何ヲ論セス内國臣民ノ拂フ所ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノモノヲ拂フコトナク内國臣
民ト同一ノ取扱ヲ受クヘキモノトス、但シ本條及前條ノ規定ハ兩締盟國ノ各方ニ於テ商業、警察及
公安ニ關シ現ニ行ハル、特別ノ法律勅令及規則ニハ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ

第三條

兩締盟國ノ一方ノ臣民カ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ住居若ハ商業ノ爲メニ供スル家宅、倉庫、店舗及
之ニ屬スル總テノ附屬構造物ハ侵スヘカラス
右家宅等ヘハ限ニ侵入搜索スヘカラス又帳簿、書類或ハ簿記帳ヲ検査點閱スヘカラス但シ内國臣
民ニ對シ法律、勅令及規則ヲ以テ制定セル條件及定式ニ據ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條

日本國皇帝陛下ノ版圖内ノ生産或ハ製造ニ係ル物品ヲ何レノ地ヨリ丁抹國皇帝陛下ノ版圖内ニ輸
入シ又丁抹國皇帝陛下ノ版圖内ノ生産或ハ製造ニ係ル物品ヲ何レノ地ヨリ日本國皇帝陛下ノ版圖
内ニ輸入スルニモ總テ別國ノ生産或ハ製造ニ係ル物品ニ課スル所ノ稅ニ異ナルカ或ハ之ヨ
リ多額ノ稅ヲ課セラル、コトナカルヘシ又締盟國ノ一方ノ版圖内ニ於テ他ノ各外國ニ向ヒ物品ノ輸
出ヲ禁止スルニ非サレ
品ノ輸入ヲ禁止スルニ非サレハ他ノ一方ノ版圖内ノ生産或ハ製造ニ係ル物品ヲ何レノ地ヨ
リ輸入スルコトヲモ禁止スルコトナカルヘシ
但シ此ノ未段ノ取極ハ人、畜或ハ農業ニ有用ナル植物ノ安全ヲ保護スルニ必要ナル衛生上及其ノ
他ノ禁止ニハ適用スヘカラサルモノトス

第五條

兩締盟國ノ一方ノ版圖内ヨリ他ノ一方ノ版圖内ヘ輸出スル一切ノ物品ヘハ他ノ各外國ヘ輸出スル
同種物品ニ對シ賦課シ若ハ賦課スヘキ所ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノ稅金又ハ雜費ヲ賦課スルコ
トナカルヘシ又兩締盟國ノ一方ノ版圖内ニ於テ他ノ各外國ニ向ヒ物品ノ輸出ヲ禁止スルニ非サレ
ハ他ノ一方ノ版圖内ヘ同種ノ物品ヲ輸出スルコトヲモ禁止セサルヘシ

第六條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖内ニ在リテ總テノ内地通關稅ハ免除セララルヘク又倉入、
獎勵金、便益及稅金拂戻等ノ事項ニ就テハ内國臣民ト均等ノ取扱ヲ享クヘシ

第七條

日本國皇帝陛下ノ版圖内ノ諸港ヘ日本國ノ船舶ヲ以テ適法ニ輸入シ若ハ輸入セラルヘキ物品ハ亦
丁抹國ノ船舶ヲ以テ同様ニ之ヲ右諸港ニ輸入スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ日本國船舶カ右様ノ
物品ヲ輸入スルトキ課スヘキ稅金或ハ雜費ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ更ニ別種或ハ多額ノ稅金

雜費等ヲ課セサルヘシ又丁抹國皇帝陛下ノ版圖内ノ諸港ヘテ抹國ノ船舶ヲ以テ適法ニ輸入シ若ハ輸入セラルヘキ物品ハ亦日本國ノ船舶ヲ以テ同様ニ之ヲ右諸港ヘ輸入スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ丁抹國船舶方右標ノ物品ヲ輸入スルトキ課スヘキ税金或ハ雜費ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ更ニ別種或ハ多額ノ税金雜費等ヲ課セサルヘシ右相互對等ノ取扱ハ右物品ノ直ニ原產地ヨリ到ルト其ノ他ノ場所ヨリ到ルトト問ハス必ス之ヲ施スヘキモノトス

輸出ニ關シテモ前項ノ場合ト同様全ク均等ノ取扱ヲ施スヘシ故ニ締盟國ノ一方ヨリ適法ニ輸出シ若ハ輸出セラルヘキ物品ハ其ノ輸出ノ日本國船舶ニ依ルト丁抹國船舶ニ依ルトニ拘ハラヌ又其ノ仕向先ノ締盟國ノ一港タルト第三國ノ一港タルトト問ハス締盟國ノ版圖内ニ於テハ之ニ課スルニ同一ノ輸出稅ヲ以テシ又之ニ許スニ同一ノ獎勵金並ニ税金拂戻ノコトヲ以テスヘシ

第八條

政府、官吏、公吏、一人、會社若ハ何等施設ノ名義ヲ以テスルカ又ハ其ノ利益ノ爲メニ課セラル、所ノ噸稅、港稅、水先案内料、燈臺稅、檢渡費其ノ他之ト同様ノ税金ハ其ノ性質並ニ名義ノ如何ニ拘ハラヌ同一ノ條件ヲ以テ同様ノ場合ニ於テ内國船舶一般若ハ最惠國船舶ニ課スルモノニ非サレハ兩締盟國ノ一方ハ其ノ版圖内ノ港ニ於テ之ヲ他ノ一方ノ船舶ニ課セサルヘシ此ノ如キ均等ノ取扱ハ兩國ノ船舶カ何レノ地或ハ港ヨリ來リ又何レノ所ニ往クモノタリトモ相互同一タルヘキモノトス

第九條

兩締盟國ノ一方ノ版圖内ノ海港、海灣、船渠、川河或ハ其ノ他ノ碇泊所ニ於テ船舶ノ緊留又貨物ノ船積、船卸ニ關スル一切ノ事項ニ就テハ内國船舶ニ許與セサル特典ハ均シク他ノ一方ノ締盟國ノ船舶ニモ許與セサルヘシ但シ本件ニ關シテモ亦兩締盟國ノ目的ハ兩國ノ船舶ニ對シ互ニ全ク均等ノ取扱ヲ施スニ在ルモノトス

第十條

兩締盟國ノ沿海貿易ハ本條約ニ於テ規定スルノ限ニ在ラス各其ノ法律、勅令及規則ニ從ヒ之ヲ規定スヘキモノトス然レトモ日本國皇帝陛下ノ版圖内ニ於ケル丁抹國臣民又ハ丁抹國皇帝陛下ノ版圖内ニ於ケル日本國臣民ハ此ノ事項ニ關シテハ各右法律、勅令及規則ヲ以テ他ノ外國臣民或ハ人民ニ許與シ若ハ許與セラルヘキ諸權利ヲ享有スルモノトス

丁抹國皇帝陛下ノ版圖内ノ二箇以上ノ港ヘ仕向ケタル荷物ヲ外國ニ於テ積載シタル日本國船舶及日本國皇帝陛下ノ版圖内ノ二箇以上ノ港ヘ仕向ケタル荷物ヲ外國ニ於テ積載シタル丁抹國船舶ハ外國貿易ヲ許サレタル仕向港ノ一ニ於テ其ノ積荷ノ一部ヲ陸揚シ而シテ其ノ最初ニ積載シタル荷物ノ剩餘ヲ陸揚スル爲メ他ノ一港若ハ數港ヘ進航スルコトヲ得ヘシ但シ常ニ兩國ノ法律及稅關規則ニ從フヘキモノトス

但シ日本國政府ハ本條約ノ期限間是迄ノ通り丁抹國船舶カ帝國ノ現開港場間ニ積荷ヲ運搬スルコトヲ許スコトヲ承諾ス尤大阪、新潟及夷港ハ此ノ限ニ在ラス

第十一條

兩締盟國ノ一方ノ軍艦或ハ商船ニシテ暴風又ハ其ノ他ノ危難ニ遭遇シ避難ノ爲メ已ムヲ得ヌ他ノ一方ノ海港ニ進入スルモノハ内國船舶ノ拂フヘキ税金ノ外何等ノ税金ヲ拂フコトナク其ノ港ニ於テ更ニ機裝ヲ爲シ一切ノ需用品ヲ求メ再ヒ航行スルヲ得ヘシ但シ商船ノ船長ニシテ其ノ費用ヲ支辨スル爲メ其ノ積荷ノ一部ヲ賣却スルヲ要スル場合ニハ該船長ハ其ノ寄港地ノ規則及稅目ヲ遵守スヘキモノトス

兩締盟國ノ一方ノ軍艦或ハ商船ニシテ他ノ一方ノ沿岸ニ於テ淺瀬ニ乗上ケ或ハ難破シタルトキハ地方官ヨリ其ノ事件ノ生シタル地方ニ在ル所ノ總領事、領事、副領事又ハ代辦領事ヘ其ノ旨ヲ通知スヘシ但シ若其ノ地方ニ領事官ノ駐在セサルトキハ最近地方ノ總領事、領事、副領事又ハ代辦領事

通知スヘシ

日本國皇帝陛下ノ領海ニテ難破シ若ハ海岸ニ乗上ケタル丁抹國船舶ノ救助ニ關スル一切ノ手續ハ日本國法律、勅令及規則ニ從テ之ヲ爲スヘク又相互ノ主義ニ基キ丁抹國皇帝陛下ノ領海ニテ難破シ若ハ海岸ニ乗上ケタル日本國船舶ニ關スル一切救助ノ處分ハ丁抹國法律、勅令及規則ニ從テ之ヲ爲スヘシ

右難破若ハ乗上ケタル船舶竝ニ其ノ器具及其ノ他一切ノ附屬品及該船舶ヨリ救上ケタル貨物竝ニ商品及右等ノ諸物件ニシテ海中ニ投棄セラレタルモノ又ハ之ヲ賣却シタルトキハ其ノ收得金竝ニ該難破船内ニ發見セラレタル一切ノ書類ハ右船舶ノ持主或ハ代理人ヨリ要求スルトキハ之ニ引渡スヘシ右持主或ハ代理人ノ現場ニ在ラサルトキハ内國法律ニ定メタル期限内ニ當該總領事、領事、副領事或ハ代辦領事ヨリ請求アレハ之ヲ引渡スヘシ而シテ右領事官、持主或ハ代理人ハ内國船舶難破ノ場合ニ於テ拂フヘキ所ノ物品保存費竝ニ難破救助費及其ノ他ノ費用ノミヲ拂フヘキモノトス

難破船ヨリ救上ケタル貨物及商品ハ消費ノ爲メニ通關手續ヲ爲スモノニ非サレハ一切ノ關稅ヲ免除スヘシ但シ消費ノ爲メニ賣捌ク場合ニハ普通ノ關稅ヲ納ムルヲ要スルモノトス
兩締盟國ノ一方ノ臣民ニ屬スル船舶ニシテ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ淺瀬ニ乗上ケ或ハ難破シタルトキ其ノ持主、船長若ハ持主代理人不在ノ場合ニハ當該總領事、領事、副領事若ハ代辦領事ハ其ノ自國臣民ニ必要ノ補助ヲ與フル爲メ職權上ノ助力ヲ爲スヲ許サルヘキモノトス 此ノ規定ハ持主、船長若ハ他ノ代理人現ニ其ノ場ニ在ルトキト雖モ右様ノ補助ヲ與フルヲ請求スル場合ニハ亦適用スヘキモノトス

第十二條

本條約ニ於テハ日本國ノ國法ニ從ヒ日本國船舶ト見做サルヘキ一切ノ船舶ハ之ヲ日本國船舶ト見

認メ又丁抹國ノ國法ニ從ヒ丁抹國船舶ト見做サルヘキ一切ノ船舶ハ之ヲ丁抹國船舶ト見認ムヘシ

第十三條

若締盟國ノ一方ニ屬スル軍艦或ハ商船ノ海員ニシテ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ脱船スル者アルニ際シ右船舶所屬國ノ領事又ハ其ノ代理人ヨリ其ノ捕獲引渡ノコトヲ地方官ニ依頼スルトキハ該地方官ハ其ノ權力ノ及フ限該脱船人ヲ捕獲シ且之ヲ引渡ス爲メ助力ヲ爲スヲ要スルモノトス 但シ海員カ其ノ各自ノ所屬國ニ於テ脱船シタルトキハ此ノ規定ヲ適用セサルモノト知ルヘシ

第十四條

兩締盟國ハ其ノ一方ノ通商及航海ヲ他ノ一方ニ於テ總テ最惠國ノ基礎ニ置ク主意ヲ有スルニ因リ通商及航海ニ關スル一切ノ事項ニ關シ其ノ一方ヨリ別國ノ政府、船舶、臣民或ハ人民ニ現ニ許與シ或ハ將來許與スヘキ一切ノ特典、殊遇若ハ免除ハ他ノ一方ノ政府、船舶、臣民ニモ即時ニ且條件ヲ附セシテ之ヲ許與スヘキコトヲ兩締盟國ニ於テ約定ス

第十五條

兩締盟國ノ一方ハ他ノ一方ノ海港、都府及其ノ他ノ場所ニ總領事、領事、副領事、領事代及代辦領事ヲ置クコトヲ得ヘシ但シ領事官ノ駐在ヲ認許スルニ便宜ナラサル場所ハ此ノ限ニ在ラス 然レトモ右ノ制限ハ他ノ諸外國ニ對シ之ヲ適用スルニ非サレハ一方ノ締盟國ニ對シテ之ヲ適用スルヲ得サルモノトス

總領事、領事、副領事、領事代及代辦領事ハ一切ノ職務ヲ執行スルコトヲ得且其ノ在留國ニ於テ最惠國ノ領事官ニ現ニ許與シ或ハ將來許與セラルヘキ一切ノ特典、特權及免除ハ總テ之ヲ享有スヘキモノトス

第十六條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ法律ニ定ムル所ノ手續ヲ履行スルトキハ專賣特許商標及意匠ニ關シ内國臣民ト同一ノ保護ヲ受クヘシ

第十七條

本條約ノ規定ハ丁抹王國「フハロー」島及「アイスランド」島ニ適用スヘク又第一條第二條第三條第十條第十一條第十二條第十三條第十五條第十六條第十七條第十八條第十九條及第二十條ハ丁抹國領西印度諸島ニモ適用スヘシ

第十八條

本條約ハ其ノ實施ノ日ヨリ兩締盟國間ニ現存スル慶應二年十二月七日即千八百六十七年一月十二日締結ノ修好通商及航海條約並副條約及之ニ附屬スル一切ノ諸約定ニ代ハルヘキモノトス而シテ該條約及諸約定ハ右期日ヨリ總テ無効ニ歸シ隨テ丁抹國カ日本帝國ニ於テ執行シタル裁判權及該權ニ屬シ又ハ其ノ一部トシテ丁抹國臣民カ享有セシ所ノ特典、特權及免除ハ本條約實施ノ日ヨリ別ニ通知ヲナサス全然消滅ニ歸シタルモノトス而シテ此等ノ裁判管轄權ハ本條約實施後ニ於テハ日本帝國裁判所ニ於テ之ヲ執行スヘシ

第十九條

本條約ハ明治三十二年七月十六日即千八百九十九年七月十六日迄ハ實施セラレサルモノトス而シテ日本帝國政府ニ於テ本條約ヲ實施セムト欲スル旨ヲ丁抹國政府ニ通知シタル後一箇年ヲ經ルニ非サレハ實施セラレサルモノトス尤此ノ通知ハ明治三十一年七月十六日即千八百九十八年七月十六日以後ハ何時ニテモ爲スコトヲ得ヘシ
又本條約ハ其ノ實施ノ日ヨリ十二箇年間效力ヲ有スルモノトス
兩締盟國ノ一方ハ本條約實施ノ日ヨリ十一箇年ヲ經過シタル後ハ何時タリトモ本條約ヲ終了セムト欲スル旨ヲ他ノ一方ニ通知スルノ權利ヲ有スヘシ而シテ此ノ通知ヲ爲シタル後十二箇月ヲ經過

シタルトキハ本條約ハ消滅ニ歸スヘキモノトス

第二十條

本條約ハ兩締盟國ニ於テ之ヲ批准シ其ノ批准ハ本條約調印後八箇月以内ニ「コペンハーゲン」ニ於テ交換スヘシ

右證據トシテ兩國全權委員ハ之ニ記名調印スルモノナリ

明治二十八年十月十九日即耶蘇紀元千八百九十五年十月十九日「コペンハーゲン」ニ於テ二通ヲ作ル

赤羽 四郎 印

レーツス、トウト 印

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本國皇帝(御名)此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス
朕帝國ト丁抹國トノ交際ヲ永久親睦ナラシメムコトヲ欲シ明治二十八年十月十九日「コペンハーゲン」ニ於テ兩國全權委員ノ記名調印シタル通商航海條約ノ各條目ヲ親シク閱覽檢査シタルニ善ク朕ノ意ニ適シ間然スル所ナキヲ以テ右條約ヲ嘉納批准ス
神武天皇即位紀元二千五百五十六年明治二十九年二月二十二日東京宮城ニ於テ親カラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名 國璽

外務大臣臨時代理

文部大臣侯爵西園寺公望

議定書

日本國皇帝陛下ノ政府及丁抹國皇帝陛下ノ政府ハ本日調印セシ通商航海條約ノ外ニ雙方ニ關スル特別ノ事項ヲ規定スルコト兩國ノ利益上便宜ナルヲ以テ雙方ノ全權委員ハ左ノ約定ニ同意セリ

第一 兩締盟國ニ於テハ本日調印シタル通商航海條約批准交換後一箇月ノ後ハ丁抹國臣民カ日本國ニ輸入スル貨物及商品ニ關シ現今日本國ニ於テ實施スル所ノ輸入税目ハ無効ニ歸スヘキモノタルコトニ同意ス而シテ右税目ノ無効ニ歸シタル後ハ日本國ニ輸入スル丁抹國ノ領地及所屬地ノ生産若ハ製造ニ係ル貨物又ハ商品ニ對シテハ其ノ時現ニ行ハル、所ノ日本國普通關稅則ヲ適用スヘシ但シ目下兩締盟國間ニ現存スル慶應二年十二月七日即千八百六十七年一月十二日ノ條約ノ有效ナル間ハ其ノ第十九條ノ規定ニ準據シ又右條約ノ無効ニ歸シタル後ハ本日調印シタル條約第四條及十四條ノ規定ニ準據スヘキモノトス然レトモ日本國政府ニ於テ純真ナラサル藥材、製藥、食物若ハ飲料、猥褻ノ印刷物、圖畫、書籍、紙牌、石版若ハ其ノ他ノ彫刻畫、寫真及其ノ他總テ猥褻ノ物品、日本帝國ノ專賣特許、商標及版權ニ關スル法律ニ違背スル物品又ハ其ノ他衛生、公安若ハ風俗ニ關シ危害ヲ生スヘキ物品ノ輸入ヲ制限シ若ハ禁止スルノ權利ハ本議定書ノ爲メ制限セラレ、コトナカルヘキモノトス

第二 丁抹國政府ハ本日調印シタル通商航海條約實施ノ日ヨリ各外國人居留地ヲ全ク其ノ所在ノ日本市區ニ編入シ而シテ日本地方組織ノ一部ヲ爲シ當該官廳ハ之ニ關シテ其ノ地方施政上ノ責任及義務ヲ悉皆負擔シ又之ト同時ニ右外國人居留地ニ屬スル共有資金及財產ハ右日本官廳ヘ引渡スヘキコトヲ承諾ス

第三 日本國政府ハ丁抹國臣民ニ對シ内國ヲ開ク迄ハ現行ノ旅券方法ヲ擴張スルコトニ同意ス即丁抹國臣民カ在東京同國公使若ハ日本國開港場ニ駐在スル丁抹國領事官ヨリノ紹介證書ヲ所持シテ出願スルニ於テハ十二箇月以内ノ期限間何レノ地ヘモ到ルコトヲ得ヘキ旅券ヲ東京外務省若ハ開港場所在地方長官ヨリ交付スヘシ但シ帝國ノ内地ニ旅行スル丁抹國臣民ニ關スル

ル現行規定ハ之ヲ保續スヘキモノト知ルヘシ

第四 本議定書ハ本日調印シタル通商航海條約ト同時ニ兩締盟國政府ニ提供スヘシ而シテ右條約批准セラレ、トキハ本議定書ニ掲載スル所ノ諸約定モ別ニ正式ノ批准ヲ要セスシテ亦兩締盟國政府ノ可認セシモノト看做スヘキコトヲ約ス又本議定書ハ前記條約ノ無効ニ歸スルト同時ニ終了スヘキコトヲ約ス

右證據トシテ兩國全權委員ハ之ニ記名調印スルモノナリ

明治二十八年十月十九日即耶穌紀元千八百九十五年十月十九日「コペンハーゲン」ニ於テニ通ヲ作ル

赤羽 四郎 印
レイツス、トウト 印

朕血清藥院ニ顧問ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年五月十八日

勅令第二百二十四號（官報五月十九日）

血清藥院ニ顧問一人ヲ置キ俸給豫算定額内ニ於テ手當ヲ給スルコトヲ得

顧問ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

内閣總理大臣 侯爵伊藤博文
内務大臣 伯爵板垣退助

朕海軍監獄官官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年五月十八日

内閣總理大臣 侯爵伊藤博文
海軍大臣 侯爵西郷從道

勅令第二百二十五號(官報五月十九日)

明治二十六年勅令第四十三號海軍監獄官官制別表海軍監獄官官等俸給表中海軍監獄看守ノ部「四級俸月俸七圓」ノ七字ヲ削ル

朕文部省直轄諸學校官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年五月十八日

内閣總理大臣 侯爵伊藤博文
文部大臣 侯爵西園寺公望

勅令第二百二十六號(官報五月十九日)

明治二十六年勅令第八十六號第一條中東京美術學校ノ次へ「大阪工業學校」ノ六字ヲ加フ

(參照)

勅令第八十六號文部省直轄諸學校官制(明治二十六年八月二十五日官報)抄録
第一條第一項

文部省直轄諸學校ハ高等師範學校女子高等師範學校高等商業學校第一高等學校第二高等學校第三高等學校第四高等學校
第五高等學校東京工業學校東京美術學校及東京音樂學校トス

朕明治二十六年勅令第八十七號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年五月十八日

内閣總理大臣 侯爵伊藤博文
文部大臣 侯爵西園寺公望

勅令第二百二十七號(官報五月十九日)

文部省直轄諸學校職員定員ニ關スル明治二十六年勅令第八十七號第一條中左ノ通改正ス
高等師範學校ノ部

教授 本校十五人ヲ十八人ニ改ム

助教授 本校三人ヲ四人ニ改ム

附屬音樂學校四人ヲ六人ニ改ム

教授 三人ヲ四人ニ改ム

訓導 十二人ヲ十三人ニ改ム

東京工業學校ノ部

教授 十八人ヲ二十一人ニ改ム

助教授 二十二人ヲ三十人ニ改ム

東京美術學校ノ部

教授 十一人ヲ十五人ニ改ム

助教授 十三人ヲ二十一人ニ改ム

東京美術學校ノ次へ左ノ如ク加フ

大阪工業學校

校長 一人

教授 七八
助教授 十四人
書記 四人

朕臨時海軍建築部官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年五月二十二日

内閣總理大臣侯爵伊藤博文
海軍大臣侯爵西郷從道

勅令第二百二十八號(官報五月二十三日)

臨時海軍建築部官制

- 第一條 臨時海軍建築部ヲ東京ニ置キ其ノ支部ヲ舞鶴ニ置ク
- 第二條 臨時海軍建築部ハ海軍大臣ノ監督ニ屬シ左ノ事項ヲ掌ル
 - 一 新ニ設置スヘキ鎮守府ニ屬スル建築工事竝ニ其ノ計畫、契約及監督
 - 二 新ニ設置スヘキ鎮守府ニ屬スル諸機械ノ購買及其ノ据附
 - 三 既設鎮守府ニ屬スル建築ノ計畫及其ノ工事ノ監視竝ニ其ノ契約ノ審査
- 第三條 臨時海軍建築部ニ左ノ職員ヲ置ク
 - 部長 海軍將官
 - 部員 海軍上長官、士官及技師

第四條 支部ニ左ノ職員ヲ置ク

- 支部長 海軍大佐
- 支部員 海軍上長官、士官及技師
- 第五條 部長ハ海軍大臣ノ命ヲ承ケ部務ヲ統理ス
- 第六條 部員ハ部長ノ命ヲ承ケ部務ヲ分掌ス
- 第七條 支部長ハ部長ノ命ヲ承ケ支部ノ事務及工事ヲ管理ス
- 第八條 支部員ハ支部長ノ命ヲ承ケ支部ノ事務及工事ヲ分掌ス
- 第九條 第三條及第四條ニ掲クル職員ノ外海軍下士卒及判任文官ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム
- 第十條 臨時海軍建築部ノ定員ハ別表定ムル所ニ依ル

(別表)

臨時海軍建築部定員表

部		長	
部	員	部	員
		海軍將官	
		海軍佐官	
		海軍大尉	
		海軍主計大監若クハ主計少監	
		海軍大主計	
		海軍造船大監若クハ造船少監	
		海軍造船大技士	
		海軍造兵大監若クハ造兵少監	
		海軍造兵大技士	
		海軍技師	
		番	記
		技	師
		九	六

御名 御璽

明治二十九年五月二十五日

海軍大臣 侯爵西郷從道
陸軍大臣 侯爵大山 巖
內務大臣 伯爵板垣退助
司法大臣 芳川顯正
拓殖務大臣 子爵高島綱之助

勅令第二百三十一號 (官報五月二十六日)
憲兵條例

第一章 總則

- 第一條 憲兵ハ陸軍兵ノ一ニシテ陸軍大臣ノ管轄ニ屬シ軍事警察、行政警察、司法警察ヲ掌ル其ノ戰時若クハ事變ニ際シ特ニ要スル服務ノ規程ハ別ニ之ヲ定ム
- 第二條 憲兵ノ職掌軍事警察ニ係ルモノハ陸軍大臣及海軍大臣ニ隸シ行政警察ニ係ルモノハ內務大臣ニ隸シ司法警察ニ係ルモノハ司法大臣ニ隸ス但北海道ノ行政警察ニ係ルモノハ拓殖務大臣ニ隸ス
- 第三條 憲兵ハ行政警察、司法警察ニ係ル事件ニ付警視總監、北海道廳長官、府縣知事、東京府及檢事ノ指示ヲ承ク
- 第四條 憲兵ハ其ノ職務上ニ關シ正當ノ職權ヲ有スル者ヨリ要求アルトキハ直ニ之ニ應スヘシ
- 第五條 憲兵ハ左ニ記載スル場合ニアラサレハ兵器ヲ用ウルコトヲ得ス
 - 一 暴行ヲ受クルトキ
 - 二 其ノ占守スル土地若クハ委託セラレタル場所又ハ入ヲ防衛スルニ兵力ヲ用ウルノ外他ニ手

段ナキトキ又ハ兵力ヲ以テセサレハ抗抵ニ勝ツ能ハサルトキ
第六條 必要ノ場合ニ際シ內務大臣、陸軍大臣、拓殖務大臣協議シテ憲兵ヲ一時其ノ管區外ニ分派スルコトヲ得

第二章 配置編制

- 第七條 東京ニ憲兵司令部ヲ置キ各管區ニ憲兵隊ヲ配置ス
憲兵管區ハ別表ニ依ル
- 第八條 各府縣廳所在地及北海道樞要ノ地ニ漸次憲兵分隊ヲ置ク其ノ管轄區域ヲ憲兵警察區トス
- 第九條 憲兵警察區ヲ數箇ノ憲兵巡察區ニ分畫シ各巡察區ニ憲兵一伍若クハ數伍ヲ配置ス
- 第十條 憲兵警察區ノ區域ハ府縣ハ其ノ區域ニ從ヒ北海道ニ在テハ陸軍大臣拓殖務大臣協議シテ之ヲ定メ憲兵巡察區ハ憲兵隊長ヨリ警視總監、北海道廳長官、府縣知事、東京府ニ協議シテ之ヲ定ム
- 第十一條 憲兵司令部ノ職員左ノ如シ
憲兵司令官 少將若クハ憲兵大佐
副官 憲兵少佐、憲兵大中尉
軍吏
書記 憲兵下士、軍吏部下士若クハ屬
- 第十二條 憲兵隊ノ職員左ノ如シ
本部 憲兵中少佐
隊長 憲兵大中尉
副官

軍吏

下副官(准士官)

憲兵曹長

書記

憲兵下士若クハ軍吏部下士

分隊

分隊長

憲兵大中尉

分隊副長

憲兵中尉

書記

憲兵下士

上等伍長(准士官)

伍長

憲兵曹長

憲兵上等兵

分隊副長及上等伍長ハ之ヲ置カサルコトヲ得

第十三條 憲兵上等兵五名乃至十二名ヲ以テ一伍トシ數伍ヲ以テ一分隊トシ數分隊ヲ以テ一隊ト爲ス

時宜ニ依リ一伍中ノ若干名ヲ乘馬兵ト爲ス

第十四條 憲兵隊ハ番號ヲ附シ憲兵分隊ハ府縣名北海道ニ在テハ分ヲ冠ス

第三章 職務

第十五條 憲兵司令官ハ全國ノ憲兵隊ヲ統轄シ司令部ノ事務ヲ總理ス

第十六條 憲兵司令官非常若クハ緊要ノ事件アルコトヲ知リタルトキハ速ニ内務大臣、陸軍大臣、海軍大臣、司法大臣、拓殖務大臣ニ申報スヘシ

第十七條 憲兵司令官ハ軍紀、風紀、訓練、教育及職務履行ノ程度ヲ檢閲スル爲メ必要ト認ムル時機

ニ於テ各憲兵隊ヲ巡視シ其ノ景況ヲ陸軍大臣ニ申報スヘシ

第十八條 憲兵隊長ハ各分隊ヲ統轄シ其ノ勤務方法ヲ指定シ隊中ノ事務ヲ總理ス

第十九條 憲兵隊長ハ管區内ノ情勢ヲ審ニシ非常若クハ緊要ノ事件アルコトヲ知リタルトキハ速ニ憲兵司令官ニ申報シ且其ノ事件ノ必要ニ依リ衛戍司令官、要塞司令官、鎮守府司令官、要港部司令官、北海道廳長官及管轄控訴院檢察事長ニ申報スヘシ

第二十條 憲兵分隊長ハ部下ヲ指揮監督シ其ノ勤務方法ヲ指定シ分隊ノ事務ヲ處理ス又警察區内ノ情勢ヲ審ニシ非常若クハ緊要ノ事件アルコトヲ知リタルトキハ警視總監、府縣知事東京府及管轄地方裁判所檢察正及憲兵隊長ニ申報シ且其ノ事件ノ必要ニ依リ直ニ衛戍司令官、要塞司令官、鎮守府司令官、要港部司令官ニ申報スヘシ

第二十一條 憲兵分隊長ハ常ニ警部長其ノ他警察署長ト交互謀報シ其ノ地方ノ情況ヲ知悉スヘシ

第二十二條 憲兵分隊副長ハ分隊ノ一部ヲ指揮ス其ノ職掌分隊長ニ亞ク

第二十三條 憲兵上等伍長及伍長ハ憲兵上等兵ノ勤務ヲ指示監督シ且巡察區内ヲ巡視シ其ノ事情ヲ知悉スヘシ又必要ノ事件ハ常ニ其ノ地方警察官ト相互謀報スヘシ

第二十四條 憲兵上等兵ハ常ニ巡察區内ヲ巡視シ其ノ事情ヲ審ニスヘシ

第二十五條 憲兵ノ勤務諸報告等ニ係ル細則ハ各主管大臣之ヲ定ム

附則

第二十六條 當分ノ内憲兵少尉ヲ以テ分隊長若クハ分隊副長ノ職ニ充ツルコトヲ得

第二十七條 明治二十八年勅令第九十五號憲兵條例第四章及第五章ハ更ニ補充及服役ニ關スル規程ヲ設クル迄仍其ノ效力ヲ有ス

(別表)

憲兵管區表

管區名	區	城
管憲第一區	東京府	神奈川縣
管憲第二區	栃木縣	長野縣
管憲第三區	宮城縣	新潟縣
管憲第四區	山形縣	青森縣
管憲第五區	愛知縣	石川縣
管憲第六區	福井縣	三重縣
管憲第七區	大阪府	兵庫縣
管憲第八區	奈良縣	京都府
管憲第九區	廣島縣	山口縣
管憲第十區	德島縣	高知縣
管憲第十一區	熊本縣	鹿兒島縣
管憲第十二區	大分縣	宮崎縣
管憲第十三區	長崎縣	佐賀縣
管憲第十四區	沖繩縣	
管憲第十五區	北海道	

〔參照〕

明治二十八年七月四日勅令第九十五號憲兵條例第四章ハ補充第五章ハ服役ニ關スル規定ナリ

朕臺灣憲兵隊條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年五月二十五日

陸軍大臣 侯爵 大山 巖
拓殖務大臣 子爵 高島 鞆之助

勅令第二百三十二號(官報五月二十六日)

臺灣憲兵隊條例

第一條 臺灣憲兵ハ陸軍兵ノ一ニシテ陸軍大臣ノ管轄ニ屬シ臺灣總督之ヲ統率シ總督府管下ニ於ケル軍事警察、行政警察及司法警察ノ事務ヲ執行セシム其ノ他特ニ要スル服務ノ規程ハ臺灣總督之ヲ定ム

第二條 憲兵ノ職掌軍事警察ニ係ルモノハ臺灣總督府軍務局長ニ隸シ行政警察及司法警察ニ係ル

モノハ臺灣總督府民政局長ニ隸ス

第三條 臺灣憲兵隊ノ職員左ノ如シ

憲兵隊本部

司令官

憲兵大佐

副官

憲兵大尉及中尉

軍醫

獸醫

軍吏

下副官(准士官)

憲兵曹長

書記

憲兵下士及軍吏部下士

蹄鐵工長若クハ蹄鐵工下長

明治二十九年五月 勅令 第二百三十二號

看護長	
憲兵區隊長	
隊長	憲兵少佐
副官	憲兵大尉及中尉
軍醫	
獸醫	
軍吏	
下副官(准士官)	憲兵曹長
書記	憲兵下士及軍吏部下士
蹄鐵工長若クハ蹄鐵工下長	
看護長	
鞍工	
銃工	
靴工	
分隊	
分隊長	憲兵大尉
分隊副長	憲兵中尉
軍醫	
上等伍長(准士官)	憲兵曹長
伍長	憲兵下士
書記	憲兵下士及軍吏部下士

憲兵上等兵	
看護長	
蹄鐵工	
看病人	
憲兵區隊長 副官 分隊長 分隊副長	豫備後備ノモノヲ以テ充ツルコトヲ得其ノ身分取扱ハ召集中ノモノニ同シ
第四條	臺灣憲兵隊本部ハ臺灣總督府ノ所在地ニ之ヲ置キ各守備管區ニ憲兵區隊ヲ配置ス其ノ管轄區域ハ守備管區ノ區域ニ依ル之ヲ憲兵管區トス
第五條	憲兵管區ノ要地ニ憲兵分隊ヲ置キ其ノ管轄區域ヲ憲兵警察區トス但必要ニ應シ憲兵分隊ノ一部ヲ分駐セシメ其ノ管轄區域ヲ憲兵警察區ト爲スコトヲ得
第六條	憲兵管區ハ區隊ノ番號ヲ冠シ憲兵警察區ハ分隊又ハ分隊ノ一部分駐スル所在地ノ地名ヲ冠ス
第七條	各憲兵警察區ハ其ノ必要ニ應シ數箇ノ巡察區ニ分チ各巡察區ニハ憲兵一伍若クハ數伍ヲ配置ス
一伍ハ伍長一名憲兵上等兵六名乃至十二名ヲ以テ編組ス伍ハ其ノ必要ニ應シ伍長ヲ増加シ又之ニ乘馬ヲ附ス	
第八條	憲兵警察區ハ總督之ヲ定メ憲兵巡察區ハ憲兵區隊長之ヲ定ム
第九條	總督ニ於テ必要ト認ムルトキハ憲兵ヲ管區外ニ使用スルコトヲ得
第十條	伍若クハ二伍以上ノ憲兵ハ必要ニ應シ分隊副長、上等伍長若クハ高級ノ伍長ヲシテ其ノ指揮ヲ掌ラシム
第十一條	憲兵ハ行政警察及司法警察ニ就キ其ノ管轄區域内ニ在ル縣知事、島司、支廳長及法院檢

察官ノ指示ヲ承ク

第十二條 憲兵ハ其ノ地方ノ守備ニ就テハ其ノ管轄區域内ニアル旅團長又ハ守備隊長ノ指揮ヲ承クヘキモノトス

第十三條 憲兵ハ其ノ職務上ニ關シ正當ノ職權ヲ有スル者ヨリ要求アルトキハ直ニ之ニ應スヘシ

第十四條 憲兵ハ特別ノ命令ヲ受クルニアラサレハ左ニ記載スル場合ノ外兵器ヲ用ウルコトヲ得ス

一 暴行ヲ受クルトキ

二 其ノ占守スル所ノ土地若クハ委託セラレタル場所又ハ人ヲ防衛スルニ兵力ヲ用ウルノ外他ニ手段ナキトキ又ハ兵力ヲ以テセサレハ抗抵ニ勝ツ能ハサルトキ

第十五條 憲兵司令官ハ各憲兵區隊ヲ統轄シ本部ノ事務ヲ總理ス

第十六條 憲兵司令官非常若クハ緊要ノ事件アルコトヲ知りタルトキハ速ニ軍務局長、民政局長ヲ經テ總督ニ申報スヘシ

第十七條 憲兵司令官ハ軍紀、風紀、訓練、教育、職務履行ノ程度ヲ檢閲スル爲メ必要ト認ムル時機ニ於テ各憲兵區隊ヲ巡視シ其ノ景況ヲ軍務局長ヲ經テ總督ニ申報スヘシ

第十八條 憲兵區隊長ハ各分隊ヲ統轄シ其ノ勤務ノ方法ヲ指定シ隊中ノ事務ヲ總理ス

第十九條 憲兵區隊長ハ地方ノ情勢ヲ審ニシ非常若クハ緊要ノ事件アルコトヲ知りタルトキハ速ニ憲兵司令官ニ申報シ且其ノ事件ノ必要ニ依リ管轄區域内ノ旅團長、縣知事、法院檢察官ニ申報シ鄰接憲兵區隊長ニ通報スヘシ

第二十條 憲兵分隊長ハ警察區内ノ情勢ヲ審ニシ部下ヲ指揮シ分隊ノ事務ヲ總理ス又區内ノ島司、支廳長及鄰接分隊長ト相互謀報スヘシ

憲兵分隊長非常若クハ緊要ノ事件アルコトヲ知りタルトキハ速ニ警察區内ノ守備隊長、島司、支

廳長、法院檢察官及管轄憲兵區隊長ニ申報シ鄰接分隊長ニ通報スヘシ

第二十一條 憲兵分隊副長一ノ警察區ニ分駐ヲ命セラレタルトキハ分隊長ト同一ノ職務ニ服ス但其ノ分隊長ノ統轄ヲ離ルルコトナシ

憲兵分隊副長分隊長ノ許ニアルトキハ分隊長ヲ補佐シ分隊内ノ事務ヲ處理ス

第二十二條 憲兵上等伍長、伍長ハ憲兵上等兵ノ勤務ヲ指示監督シ且巡察區内ヲ巡視シ其ノ事情ヲ審ニスヘシ

第二十三條 憲兵上等兵ハ常ニ巡察區内ヲ巡察シ其ノ事情ヲ審ニスヘシ

第二十四條 憲兵ノ勤務諸報告等ニ係ル細則ハ總督之ヲ定ム

朕海軍省官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年五月二十六日

内閣總理大臣 侯爵伊藤博文
海軍大臣 侯爵西鄉從道

勅令第二百三十三號 (官報 五月二十七日)

海軍省官制中左ノ通改正ス

第三條中「海軍士官ヲ海軍上長官若クハ士官ニ改ム」

第五條 海軍省ニ專任參事官一人ヲ置ク

海軍省ニ書記官ヲ置カス

第十一條中「一人ヲ二人ニ各局四人ヲ軍務局八人經理局六人ニ改ム」

第十三條中海軍上等兵曹三人ヲ四人ニ屬五十四人ヲ六十四人ニ按手十八人ヲ十三人ニ改ム

(參照)

勅令第三十六號海軍省官制(明治二十六年五月二十日官報)抄録

第三條 海軍大臣秘書官ハ二人トシ一人ハ主事ヲ以テ之ヲ兼シシメ一人ハ海軍士官ヲ以テ之ニ補ス海軍大臣ニ專屬シテ機密事務ヲ掌リ又命ヲ受ケ海軍大臣官房ノ事務ヲ助ク

第五條 海軍省ニ參事官掛札官ヲ置カス

第十一條 人事課及各局中各課ニ課長ノ命ヲ受ケ課務ニ従事セシム人事課ノ課長ハ一人ヲ定員トシ海軍少佐若クハ海軍士官ヲ以テ之ニ補ス各局ノ課長ハ海軍少佐若クハ相當官海軍士官又ハ主理ヲ以テ之ニ補ス但事務課長ハ各局四人ヲ以テ定員トス

第十三條 海軍省ニ海軍上等兵曹三人海軍上等機關兵曹一人海軍船匠師一人屬五十四人按手十八人餘事一人ヲ置キ海軍大臣官房各局課ニ分屬シテ上官ノ命ヲ受ケ事務ニ服セシム餘事ハ東京軍法會議勤務ノ者ヲ以テ兼務セシム

朕農商務省ニ於テ隨意契約ニ依リ馬匹ノ購入及貸渡ヲ爲スノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年五月二十九日

農商務大臣子爵榎本武揚

勅令第二百三十四號(官報五月三十日)

農商務省ニ於テ馬匹改良ニ要スル馬匹ノ購入及貸渡ヲ爲ストキハ隨意ノ契約ニ依ルコトヲ得

朕河川ニ關スル行政監督ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年六月二日

内務大臣伯爵板垣退助

勅令第二百三十五號(官報六月三日)

第一條 河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ郡市町村村組合又ハ水利組合ノ行政廳ニ於テ執行スル河川行政及府縣知事ノ命シ又ハ許可シタル事項ニ關シテハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第二條 左ニ掲グル事項及其ノ變更、停止又ハ廢止ハ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス但河川ニ影響スルコト小ニシテ内務大臣ニ於テ命令ヲ以テ認可ヲ要セスト規定シタルモノハ此ノ限ニアラス

- 一 河川ノ支川、派川ノ認定
- 二 河川ニ關スル新築、改築若ハ除却工事ノ施行並ニ其ノ計畫及其ノ工費豫算
- 三 河川法第十七條第十八條及第四十二條ニ依リ與フル許可
- 四 内務大臣ノ認可ヲ經テ許可シタル事項ニ關シ河川法第二十條ニ依ル府縣知事ノ處分
- 五 河川法第二十九條乃至第三十二條ニ依ル費用ノ負擔方法
- 六 河川法第三十七條ニ依ル府縣ノ不均一ノ賦課
- 七 河川法第三十九條ニ依ル建設物其ノ他ノ障害物ノ除却
- 八 左ニ掲グル事項及其ノ變更、停止又ハ廢止ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
- 一 河川法第二十二條及第四十六條第一項ニ依ル下級行政廳ノ處分
- 二 河川法第二十七條ニ依ル下級公共團體ノ不均一ノ賦課

此ノ勅令ニ依リ府縣知事ノ第一次ニ監督スヘキ事項ニ關シテハ府縣知事ハ府縣令ヲ以テ其ノ認

可ヲ受クヘキモノヲ定ムルコトヲ得

第四條 河川法第三十五條ニ依リ郡市町村村組合又ハ水利組合ニ於テ寄付ヲナストキハ左ノ

條件ヲ具備シ且府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一 河川ニ關スル事業ニシテ寄付ヲナサントスル公共團體ノ利害ニ直接ノ關係アルコト

二 寄付ヲナサントスル公共團體ニ於テ起債ノ方法ニ因ラスシテ寄付ヲナシ得ヘキコト

第五條 河川法第三十六條ニ依リ郡市町村村組合又ハ水利組合ニ於テ補助ヲナストキハ左ノ

條件ヲ具備シ且府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一 河川ニ關スル事業ニシテ永遠ノ利益ヲ目的トシ且其ノ補助ヲ受クヘキ者ニ於テ其ノ費用

ノ負擔ニ堪ヘサルコト

二 補助ヲナサントスル公共團體ニ於テ起債ノ方法ニ因ラスシテ補助ヲナシ得ヘキコト

御名 御璽

明治二十九年六月二日

内務大臣伯耆板垣退助

勅令第二百三十六號(官報六月三日)

河川法施行規程

第一條 内務大臣ニ於テ公共ノ利害ニ重大ノ關係アリト認定シタル河川ハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ
第二條 府縣知事ニ於テ河川ノ全部若ハ一部ヲ施行スヘキ區域及時期ヲ定メタルトキ亦同シ
第三條 府縣知事ニ於テ河川ノ支川若ハ派川ト認定シタルモノハ其ノ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告

第三條 沿岸、沿堤及河川附近ノ土地ノ區域ハ府縣知事之ヲ定メ内務大臣ノ定ムル方法ニ依リ之

ヲ告示スヘシ
第四條 河川法第八條ニ依リ内務大臣ニ於テ自ラ工事ヲ施行シ又ハ河川ニ關スル工事ニ因リ特ニ

利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ工事ヲ施行セシムル場合ニ於テハ官報ヲ以テ其ノ工事

前項ノ工事ヲ終了シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ
第五條 河川法第六條但書ニ依リ内務大臣ニ於テ河川ノ管理又ハ維持修繕ヲナストキハ内務省直

轄ノ土木事業ニ準シテ土木監督署長之ヲ行フ
第六條 河川法第二十八條ニ依リ府縣知事ニ於テ土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ノ供給ヲナサシメ

ントスルトキハ少クとも五日以前ニ其ノ供給セシムヘキ物件ノ種類、數量及補償金額等ヲ其所

有者ニ通知スヘシ
第七條 河川法第二十九條ニ依リ府縣知事ニ於テ堤外地、沿岸若ハ沿堤土地ニ立入り又ハ之ヲ材

料置場等ニ供セントスルトキハ少クとも五日以前ニ又之ニ現在スル建設物其ノ他ノ障害物ヲ除却

セントスルトキハ少クとも十五日以前ニ其ノ場所若ハ建設物等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ
第八條 河川法施行前ニ確定シタル河川ニ關スル費用ノ豫算ハ河川法施行ノ爲其ノ效力ヲ失ハス

前項豫算ニ依リ執行スヘキ事項ハ從前ノ規程又ハ慣習ニ依リ既ニ定リタル執行者ニ於テ之ヲ行フ

第九條 河川法施行前ニ私人ノ所有權ヲ認メタル河川ノ敷地ニシテ荒地ニアラサルモノハ從前ノ

所有者若ハ其ノ相續人ノ請求ニ因リ府縣知事ハ公益ヲ妨ケサル限ニ於テ其ノ占有ヲ許可スヘシ
第十條 府縣知事ニ於テ從前ノ所有者若ハ其ノ相續人ニ前條ノ占有ヲ許可セサルトキ又ハ之ヲ禁

止スルトキハ府縣ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ相當ノ補償金ヲ下付スヘシ
公共ノ利益トナルヘキ事業ノ爲前項處分ノ必要ヲ生スルトキハ府縣知事ハ其ノ事業ノ許可ノ條

件トシテ其ノ執行者ヲシテ補償金ノ全部若ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ妨ケス
河川ニ關スル工事ニ因リ下付ノ必要アル第一項ノ補償金ハ其ノ工事ノ豫算費用中ニ算入スヘシ

第十一條 河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ許可ヲ受クヘキ事項ニシテ其ノ施行ノ際ニ現存スルモノハ河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス但其ノ施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ府縣知事ニ於テ更ニ許可ヲ受クヘキコトヲ命シタルモノハ此ハ限ニアラス

河川法施行前許可ニ附シタル條件ハ河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ牴觸セサル程度ニ於テ效力ヲ有ス

第十二條 河川法施行前ニ許可シタル通航料ノ徵收ハ従前ノ規程ニ依ル但徵收ノ期限ナキモノハ府縣知事ニ於テ河川法施行後三十箇年以内ノ期限ヲ定メテ之ヲ許可スヘシ

第十三條 内務大臣ハ河川法ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シ其ノ發スル所ノ命令ニ二十五圓以内ノ罰金若ハ二十五日以下ノ禁錮ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

府縣知事及警視總監ハ河川法ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シ其ノ發スル所ノ命令ニ十圓以内ノ罰金若ハ拘留ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第十四條 河川法第四條第五條第十二條第十五條第十六條第十九條第四十五條及第四十六條第二項ニ依リテ發スル命令ハ府縣令ヲ以テスルコトヲ得但東京府ニ在テハ第十六條及第十九條中警察ニ係ル事項ハ警視廳令ヲ以テスルコトヲ得

朕竹敷要港境域ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

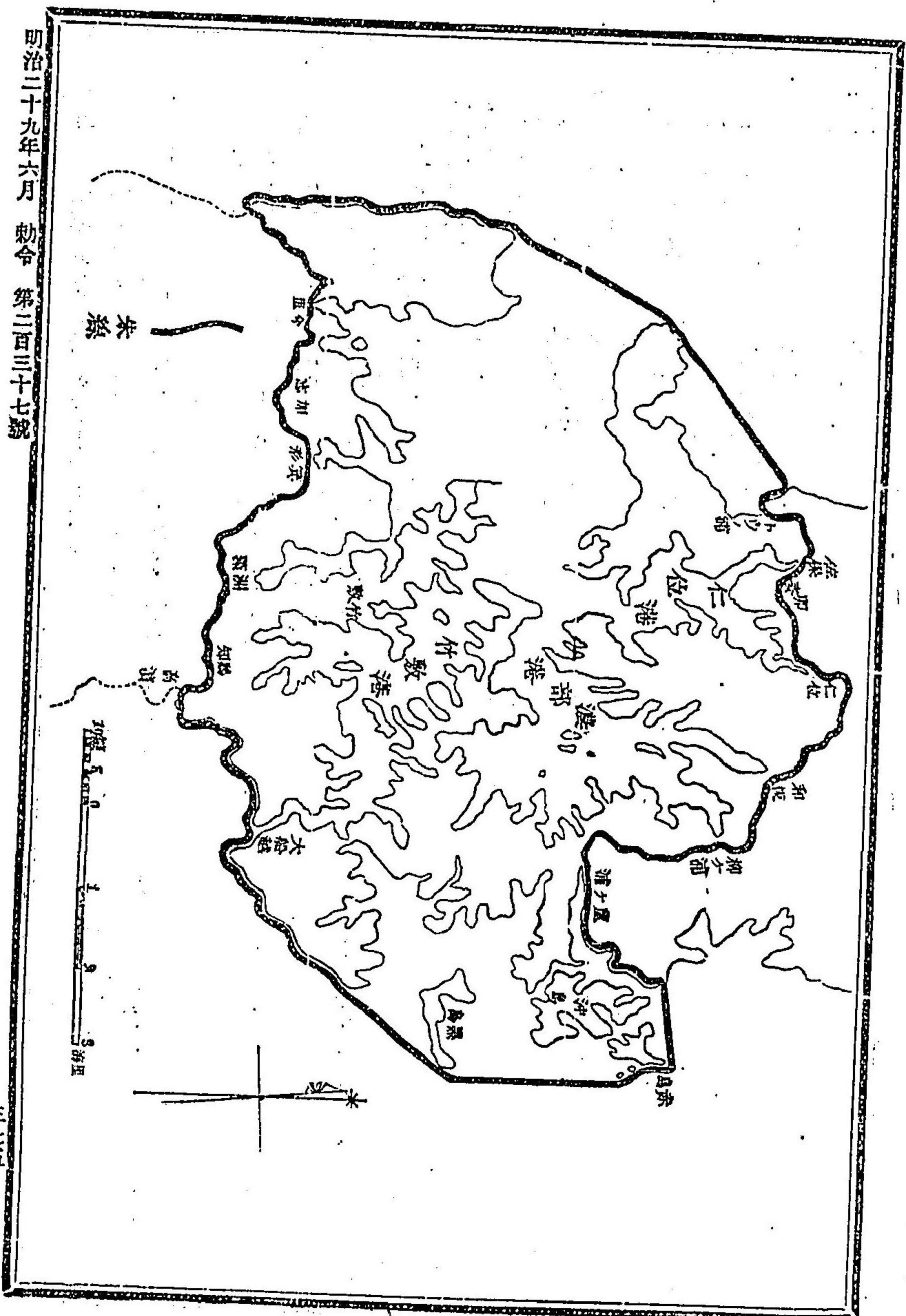
御名 御璽

明治二十九年六月二日

海軍大臣 侯爵 西郷從道

勅令第二百三十七號(官報六月三日)

竹敷要港ノ境域ハ左圖ニ記スル朱線以内ト定ム



明治二十九年六月 勅令 第二百三十七號

左ニ掲クル箇所ハ竹敷要港ノ境域内トス

對馬國下縣郡蘆ヶ浦ヨリ柳ヶ浦和板仁位卯麥佐保トウノ浦ノ各地ニ通スル道路以南ノ地
同國同郡鷓知村高濱ヨリ鷓知潮藻箕形加志今里ノ各地及今里ヨリ海岸ニ通スル道路以北ノ地

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ陸軍服役條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年六月三日

勅令第二百三十八號(官報六月四日)

陸軍服役條例

第一章 將校ノ服役

第一款 現役

第二款 豫備役及後備役

第二章 准士官ノ服役

第三章 下士ノ服役

第一款 通則

第二款 現役

第三款 豫備役及後備役

第四章 兵卒ノ服役

第一款 通則

第二款 現役

陸軍大臣侯爵大山 巖

第三款 豫備役及後備役

第五章 補充兵ノ服役

第六章 雜則

附則

陸軍服役條例

第一章 將校ノ服役

第一款 現役

第一條 現役將校ハ所屬部隊ノ兵籍ニ編入シ現役年限年齢ニ滿ツル迄服役セシム但別ニ規定アル
モノハ此ノ限ニアラス

第二條 將校ノ現役年限年齢ハ左ノ如シ

中將

七十歲

少將

六十五歲

憲兵大中佐

五十七歲

步騎砲工輜重兵大中佐

五十四歲

憲兵少佐

五十一歲

步騎砲工輜重兵少佐

四十八歲

憲兵大尉

四十八歲

步騎砲工輜重兵大尉

憲兵中少尉

四十五歲

第二條 現役年限年齢ニ滿ツルモ他人ヲ以テ代フヘカラサル職ニ在ル者ハ留任ヲ命スルコトアル

第四條 現役年限年齢ニ滿ツルモ戰時若クハ事變ニ際スルトキ又ハ航海中或ハ外國駐劄中ハ現役期限ヲ延ハスコトアルヘシ

第五條 現役年限年齢ニ滿タサルモ服役十一年以上ニシテ現役ニ堪ヘサル者ハ將官ハ上諭ニ依リ上長官士官ハ陸軍大臣官ヲ諭シテ現役ヲ退カシムルコトアルヘシ

第六條 現役將校傷痕若クハ疾病ニ由リ職務若クハ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ順序ヲ經テ休職又ハ退役ヲ陸軍大臣ニ願出ヘシ

第七條 休職停職ノ將校ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ師團長ノ管轄ニ屬ス他ノ師管ニ寄留スル者ハ寄留地所管師團長ノ監督ヲ受ク

第八條 休職停職ヲ命セラレタル者歸郷シタルトキハ十四日以内ニ師團長ニ届出ヘシ但歸郷旅行一箇月以上ヲ要スルトキハ到着日ヲ豫定シ出發前本籍所管師團長ニ届出ヘシ

從前ノ在職地若クハ其ノ他ノ地ニ一箇月以上滞在若クハ寄留セント欲スル者ハ本籍所管ノ師團長ニ届出テ歸郷シタルトキハ前項ノ届出ヲ爲スヘシ

前項ノ滞在地若クハ寄留地本籍地外ノ師管ニ係ルトキハ滞在若クハ寄留ノ當日ヨリ十四日以内ニ其ノ地所管ノ師團長ニ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

第九條 休職停職ノ將校十四日以上旅行又ハ寄留セント欲スルトキハ師團長ニ届出テ歸郷シタルトキハ十四日以内ニ師團長ニ届出ヘシ

前項ノ寄留地本籍地外ノ師管ニ係ルトキハ其ノ地ノ師團長ニ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

其ノ外國ニ旅行又ハ寄留セント欲スル者ノ取扱ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第十條 休職停職ノ將校寄留地師管ノ兵籍ニ轉セント欲スル者ハ師團長ニ願出テ許可ヲ受ケタル

トキハ其ノ旨ヲ寄留地所管ノ師團長ニ届出ヘシ

第十一條 休職停職ノ將校兵籍上異動ヲ生シタルトキハ師團長ニ届出ヘシ但自己ノ身上ニ係ル異動ハ寄留地所管ノ師團長ニモ届出ヘシ

第十二條 休職停職ノ將官ヨリ陸軍大臣ニ差出ス願書ハ師團長ヲ經由シ佐官以下ノ將校ヨリ師團長ニ差出ス願書ハ聯隊區司令官聯隊區ニ在テハ聯隊區司令官以下同シヲ經由シ陸軍大臣ニ差出ス願書ハ聯隊區司令官及師團長ヲ經由スヘシ

第十三條 本款ハ現役將校相當官ニ適用ス

第十四條 將校相當官ノ現役年限年齢ハ左ノ如シ

監督長	軍醫總監	六十五歲
一等監督	軍醫監	六十歲
二等監督	藥劑監	五十七歲
獸醫監	獸醫補	五十四歲
監督補	一等軍醫	五十一歲
一等藥劑官	一等獸醫	五十一歲
一等軍吏	二等軍醫	四十八歲
二等軍醫	二等藥劑官	
二等軍吏	二等軍吏	
一等軍樂長	三等軍醫	
二等軍醫	三等藥劑官	
三等軍醫	三等軍吏	
三等獸醫	豫備役及後備役	

第二款 豫備役及後備役

第十五條 豫備役後備役將校ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ師團長ノ管轄ニ屬ス

第十六條 豫備役將校ノ服役期限ハ現役年限年齢ニ滿ツル年ノ三月三十一日迄トス

第十七條 後備役將校ノ服役期限ハ豫備役ヨリ轉入シタル者ハ轉入後五箇年現役年限年齢ニ滿チ後備役ニ轉入シタル者ハ現役ヲ退キタル年ヨリ第六年目ノ三月三十一日迄トシ後備役准士官下士ヨリ士官ニ進級シタル者ハ現役年限年齢ニ滿ツル年ヨリ第六年目ノ三月三十一日迄トス

第十八條 豫備役後備役將校ノ服役期限既ニ滿ツルト雖戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ航海中或ハ外國駐割中ハ其ノ期限ヲ延ハスコトアルヘシ

第十九條 第三條第四條第十八條ニ依リ留任ヲ命シ又ハ服役ヲ延期シタル者ト雖服役年期ノ計算ハ留任セサル者又ハ服役ヲ延期セサル者ニ同シ

第二十條 豫備役後備役將校服役滿期ニ至リタルトキハ辭令ヲ用井スシテ豫備役ハ後備役ニ後備役ハ退役ニ入ルモノトス

第二十一條 豫備役後備役將校ハ滿期後引續キ服役スルコトヲ得志願ノ者ハ年數ヲ定メ陸軍大臣ニ願出ヘシ

第二十二條 豫備役後備役將校傷疾若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ退役ヲ陸軍大臣ニ願出ヘシ

第二十三條 豫備役後備役將校ハ現役將校同等官ノ次席トス

第二十四條 豫備役後備役將校ハ召集ニ應スルトキ及朝拜參賀公私ノ儀式祭典其ノ他豫アル宴會等ノ場所ニ列スルトキハ陸軍ノ制服ヲ著スルモノトス但文官ニ任セラレタル者ハ召集ノ場合ヲ除クノ外文官ノ制服ヲ著スルモ妨ケナシ

第二十五條 豫備役後備役將校ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ勤務演習ノ爲メ召集ス

第二十六條 豫備役後備役將校ニシテ文官ニ任セラレ餘人ヲ以テ代フヘカラサル職務ヲ奉スル者外國ニ在ル者ニ對シテ旅行又ハ寄留スル者ヲ除ク及市町村長助役收入役ト爲ル者ハ勤務演習ノ爲メ召集スルコトナシ

法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲ル者其ノ開會中亦同シ

第二十七條 豫備役後備役將校ニシテ他ノ師管ニ寄留シ該師管ニ於テ勤務演習ヲ爲サント欲スル者ハ師團長ニ願出テ其ノ許可ヲ受ケタルトキハ寄留地到着後寄留後出頭ノ者三日以内ニ豫備役後備役編入年、現官ニ任セラレタル年月及管テ勤務演習ヲ爲シタル年月ヲ記シ寄留地ノ師團長ニ届出ヘシ

第二十八條 豫備役後備役將校ニシテ止ムヲ得サル事故アリ勤務演習召集ノ猶豫ヲ願フ者ハ其ノ事實ヲ證明シ師團長ノ許可ヲ請フヘシ

第二十九條 現役ヨリ豫備役若クハ後備役ニ入ル將校歸郷シタルトキハ十四日以内ニ師團長ニ届出ヘシ

從前ノ在職地若クハ其ノ他ノ地ニ一箇月以上滞在若クハ寄留セント欲スルトキ若クハ歸郷旅行日數一箇月以上ヲ要スルトキハ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者成年以上ノヲ定メ師團長ニ届出テ歸郷シタルトキハ前項ノ届出ヲ爲スヘシ

前項ノ滞在地若クハ寄留地本籍地外ノ師管ニ係ルトキハ其ノ地ノ師團長ニモ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

第三十條 豫備役後備役將校十四日以上旅行或ハ寄留セントスルトキハ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者成年以上ノ男子ニ限ルヲ定メ師團長ニ届出テ歸郷シタルトキハ十四日以内ニ師團長ニ届出ヘシ

前項ノ寄留地本籍地外ノ師管ニ係ルトキハ其ノ地ノ師團長ニモ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若ク

ハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ
 外國ニ在ル者召集ノ通報ヲ受ケ又ハ其ノ他ノ手續ニ依リ充員召集若クハ後備軍召集ノ舉アルコトヲ確知シタルトキハ直ニ歸朝シ本籍地到着後二十四時以内ニ師團長ニ届出ヘシ
 第三十一條 豫備役後備役將校兵籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以内ニ師團長ニ届出ヘシ但他ノ師管ニ戸籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ師團長ニ届出ヘシ
 第三十二條 豫備役後備役將校ニシテ市町村長、助役、收入役ト爲リ又ハ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲リタルトキ並ニ之ヲ罷メタルトキハ十四日以内ニ師團長ニ届出ヘシ
 第三十三條 豫備役後備役將校ニシテ死亡又ハ失踪シタル者アルトキ及失踪中戸籍ヲ轉換シタルトキハ其ノ戸主（本人戸主ナレハ家族中家事ヲ擔當スル者ヨリ）十四日以内ニ師團長ニ届出ヘシ失踪者ノ歸郷シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ但他ノ師管ニ戸籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ師團長ニ届出ヘシ
 家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長（東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長以下同シ）ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ
 第三十四條 豫備役後備役將校重罪輕罪（罰金ヲノ刑ニ處セラレタルトキ）ハ刑名及刑期ヲ記シ其ノ戸主（本人戸主ナレハ家族中家事ヲ擔當スル者ヨリ）十四日以内ニ師團長ニ届出ヘシ
 家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ
 第三十五條 豫備役後備役將校ヨリ陸軍大臣ニ差出ス願書ハ師團長ヲ經由シ佐官以下ノ將校ヨリ師團長ニ差出ス願書ハ聯隊區司令官ヲ經由シ陸軍大臣ニ差出ス願書ハ聯隊區司令官及師團長ヲ經由スヘシ
 第三十六條 第二十七條第二十九條第一項及第二項第三十條第一項及第三項第三十一條乃至第三十四條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十七條 第二十九條第三十條ノ通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遅緩シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス
 第三十八條 本款ハ豫備役後備役ノ將校相當官ニ適用ス
 第二章 准士官ノ服役
 第三十九條 本章ニ於テ准士官ト稱スルハ步騎砲工輜重兵特務曹長、砲工兵上等監護及二等軍樂長ヲ謂フ
 第四十條 特務曹長ハ營内ニ居住セシムルヲ例トス警備隊ニ在テ警備隊區在籍ノ者ハ外泊ヲ許スコトアルヘシ
 第四十一條 准士官ノ現役年限年齢ハ左ノ如シ
 砲工兵上等監護 五十一歳
 二等軍樂長 四十八歳
 步騎砲工輜重兵特務曹長 三十七歳
 第四十二條 現役年限年齢ニ滿タサルモ服役十一年以上ニシテ現役ニ堪ヘサル者ハ所管長官旨ヲ諭シテ現役ヲ退カシムルコトアルヘシ
 第四十三條 特務曹長ハ現役年限年齢ニ滿タサルモ正當ノ事故アルトキハ本人ノ願ニ依リ現役ヲ免シ豫備役ニ服セシムルコトヲ得
 第四十四條 特務曹長ハ現役年限年齢ニ滿チ現役ヲ退キタルトキハ豫備役ニ豫備役終ルノ後ハ後備役ニ服セシム
 第四十五條 豫備役後備役特務曹長ノ服役年期ハ豫備役ニ在テハ現役年限年齢ニ滿ツル年ヨリ第四年目ノ三月三十一日迄トシ後備役ニ在テハ豫備役滿期後五箇年トス
 第四十六條 豫備役後備役砲工兵上等監護及豫備役後備役二等軍樂長ノ服役年期ハ豫備役ニ在テ

ハ現役年限年齢ニ滿ツル年ノ三月三十一日迄トシ後備役ニ在テハ現役年限年齢ニ滿ツル年ヨリ第六年目ノ三月三十一日迄トス

第四十七條 准士官ノ現役豫備役後備役服役ニ關スル諸般ノ事項ニ就テハ第一章 第二條第五條第三十六條第七條ノ規定ヲ適用ス但第二十一條第二十二條ノ願書ハ師團長ニ差出スモノトス
第四十八條 豫備役後備役ノ下士ヨリ特務曹長ニ進級シタル者ノ服役年期ハ豫備役ニ在テハ現役年限年齢ニ滿ツル年ヨリ第四年目ノ三月三十一日迄トシ後備役ニ在テハ現役年限年齢ニ滿ツル年ヨリ第九年目ノ三月三十一日迄トス

第三章 下士ノ服役

第一款 通則

第四十九條 下士ノ服役ハ十二箇年四箇月トシ之ヲ分テ現役豫備役及後備役トス其ノ服役ヲ終リタルトキハ第一國民兵役ニ服セシム
第五十條 各兵役期限既ニ滿ツルト雖戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其ノ期限ヲ延ハスコトアルヘシ其ノ服役年期ノ計算ハ延期セサル者ニ同シ

第五十一條 現役ヲ離ルルトキ服役十二箇年四箇月ヲ過キ豫備役後備役ニ服セサル者及事故ニ由リ常備後備ノ役若クハ兵役ヲ免スル者ハ同時ニ其ノ官ヲ免シ後備役滿期ノ者ハ別ニ辭令ヲ用井スシテ其ノ官消滅スルモノトス

第二款 現役

第五十二條 現役下士ハ所屬部隊ノ兵籍ニ編入シ現役期限滿ツル迄服役セシム
第五十三條 隊附現役下士憲兵隊軍樂隊ハ營内ニ居住セシムルヲ例トス但警備隊ニ在テ警備隊區在籍ノ者ハ外泊ヲ許スコトアルヘシ

第五十四條 現役下士ノ服役期限ハ左ノ如シ

- 一 教導團及要塞砲兵射擊學校卒業者ヨリ下士ニ任セラレタル者及砲兵監護ニ任セラレタル者ハ任官ノ日ヨリ四箇年
 - 二 憲兵科下士ハ憲兵上等兵ヨリ任セラレタル者ハ憲兵上等兵ヲ命セラレタル日ヨリ步騎砲工輜重兵科下士ヨリ任セラレタル者ハ憲兵下士任官ノ日ヨリ七箇年但臺灣憲兵ハ三箇年
 - 三 砲兵工科學校及經理學校卒業者ヨリ諸工下士ヲ除ク下士ニ任セラレタル者ハ任官ノ日ヨリ七箇年
 - 四 工兵監護砲臺監守ハ任官ノ日ヨリ七箇年四箇月
 - 五 蹄鐵工下士ハ入隊ノ日ヨリ五箇年
 - 六 軍樂部下士ハ樂生ヲ命セラレタル日ヨリ七箇年四箇月
- 第五十五條 下士ハ現役滿期ノ後現役年限年齢ニ滿ツル迄ハ數次再服役ヲ爲スコトヲ得
- 第五十六條 下士ノ現役年限年齢ハ左ノ如シ

- 砲工兵監護 砲臺監守 諸工下長 四十八歲
- 憲兵科下士 衛生部下士 四十五歲
- 軍吏部下士 軍樂部下士 四十五歲
- 步騎砲工輜重兵科下士 四十歲

第五十七條 再服役年期ハ通常一年ヲ以テ一期トス滿七年以上服役シ尙服役中ノ者ハ三年若クハ二年ヲ以テ一期トシ之ヲ請フコトヲ得
一 期間ニ於テ現役年限年齢ニ滿ツル者ハ其ノ定限迄之ヲ請フモノトス
再服役ハ自己所屬ノ中隊憲兵分隊ニ在テハ分隊警備隊ニ在テハ步若クハ所屬諸本部諸官屬ニ於

テスルモノトス

第五十八條 再服役ハ中隊ニ在テハ其ノ所屬中隊長憲兵分隊ニ在テハ分隊長 警備隊ニ在テハ歩兵分隊長ハ順序ヲ經テ聯隊長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ請フヘシ
諸本部諸官廂ニ在テハ直屬長官ニ出願スヘシ但直屬長官聯隊長ト同等ノ權ナキトキハ聯隊長同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ請フヘシ

衛生部軍吏部下士ノ再服役ハ聯隊長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ヨリ當該監督部長若クハ軍醫部長ニ豫メ協議スヘシ

再服役ヲ許可シタルトキハ誓約書ヲ中隊長若クハ直屬長官ニ出サシム

第五十九條 再服役許可ノ後轉隊若クハ轉職シタルトキハ其ノ誓約書ヲ新所屬ノ中隊長若クハ直屬長官ニ移スヘシ

第六十條 現役中本人ヲ要スルニ非ザレハ一家ノ生計ヲ營ミ難キ事故ヲ生スルトキハ本人ノ願ニ依リ現役ヲ免スルコトヲ得

第六十一條 現役中傷疾若クハ疾病ニ由リ現役ニ堪ヘ難キ者ハ現役ヲ免ス

第六十二條 現役中傷疾若クハ疾病ニ由リ常備後備ノ役ニ堪ヘ難キ者ハ其ノ役ヲ免シ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

第六十三條 憲兵下士ニシテ素行修マラサル者ハ特ニ現役ヲ免ス

第六十四條 憲兵下士其ノ職務ヲ辱シムルニ依リ懲罰ノ處分ヲ受ケ其ノ情重キモノハ陸軍懲罰令ノ規定ニ拘ハラヌ官ヲ免スルコトヲ得

第六十五條 現役滿期ニ至リタル者ハ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ七箇年四箇月ニ滿タサルトキハ豫備役ニ十二箇年四箇月ニ滿タサルトキハ後備役ニ服セシム

第六十六條 第六十條第六十一條第六十三條ニ依リ現役ヲ免シタル者ハ前條ノ例ニ依リ豫備役又ハ後備役ニ服セシム

ハ後備役ニ服セシメ第六十二條ニ依リ常備後備ノ役ヲ免シタル者ハ第一國民兵役ニ服セシム
下士ニシテ禁錮ノ刑ニ處セラレ官ヲ失ヒ又ハ陸軍懲罰令若クハ第六十四條ニ依リ官ヲ免セラレタル者ハ歩騎砲工輜重兵科ニ在テハ當該兵科ノ兵卒ト爲シ憲兵科及各部ニ在テハ前兵科ノ兵卒ト爲シ軍樂部ニ在テハ樂生ト爲シ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ三箇年ニ滿タサル者ハ三箇年ニ滿ツル迄現役ニ服セシメ三箇年ヲ過クル者ハ前條ノ例ニ依リ豫備役又ハ後備役ニ服セシメ十二箇年四箇月ヲ過クル者ハ第一國民兵役ニ服セシム

第六十七條 現役下士ニシテ其ノ服役七箇年四箇月若クハ十二箇年四箇月ノ後尙豫備役若クハ後備役ニ服センコトヲ志願スル者ハ其ノ年數ヲ定メ現役滿期ノ際聯隊長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ニ願出ヘシ

聯隊長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官前項ノ服役ヲ許可シタルトキハ本人所管ノ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第六十八條 第六十條乃至第六十四條ニ當ル者アルトキハ聯隊長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ハ師團長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ請ヒ現役、常備後備役又ハ兵役ヲ免ス但師團長及之ト同等以上ノ權アル長官ニ在テハ自ラ之ヲ處分ス

衛生部軍吏部下士ニ在テハ聯隊長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ヨリ當該監督部長又ハ軍醫部長ニ移シ監督部長軍醫部長ハ經理局長又ハ醫務局長ノ認可ヲ請ヒ現役、常備後備役又ハ兵役ヲ免ス但經理局所屬官衙ニ在テハ該局長自ラ之ヲ處分ス

第六十九條 現役中禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ逃亡シタル者ハ其ノ刑期中及逃亡中ノ日數ハ現役服役年期ニ算入セズ

第三款 豫備役及後備役

第七十條 豫備役後備役下士ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ聯隊區司令官ノ管轄ニ屬ス

第七十一條 豫備役下士ノ服役期限ハ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ七箇年四箇月トス

第七十二條 後備役下士ノ服役期限ハ豫備役滿期ノ後五箇年トス但七箇年四箇月以上現役ニ服シ直ニ後備役ニ入ル者ハ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ十二箇年四箇月トス

第七十三條 豫備役後備役下士服役滿期ニ至リタルトキハ別ニ辭令ヲ用井スシテ豫備役ハ後備役ニ後備役ハ第一國民兵役ニ入ルモノトス

第七十四條 豫備役後備役下士滿期後引續キ服役セント欲スルトキハ年數ヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ願出ヘシ

第七十五條 豫備役後備役下士傷痍若クハ疾病ニ由リ豫備後備ノ役ニ堪ヘ難キ者ハ第一國民兵役ニ服セシメ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

在郷中傷痍若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ願出ヘシ

第七十六條 豫備役後備役下士ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年一度簡閱點呼ヲ爲シ又勤務演習ノ爲メ召集ス

第七十七條 豫備役後備役下士ニシテ文官ニ任セラレ餘人ヲ以テ代フヘカラサル職務ヲ奉スル者外國ニ在ル者ニ對シテ馬醫備隊區ニ在テ朝鮮國釜山及市町村長助役收入役トナル者ハ勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ

法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲ル者其ノ開會中亦同シ

第七十八條 豫備役後備役下士ニシテ他ノ聯隊區ニ在テハニ寄留スル者ハ願ニ依リ其ノ地ニ於テ簡閱點呼ヲ受クルコトヲ得

一箇年以上他ノ師管ニ寄留スル者ハ願ニ依リ寄留地師管ニ於テ勤務演習ヲ爲スコトヲ得

前二項ニ依リ願出ル者ハ其ノ願書ニ本籍市町村長ノ與書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ差出スヘシ

但許可ヲ受ケタルトキハ寄留地到着後寄留後出願ノ者三日以内ニ豫備役後備役編入年、現官ニ任セラレタル年月及嘗テ勤務演習ヲ爲シタル年月ヲ記シ其ノ由ヲ寄留地市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニ願出ヘシ

第七十九條 豫備役後備役下士ニシテ止ムヲ得サル事故アリ勤務演習召集ノ猶豫若クハ簡閱點呼ノ免除ヲ願ハント欲スルトキハ其ノ願書ニ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ差出スヘシ

第八十條 現役ヨリ豫備役若クハ後備役ニ入ル下士ハ十四日以内ニ從前ノ在職地ヲ出發シ一日行程十里詰ヨリ妙カラサル日數間ニ歸郷シ著後十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ願出ヘシ

從前ノ在職地若クハ其ノ他ノ地ニ十五日以上滞在若クハ寄留セントスルトキハ前項ノ出發期日內ニ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者成年以上ノ男子ニ限ルヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ願出テ歸郷シタルトキハ前項ノ願出ヲ爲スヘシ

前項ノ滞在地若クハ寄留地本籍地外ノ聯隊區ニ係ルトキハ其ノ地ノ市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニモ願出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

第八十一條 豫備役後備役下士十四日以上旅行或ハ寄留セントスルトキハ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者成年以上ノ男子ニ限ルヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ願出テ歸郷シタルトキハ十四日以前項ノ寄留地本籍地外ノ聯隊區ニ係ルトキハ寄留地市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニモ願出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

外國ニ在ル者召集ノ通報ヲ受ケ又ハ其ノ他ノ手續ニ依リ充員召集若クハ後備軍召集ノ舉アルコトヲ確知シタルトキハ直ニ歸朝シ本籍地到着後二十四時以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ願出ヘシ

届出ヘシ

第八十二條 豫備役後備役下士兵籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ但シ他ノ聯隊區ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ
第八十三條 豫備役後備役下士ニシテ市町村長 助役 收入役ト爲リ又ハ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲リタルトキ竝ニ之ヲ罷メタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第八十四條 豫備役後備役下士ニシテ死亡又ハ失踪シタル者アルトキ及失踪中戶籍ヲ轉換シタルトキハ其ノ戶主 中家事ヲ擔當スル者ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ失踪者ノ歸郷シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ但シ他ノ聯隊區ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ
家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第八十五條 豫備役後備役下士重罪輕罪 罰金ヲノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ其ノ戶主 中家事ヲ擔當スル者ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ
家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第八十六條 豫備役後備役中犯罪ノ爲メ又ハ正當ノ事由ナクシテ召集ヲ缺キタル者其ノ召集ヲ缺キタル年ハ服役年期ニ算入セス
第八十七條 第七十八條第三項但書第八十條第一項及第二項第八十一條第一項及第二項第八十二條乃至第八十五條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
第八十八條 第八十條第八十一條ノ通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遲緩シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第四章 兵卒ノ服役

第一款 通則

第八十九條 本章中ノ兵卒又ハ兵ニハ雜卒及職工ヲ包含ス
第九十條 徵兵令第七條第十六條第二十四條第二十九條第一項但書及第三項ノ規定ハ憲兵上等兵 樂手補 樂生及下士ニシテ官ヲ失ヒ若クハ官ヲ免セラレ兵卒ト爲リタル者竝ニ第六十條ノ兵卒ニ適用ス

第九十一條 憲兵上等兵 樂手補 樂生ノ服役期限ハ十二箇年四箇月トシ之ヲ分テ現役豫備役及後備役トス其ノ服役終リタルトキハ第一國民兵役ニ服セシム
第九十二條 兵卒ハ年齡滿四十歳ヲ以テ服役ノ終期トス但シ第三百二十二條ニ依リ服役スル者ハ滿四十五歳トナル年ノ三月三十一日ヲ以テ終期トス

第二款 現役

第九十三條 現役兵ハ入隊ノ日ヨリ其ノ隊ノ兵籍ニ編入シ現役期限滿ツル迄服役セシム
第九十四條 現役兵ハ營内ニ居住セシムルヲ例トス
憲兵上等兵 樂手補ハ營外ニ居住セシム
樂生中品行方正勤務勉勵技藝熟達且樂生ヲ命セラレタル日ヨリ一箇年以上精勤セシ者ハ營外ニ居住セシムルコトアルヘシ
警備隊看護手 縫工 靴工 中品行方正勤務勉勵且技藝熟達ノ者ハ外泊ヲ許スコトアルヘシ

第九十五條 憲兵上等兵ノ現役期限ハ憲兵上等兵ヲ命セラレタル日ヨリ七箇年トス但シ臺灣憲兵ハ三箇年トス
第九十六條 砲兵助卒 砲兵輸卒 輜重輸卒ノ現役期限ハ二箇年四箇月トシ砲兵助卒ハ一箇年間 砲兵輸卒ハ四箇月間 輜重輸卒ハ三箇月間在營セシム
戰時若クハ事變ニ際スルトキ其ノ他必要ノ場合ニハ在營期限ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第九十七條 樂手補、樂生ノ現役期限ハ樂生ヲ命セラレタル日ヨリ七箇年四箇月トス

第九十八條 警備隊現役兵ノ在營期限ハ一箇年トス
第九十九條 警備隊現役兵中上等兵タルノ技能ヲ有スル者及上等兵、看護手ニシテ志願ノ者ハ尙一箇年間に在營セシムルコトヲ得

警備隊上等兵及看護手中下士タルノ技能ヲ有スル者及縫工、靴工ニシテ志願ノ者ハ現役期限満ツル迄在營セシムルコトヲ得

第一百條 上等兵、看護手、樂手補、樂生及警備隊縫工、靴工ハ現役満期ノ後現役年限ニ滿ツル迄數次再服役ヲ爲スコトヲ得但歩騎砲工、輜重兵、上等兵及看護手ハ下士タルノ技能ヲ有スル者ニ限ル

前項ノ再服役ニ關シテハ第五十七條乃至第五十九條ヲ適用ス

第一百一條 兵卒ノ現役年限ハ左ノ如シ
憲兵上等兵、雜卒、職工 四十歲
歩騎砲工、輜重兵卒 三十五歲

第一百二條 現役中本人ヲ要スルニアラサレハ家族自活シ能ハサル事故ヲ生スルトキハ其ノ家族ノ願ニ依リ現役ヲ免ス

第一百三條 現役中傷病若クハ疾病ニ由リ一時服役ニ堪ヘ難キ者ハ現役ヲ免ス

第一百四條 現役中傷病若クハ疾病ニ由リ常備後備ノ役ニ堪ヘ難キ者ハ其ノ役ヲ免シ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

第一百五條 憲兵上等兵現役中左ニ掲クル事項ニ當ル者ハ其ノ職ヲ免ス
一 職務ヲ辱シムルニ由リ懲罰ノ處分ヲ受ケ其ノ情重キトキ
二 素行修マラス屢懲罰ノ處分ヲ受ケ又ハ上官ノ説諭ヲ受クルモ悛改ノ狀ナキトキ

第一百六條 現役満期ニ至リタル者ハ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ七箇年四箇月ニ滿タサルトキハ豫備役ニ十二箇年四箇月ニ滿タサルトキハ後備役ニ服セシム

第一百七條 第一百二條乃至第一百三條ニ依リ現役ヲ免シタル者ハ前條ノ例ニ依リ豫備役又ハ後備役ニ服セシム

第一百八條 上等兵、看護手及樂手補ニシテ禁錮ノ刑ニ處セラレ職ヲ失ヒ又ハ陸軍懲罰令若クハ第五十五條ニ依リ職ヲ免セラレタル者ハ歩騎砲工、輜重兵科ニ在テハ當該兵科ノ兵卒ト爲シ憲兵上等兵及看護手ニ在テハ前兵科ノ兵卒ト爲シ樂手補、樂生ト爲シ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ三箇年ニ滿タサル者ハ三箇年ニ滿ツル迄現役ニ服セシム

第一百九條 第一百二條ニ依リ免役ヲ願出テントスル者ハ其ノ願書ニ同徵募區内現役兵ノ戸主憲兵上等兵、樂生ハ近郊ノ戸主二名ノ保證書ヲ添ヘ島司郡市長ヲ經テ聯隊區司令官ニ差出スヘシ但町村ニ於テハ町村長ノ與書證印ヲ受ケヘキモノトス

島司郡市長ハ其ノ事實ヲ審覈シ狀況書ヲ作り願書ト共ニ聯隊區司令官ニ送附シ聯隊區司令官ハ之ニ意見ヲ附シ願書ト共ニ本人所屬ノ聯隊長若クハ之ノ下同等以上ノ權アル長官ニ移スヘシ

第一百十條 第一百二條乃至第一百五條ニ當ル者アルトキハ聯隊長若クハ之ノ下同等以上ノ權アル長官ハ師團長若クハ之ノ下同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ請ヒ現役、常備後備役又ハ兵役ヲ免ス

第一百十一條 憲兵上等兵、樂手補、樂生現役中禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ逃亡シタルトキハ其ノ刑期中逃亡ノ日數ハ服役年期ニ算入セス

第一百十二條 現役中徵兵令第十五條ニ依リ歸休ヲ命スヘキ者ハ二箇年以上服役シタル者ニ限ル但

警備隊兵卒、砲兵助卒ハ八箇月以上在營シタル者ニ限ル
歸休ヲ命スヘキ人員ハ陸軍大臣上裁ヲ經テ之ヲ定ム

第百十三條 歸休兵ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ聯隊區司令官ノ管轄ニ屬ス

第百十四條 歸休兵在郷中現役滿期ニ至リタルトキハ別ニ命テ豫備役ニ入ルモノトス

第百十五條 歸休兵在郷中傷痍若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ
診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第百十六條 歸休兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年一度簡閱點呼ヲ爲シ又
演習ノ爲メ若クハ臨時兵員ノ補缺ヲ要スルトキ之ヲ召集ス

第百十七條 歸休兵ハ官廳ニ奉職スルコトヲ得但奉職ノ故ヲ以テ召集ヲ猶豫若クハ免除スルコト
ナシ

第百十八條 歸休兵ハ退營後七日以内ニ衛戍地ヲ出發シ一日行程十里詰ヨリ鈔カラサル日數間ニ
歸郷シ著後七日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

退營後衛戍地若クハ其ノ他ノ地ニ八日以上滞在若クハ寄留セントスルトキハ前項ノ出發期日內
ニ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者^{成年以上ノ男子ニ限ル}ヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊
區司令官ニ届出テ歸郷シタルトキハ前項ノ届出ヲ爲スヘシ

前項ノ滞在地若クハ寄留地本籍地外ノ聯隊區ニ係ルトキハ其ノ地ノ市町村長ヲ經テ同地聯隊區
司令官ニモ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

第百十九條 歸休兵十四日以上旅行又ハ寄留セントスルトキハ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ
者^{成年以上ノ男子ニ限ル}ヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出テ歸郷シタルトキハ十四日以内ニ市町
村長ヲ經テ其ノ由テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

前項ノ寄留地本籍地外ノ聯隊區ニ係ルトキハ寄留地市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニモ届出

ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

第百二十條 歸休兵ハ外國ニ旅行又ハ寄留スルヲ許サス
對馬警備隊區ニ在テハ朝鮮國釜山ニ旅行又ハ寄留スルコトヲ得但此ノ場合ニ於テハ第百十九條
第一項ノ例ニ依ルヘシ

第百二十一條 歸休兵兵籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ
届出ヘシ但他ノ聯隊區ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第百二十二條 歸休兵ニシテ死亡又ハ失踪シタル者アルトキ及失踪中戶籍ヲ轉換シタルトキハ其
ノ戶主^{本人ノ主ナレハ家族ノ中家事ヲ擔當スル者}ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ失踪者ノ
歸郷シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ但他ノ聯隊區ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新
舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第百二十三條 歸休兵重罪輕罪<sup>罰金ヲノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ其ノ戶主<sup>本人
ナレハ家族ノ中家事ヲ擔當スル者</sup>ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ</sup>
家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第百二十四條 歸休兵演習又ハ臨時兵員補缺ノ爲メ召集ノ命ヲ受ケタルトキ傷痍疾病其ノ他ノ事
故ニテ召集ニ應シ難キトキハ傷痍疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書其ノ
他ノ事故ハ證明書ヲ添ヘ召集期日迄ニ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第百二十五條 第百十八條第一項及第二項第百十九條第一項第百二十條第二項第百二十一條乃至
第百二十四條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第百二十六條 第百十八條第百十九條ノ通報人正當ノ事由ヲシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其
ノ通報ヲ遅緩シタル者及第百二十條第一項ニ違背シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第二百二十七條 警備隊兵卒、砲兵助卒、砲兵輸卒、輜重輸卒ニシテ在營期限満チ退營後尙現役中ニ在ル者ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ聯隊區司令官ノ管轄ニ屬ス其ノ在郷中ハ第一百十四條乃至第一百二十六條ノ規定ニ從フモノトス

第三款 豫備役及後備役

第二百二十八條 豫備役後備役兵卒ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ聯隊區司令官ノ管轄ニ屬ス
第二百二十九條 再服役満期若クハ第一百七條第一百八條ニ依リ豫備役ニ入ル者ノ服役期限ハ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ七箇年四箇月トス臺灣憲兵ニシテ通常ノ現役ヲ終リ豫備役ニ入ル者亦同シ
第二百三十條 前條ニ依リ豫備役ヲ終リタル者ハ五箇年間後備役ニ服セシム
七箇年四箇月以上現役ニ服シ直ニ後備役ニ入ル者ノ服役期限ハ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ十二箇年四箇月トス

第二百三十一條 豫備役後備役兵卒服役満期ニ至リタルトキハ別ニ命ナクシテ豫備役ハ後備役ニ後備役ハ第一國民兵役ニ入ルモノトス

第二百三十二條 豫備役後備役兵卒ニシテ各兵科衛生部、軍吏部下士適任證書又ハ砲兵工科學校、經理學校卒業證書ヲ所持スル者ハ満期後引續キ服役スルコトヲ得志願ノ者ハ年數ヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ願出ヘシ

第二百三十三條 豫備役後備役兵卒傷痍若クハ疾病ニ由リ豫備後備ノ役ニ堪ヘ難キ者ハ第一國民兵役ニ服セシメ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス
在郷中傷痍若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ願出ヘシ

第二百三十四條 豫備役後備役兵卒ニシテ外國ニ旅行又ハ寄留中ノ者ハ勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ但對馬警備隊區ニ在テ朝鮮國釜山ニ旅行又ハ寄留スル者ハ此ノ限ニアラス

第二百三十五條 豫備役後備役兵卒ニシテ他ノ聯隊區ニ寄留スル者ハ願ニ依リ其ノ地ニ於テ簡閱點呼ヲ受クルコトヲ得

一箇年以上他ノ師管ニ寄留スル者ハ願ニ依リ寄留地師管ニ於テ勤務演習ヲ爲スコトヲ得
前二項ニ依リ願出ル者ハ其ノ願書ニ本籍市町村長ノ奧書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ差出スヘシ但許可ヲ受ケタルトキハ寄留地到著後ハ指令書受領後三日以内ニ豫備役後備役編入年ヲ記シ其ノ由ヲ寄留地市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニ願出ヘシ

第二百三十六條 豫備役後備役兵卒ニシテ止ムヲ得サル事故アリ勤務演習召集ノ猶豫若クハ簡閱點呼ノ免除ヲ願ハント欲スルトキハ其ノ願書ニ市町村長ノ奧書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ差出スヘシ

第二百三十七條 現役ヨリ豫備役若クハ後備役ニ入ル兵卒ハ七日以内ニ衛戍地ヲ出發シ一日行程十里詰ヨリ抄カラサル日數間ニ歸郷シ著後七日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ願出ヘシ
衛戍地若クハ其ノ他ノ地ニ八日以上滞在若クハ寄留セントスルトキハ前項ノ出發期日內ニ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者成年以上ノ男子ニ限ルヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ願出ヘシ
官ニ願出テ歸郷シタルトキハ前項ノ願出ヲ爲スヘシ
前項ノ滞在地若クハ寄留地本籍地外ノ聯隊區ニ係ルトキハ其ノ地ノ市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニモ願出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

第二百三十八條 豫備役後備役兵卒十四日以上旅行或ハ寄留セントスルトキハ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者成年以上ノ男子ニ限ルヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ願出テ歸郷シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ願出ヘシ

前項ノ寄留地本籍地外ノ聯隊區ニ係ルトキハ寄留地市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニモ願出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

外國ニ在ル者召集ノ通報ヲ受ケ又ハ其ノ他ノ手續ニ依リ充員召集若クハ後備軍召集ノ舉アルコトヲ確知シタルトキハ直ニ歸朝シ本籍地到着後二十四時以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第三百二十九條 豫備役後備役兵卒兵籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ但シ他ノ聯隊區ニ兵籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ
第四百十條 豫備役後備役兵卒ニシテ市町村長、助役、收入役ト爲リ又ハ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ職員ト爲リタルトキ並ニ之ヲ罷メタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第四百一十一條 豫備役後備役兵卒ニシテ死亡又ハ失踪シタル者アルトキ及失踪中兵籍ヲ轉換シタルトキハ其ノ戸主、本家人、主ナレハ家族ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ失踪者ノ歸郷シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ但シ他ノ聯隊區ニ兵籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第四百一十二條 豫備役後備役兵卒重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ其ノ戸主、本家人、主ナレハ家族ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第四百一十三條 第二百二十五條第二項但書第三百七十七條第一項及第二百二十八條第一項及第二百二十九條乃至第四百一十二條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
第四百一十四條 第三百二十七條第三百二十八條ノ通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遅延シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第五章 補充兵ノ服役

第四百一十五條 第一補充兵第二補充兵ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ聯隊區司令官ノ管轄ニ屬ス
第四百一十六條 補充兵服役滿期ニ至リタルトキハ別ニ命ナクシテ第一補充兵ハ第一國民兵役ニ第一補充兵ハ第二國民兵役ニ入ルモノトス

第四百一十七條 補充兵傷病若クハ疾病ニ由リ補充兵役ニ堪ヘ難キ者ハ第二國民兵役ニ服セシメ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス
在郷中傷病若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ
第四百一十八條 第一補充兵ニシテ外國ニ旅行又ハ寄留中ノ者ハ勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ但シ對馬警備隊區ニ在テ朝鮮國釜山ニ旅行又ハ寄留スル者ハ此ノ限ニアラス
第四百一十九條 第一補充兵ニシテ他ノ聯隊區ニ寄留スル者ハ願ニ依リ其ノ地ニ於テ簡閱點呼ヲ受クルコトヲ得

一箇年以上他ノ師管ニ寄留スル者ハ願ニ依リ寄留地師管ニ於テ勤務演習ヲ爲スコトヲ得
前二項ニ依リ願出ル者ハ其ノ願書ニ本籍市町村長ノ奥書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ差出スヘシ但シ許可ヲ受ケタルトキハ寄留地到着後寄留後出願ノ者三日以内ニ第一補充兵編入年ヲ記シ其ノ由ヲ寄留地市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第四百二十條 第一補充兵ニシテ止ムヲ得サル事故アリ勤務演習召集ノ猶豫若クハ簡閱點呼ノ免除ヲ願ハント欲スルトキハ其ノ願書ニ市町村長ノ奥書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ差出スヘシ
第四百二十一條 補充兵十四日以上旅行或ハ寄留セントスルトキハ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘシ若キ者成年以上ノ子ニ限ルヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出テ歸郷シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ
前項ノ寄留地本籍地外ノ聯隊區ニ係ルトキハ寄留地市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニモ届出

ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ
外國ニ在ル者召集ノ通報ヲ受ケ又ハ其ノ他ノ手續ニ依リ充員召集若クハ後備軍召集ノ舉アルコ
トヲ確知シタルトキハ直ニ歸朝シ本籍地到着後二十四時以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ
届出ヘシ

第二百五十二條 第一補充兵兵籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令
官ニ届出ヘシ但他ノ聯隊區ニ兵籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ
第二百五十三條 第一補充兵ニシテ市町村長、助役、收入役ト爲リ又ハ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ
議員ト爲リタルトキ竝ニ之ヲ罷メタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出
ヘシ

第二百五十四條 補充兵ニシテ死亡又ハ失踪シタル者アルトキ及失踪中兵籍ヲ轉換シタルトキハ其
ノ戸主、本人、戸主ナレハ家族ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ失踪者ノ
歸郷シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ但他ノ聯隊區ニ兵籍ヲ轉換シタルトキハ新
舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第二百五十五條 補充兵重罪輕罪除金ヲ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ其ノ戸主、本人
事ヲ擔當スル者ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ
家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第二百五十六條 第四百九十九條第三項但書第五百一十一條第一項及第三項第五百五十二條乃至第五百
五條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
第二百五十七條 第五百一十一條ノ通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ
遅緩シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第六章 雜則

第二百五十八條 一年志願兵、六週間現役兵及屯田各兵科下士兵卒ノ服役ニ關シテハ別ニ定ムル所
ニ依ル

第二百五十九條 一年志願兵ヨリ豫備役ニ轉入シタル士官、准士官及下士兵卒ノ豫備役後備服役
年期ハ一年志願兵條例ノ規定ニ依ル

第六十條 士官候補生、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官及見習軍吏ニシテ各兵科各部ノ下士
ニ任セラレ又ハ兵卒ト爲リ豫備役ニ編入セラレタル者ハ其ノ編入年ノ十二月一日ヨリ起算シ七
箇年四箇月間豫備役ニ豫備役終ルノ後五箇年間後備役ニ服セシメ後備役終ルノ後ハ第一國民兵
役ニ服セシム

第六十一條 本條例中特ニ下士兵卒雜卒職工ヲ包ノ服役期限ヲ定メサルモノハ總テ徵兵令ノ規
定ニ從フモノトス

第六十二條 現役豫備役將校、同相當官一年志願兵ヨリ豫備役將校同ニシテ服役延期中進級シタ
ル者ノ服役期限ハ前官ノ現役定年限年數ニ依ル

第六十三條 豫備役後備役將校、同相當官、准士官、下士、兵卒及第一補充兵ニシテ文官ニ任セラレ
若クハ公吏トナリ餘人ヲ以テ代フヘカラサル者又ハ運輸其ノ他ノ業ニ從事シ戰役ニ關シ必要ノ
職務ヲ執ル者ハ陸軍大臣上裁ヲ經テ充員召集若クハ後備軍召集ヲ猶豫スルコトアルヘシ

第六十四條 徵兵令第二十四條及本條例第二十六條第七十七條ノ餘人ヲ以テ代フヘカラサル職
務ヲ奉スル者ハ豫メ當該官廳ヨリ内閣ニ具狀シ勤務演習及簡閱點呼免除ノ認可ヲ受ケ將校、同
相當官及准士官ニ在テハ本人所管ノ師團長ニ下士以下ニ在テハ本人所管ノ聯隊區司令官ニ通報
スヘシ其ノ事故止ミタルトキ亦同シ

第六十五條 本條例ニ依リ町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ差出ス在郷陸軍軍人ノ願屆書ハ尙島司

郡長ヲ經由スヘシ

附則

第百六十六條 市制町村制ヲ實施セサル地方ニ在テ本條例中市町村長ノ職務ハ區戶長及之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

第百六十七條 陸軍豫備後備將校服役條例、陸軍豫備後備下士兵卒服役條例、陸軍現役下士上等兵再服役條例、陸軍歸休兵條例及明治二十二年勅令第二十七號ハ本條例施行ノ日ヨリ廢止ス

第百六十八條 本條例ハ發布ノ日ヨリ施行ス

〔照參〕

勅令第三十七號(明治二十二年三月二十一日官報)
陸軍輜重輸卒ノ現役期限ハ一箇年トシ三期ニ分チ入營セシム其第一期ハ十二月一日第二期ハ四月一日第三期ハ八月一日トス

疾病犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ次期ニ於テ入營セシメ其補缺員ハ次期入營ス可キ者ヲ繰上ケ其月ノ十日迄ニ入營セシム但第三期ニ在テハ豫備後備員ヲ以テ補缺ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ屯田後備役兵村及下士兵卒監視規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年八月三日

陸軍大臣 侯爵 大山 巖

勅令第二百三十九號(官報 六月四日)

屯田後備役兵村及下士兵卒監視規則

第二條 屯田後備役各兵村ニ兵村監視ヲ置キ其ノ兵村ノ開墾耕稼ニ關スル事務及下士兵卒ノ服役ニ係ル事務ヲ取扱ハシム

兵村監視ハ後備役屯田各兵科曹長ヲ以テ之ニ充ツ其ノ身分取扱ハ召集中ノ者ニ同シ

第二條 兵村監視ノ職掌開墾耕稼ニ係ルモノハ師團長ニ下士兵卒ノ服役ニ係ルモノハ聯隊區司令官ニ隸ス

第三條 兵村監視ハ兵村ノ下士兵卒ノ動作及開墾耕稼ニ關スル事ヲ監視シ師團長ノ命令ヲ傳達シ又下士兵卒身上異動其ノ他願届ニ關スル事ヲ取扱ヒ聯隊區司令官ニ報告ス

第四條 屯田後備役下士兵卒三日以上十三日以下旅行セントスルトキハ兵村監視ノ承認ヲ受ケタル後其ノ出發時日ヲ届出テ歸村シタルトキハ三日以内ニ兵村監視ニ届出ヘシ

第五條 屯田後備役下士兵卒十四日以上旅行或ハ寄留セントスルトキハ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者成年以上ノゾ定メ兵村監視ヲ經テ聯隊區司令官ニ願出テ許可ヲ受ケタル後其ノ出發時日ヲ兵村監視ニ届出テ歸村シタルトキハ十四日以内ニ兵村監視ニ届出ヘシ其ノ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦本條ニ依リ許可ヲ受ケヘシ

第六條 屯田後備役下士兵卒戶籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以内ニ兵村監視ニ届出ヘシ

第七條 屯田後備役下士兵卒ニシテ止ムヲ得サル事故アリ勤務演習召集ノ猶豫若クハ簡閱點呼ノ免除ヲ願ハント欲スルトキハ其ノ願書ニ近鄰戶主二名ノ證明ヲ受ケ兵村監視ヲ經テ聯隊區司令官ニ願出ヘシ

第八條 屯田後備役下士兵卒ヲ文官ニ採用セントスルトキハ當該官廳長官ヨリ第七師團長ノ承認ヲ受ケルモノトス

屯田後備役下士兵卒ニシテ文官ニ任セラレ餘人ヲ以テ代フヘカラサル職務ヲ奉スル爲メ勤務演習召集ノ猶豫若クハ簡閱點呼ノ免除ヲ要スルトキ亦前項ニ同シ但其ノ事故止ミタルトキハ第七師團長ニ通知スヘシ

第九條 第四條又ハ第五條ノ規程ニ違背シ及第六條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢

以下ノ科料ニ處ス

第十條 第五條ノ通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遅緩シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第十一條 屯田後備役下士兵卒師團長ノ命令ニ服従セス又ハ兵村監視ノ職務ヲ妨害スル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

附則

第十二條 本規則ハ隊伍ニ編入セサル屯田後備役下士兵卒及其ノ兵村ニ適用ス但此ノ場合ニ在テハ兵村監視ハ豫備役屯田各兵科曹長ヲ以テ之ニ充ツ其ノ身分取扱ハ召集中ノ者ニ同シ

第十三條

本規則ハ發布ノ日ヨリ施行ス

朕官設鐵道ニ屬スル土地家屋ヲ私設鐵道會社ニ賣渡又ハ貸渡ストキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年六月四日

遞信大臣白根專一

勅令第二百四十號(官報六月五日)

官設鐵道及私設鐵道ノ連絡營業ノ爲メ必要アル場合ニ於テ官設鐵道ニ屬スル土地家屋ヲ私設鐵道會社ニ賣渡又ハ貸渡ストキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

朕中央衛生會官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年六月五日

內閣總理大臣侯爵伊藤博文
內務大臣伯爵板垣退助

勅令第二百四十一號(官報六月六日)

明治二十八年勅令第五十七號中央衛生會官制中左ノ通改正ス

第五條第一項中委員二十八ヲ二十一ニ改メ第二項中帝國大學醫科大學長ノ下ニ「拓殖務省高等官一人」ノ九字ヲ加フ

第七條第一項中內務省高等官ノ下ニ「拓殖務省高等官」ノ七字ヲ加フ

〔參照〕

勅令第五十七號中央衛生會官制(明治二十八年五月一日官報)抄錄

第五條第一項 中央衛生會ハ會長一人委員二十八以内ヲ以テ之ヲ組織ス

同條第三項 委員ハ宮內省待醫局長內務省警保局長內務省衛生局長內務省高等官二人陸軍省醫務局長海軍省衛生會議議長帝國大學醫科大學長及醫師藥學家若干人ヲ以テ之ニ充ツ

第七條第一項 委員中內務省高等官醫師藥學家及臨時委員ハ內務大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

朕在外國公使館附陸海軍武官俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年六月五日

內閣總理大臣侯爵伊藤博文

勅令第二百四十二號(官報六月六日)
在外國公使館附陸海軍武官俸給令別表任所ノ區畫中「獨伊」ヲ「獨澳伊」ニ改メ「陸海軍佐官」ノ上位ニ
左ノ縱畫ヲ追加ス

海軍大臣 侯爵西郷從道
陸軍大臣 侯爵大山 巖

〔參照〕

勅令第二百十二號在外國公使館附陸海軍武官俸給令(明治二十六年十一月二十四日官報)抄録
(別表)
在外國公使館附陸海軍武官在勤俸

將	陸	官	任	所	英	露	米	佛	獨	伊	清	朝	鮮							
官	軍	佐	海	軍	二	千	二	百	圓	二	千	四	千	七	百	圓	千	六	百	圓
尉	海	官	軍	尉	二	千	圓	千	八	百	圓	千	六	百	圓	千	五	百	圓	

朕文部省官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御璽

明治二十九年六月六日

內閣總理大臣臨時代理
樞密院議長 伯爵黑田清隆
文部大臣 侯爵西園寺公望

勅令第二百四十三號(官報六月八日)
文部省官制中左ノ通改正ス

第二條ノ二ヲ「小學校ニアラサル學校」ノ教員檢定ニ關スル事項ニ改ム
第七條ニ左ノ一項ヲ加フ
九 學校衛生顧問ニ關スル事項

〔參照〕
勅令第四百四十四號文部省官制(明治二十六年十月三十一日官報)抄録
第二條 大臣官房ニ於テハ通則ニ據クルモノ、外左ノ事務ヲ掌ル
一 教員檢定ニ關スル事項
第七條 普通學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
(一)ヨリハニ至ル各項略ス

朕海軍主廚ヲ海軍筆記ニ任用スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御璽

明治二十九年六月六日

海軍大臣 侯爵西郷從道

勅令第二百四十四號(官報六月八日)
海軍主廚ニシテ明治二十九年勅令第四百四十六號海軍筆記任用令施行以前ヨリ現役ニ在ル者ハ同令
ニ依リ學術試験ヲ行ヒ其ノ及第者ヲ海軍筆記ニ任用スルコトヲ得
朕陸軍定員令廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年六月八日

陸軍大臣 侯爵 大山 巖

勅令第二百四十五號 (官報 六月九日)

明治二十三年勅令第二百六十七號陸軍定員令ヲ廢止ス

朕師團監督部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年六月八日

陸軍大臣 侯爵 大山 巖

勅令第二百四十六號 (官報 六月九日)

師團監督部條例

- 第一條 師團監督部ハ師團司令部所在ノ地ニ之ヲ置キ近衛及第一師團監督部ニアリテハ陸軍糧餉部第七師團監督部ニアリテハ陸軍經營部其他ノ師團監督部ニアリテハ陸軍糧餉部及陸軍經營部ヲ管理シ軍隊ノ會計事務ヲ監督シ陸軍官衙ノ會計事務ヲ監視シ總テ官金ノ收支官有物ノ出納ニ關スル計算及物件^{出師準備品ヲ除ク}ヲ檢査シ且事務管轄區域内ノ軍吏部士官下士ノ人事ヲ掌ル
- 近衛及第一師團監督部長ハ其管轄スル陸軍建築物ノ業務ニ就テハ東京陸軍經營部主管ニ命令ヲ爲スヘシ
- 第二條 師團監督部ハ當該師團ノ名稱ヲ冠シ之ヲ某師團監督部ト稱ス
- 第三條 第四條及第五條ニ掲クル外師團監督部ニ左ノ職員ヲ置ク
 - 部長 一二等監督

課長 三等監督若クハ監督補

部員 一二三等軍吏

第四條 都督部所在地師團監督部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長 監督長若クハ一等監督

課長 一二等監督

部員 一二三等軍吏

第五條 第七師團監督部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長 一二等監督

部員 監督補

副部員 一二等軍吏

第六條 監督部ニ二課ヲ置ク第一課ハ計算及建築陣營事務第二課ハ糧食被服事務ヲ分掌ス但第七師團監督部ニハ課ヲ置カス

第七條 監督部ハ當該師管ヲ以テ事務ノ管轄區域トス但近衛及第一師團監督部ノ管轄スヘキ事務ノ區域ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第八條 監督部長ハ陸軍大臣ニ隸シ其部長タル監督長又ハ監督ハ軍隊給養上^{第七師團ニアリ及會計ノ事項ニ關スル}動員計畫ニ付テハ師團長ノ命令ヲ承クヘシ

第九條 部長ハ部務ヲ總理シ管掌ノ事務ニ於テハ其責ニ任ス

第十條 部長ハ管轄區域内ニ係ル會計上ニ就テ必要アルトキハ當該長官又ハ主任官吏ニ諮問シ其

第十一條 部長ハ管轄區域内ノ官衙及軍隊ニ係ル會計上ノ閱檢ヲ行ヒ委任經理金ノ收支ヲ認認シ

廢品^{出師準備}ハ除クノ賣却ヲ許可シ又必要ニ際シ官衙軍隊ノ金櫃物件及帳簿ヲ検査ス但軍隊ニアリテハ閱檢前師團長ノ承認ヲ經ルモノトス

第十二條 課長ハ課務ヲ整理シ分掌ノ事務ニ就テハ其責ニ任ス

第十三條 部員ハ第七師團監督部ニアリテハ部長其他ノ師團ニアリテハ課長ノ命ヲ承ケ事務執行ノ責ニ任ス

第十四條 第三條第四條第五條ニ掲グル職員ノ外軍吏部下士ヲ置ク

附則

第十五條 新設師團設置ニ至ルマテ近衛及第一師團ヲ除クノ外師團監督部ノ管轄スヘキ區域ハ從前ノ管區ニ依ル但必要ノ場合ニ於テハ陸軍大臣ハ監督部ノ管轄スヘキ事務ノ區域ヲ指定スルコトヲ得

第十六條 本條例第四條ニ掲グル職員ハ都督部設置ニ至ルマテ第三條ノ例ニ依ル

第十七條 明治二十三年勅令第五十六號師團監督部條例同年勅令第八十三號第七師團監督部條例ハ本條例施行ノ日ヨリ廢止ス

朕士官候補生見習醫官見習藥劑官見習獸醫官獸醫學校生徒陸軍一年志願兵野戰砲兵輸卒及要塞砲兵助卒ノ服制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年六月八日

陸軍大臣侯爵大山 巖

勅令第二百四十七號(官報六月九日)

士官候補生見習醫官見習藥劑官見習獸醫官獸醫學校生徒陸軍一年志願兵野戰砲兵輸卒及要塞砲兵助卒服制左ノ通定ム

第一條 士官候補生ノ服制ハ其ノ階級ニ應シ下士兵卒ト同一トス

第二條 見習醫官ノ服制ハ一等看護長ニ見習藥劑官ノ服制ハ一等調劑手ニ同シ

第三條 見習獸醫官ノ服制ハ見習醫官ニ同シ但肩章ハ花葉トシ夏衣ハ左臂ニ花葉ヲ附シ外套ハ乘馬外套トス

第四條 一年志願兵ノ服制ハ別ニ定ムルモノノ外其ノ階級ニ應シ各兵科ノ下士兵卒ト同一トス但軍醫生藥劑生獸醫生ハ該隊曹長ト同一トシ軍吏生ニシテ三等書記ノ階級ニ進メタルモノハ該隊二等軍曹ト同一トス

第五條 士官候補生見習醫官見習藥劑官見習獸醫官各兵科豫備後備見習士官軍醫生藥劑生獸醫生軍吏生ハ衣ノ襟部ニ特別ノ徽章ヲ附ス

第六條 見習醫官見習藥劑官見習獸醫官及士官勤務修習中ノ士官候補生ノ刀、劔、刀緒、劔緒、刀帶、劔帶、背囊、携帶囊、脚絆等ハ當該士官ト同一トス

第七條 陸軍獸醫學校生徒ノ服制ハ看護手ニ同シ但袖章ヲ附セス肩章ハ花葉トシ夏衣ハ左臂ニ花葉ヲ附シ外套ハ乘馬外套トス

第八條 野戰砲兵輸卒ノ服制ハ砲兵科ノ卒ニ同シ但袖章ヲ附セス外套ハ徒歩外套トス

第九條 要塞砲兵助卒ノ服制ハ要塞砲兵二等卒ニ同シ

朕臺灣島澎湖島竝ニ海外ニ駐劄スル陸軍各部隊ニ屬スヘキ陸軍下士若クハ判任文官ノ補缺ニ充ツル雇員給料支辨ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年六月八日

陸軍大臣 侯爵 大山 巖

勅令第二百四十八號(官報 六月九日)
臺灣及澎湖島並ニ海外ニ駐劄ノ陸軍各部隊ニ屬スヘキ陸軍下士又ハ判任文官定員ノ補缺ニ充ツル
雇員ニシテ當該駐劄陸軍部隊給與規則ノ給與ヲ受クル者ノ給料ハ俸給豫算定額内ヲ以テ支辨スル
コトヲ得

朕地方官官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年六月九日

内閣總理大臣 臨時代理

樞密院議長 伯爵 黑田 清隆

内務大臣 伯爵 板垣 退助

勅令第二百四十九號(官報 六月十日)
地方官官制中左ノ通改正ス
第三十一條中第一項ヲ左ノ通改メ第三項ヲ刪除ス
各郡市ニ警察署ヲ置ク但シ地方ノ必要ニ應ジ郡市ノ區域ニ依ラスシテ警察署ヲ置クコトヲ得此
ノ場合ニ於テハ内務大臣其ノ管轄區域ヲ定ム
第三十七條 府縣職員ノ外監獄醫ヲ置ク判任官ノ待遇トス 特ニ警察醫ヲ置クトキ亦同シ

〔參照〕

勅令第六十二號地方官官制(明治二十六年十月三十一日官報)抄録
第三十一條第一項 各郡市ニ警察署ヲ置ク但郡市ノ區域ニ依ラスシテ警察署ヲ置クノ必要アル場合ニ於テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

同條第三項 沖繩縣ノ警察區域ハ舊ニ依ル

第三十七條 府縣職員ノ外監獄醫ヲ置ク判任官ノ待遇トス

朕郡長廢置ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年六月九日

拓殖務大臣 子爵 高島 綱之助

勅令第二百五十號(官報 六月十日)
北海道廳管下札幌郡、千歲郡、夕張郡、空知郡、雨龍郡、上川郡、樺戶郡、石狩郡、厚田郡、濱益郡ニ郡長一
人ヲ置クコトヲ廢止シ札幌郡、千歲郡、石狩郡、厚田郡、濱益郡ニ郡長一人夕張郡、空知郡、雨龍郡、上川
郡、樺戶郡ニ郡長一人ヲ置ク

附則

本令ハ明治二十九年六月十五日ヨリ施行ス

朕警視廳官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年六月十日

内閣總理大臣臨時代理

樞密院議長伯爵黑田清隆
内務大臣伯爵板垣退助

勅令第二百五十一號(官報 六月十一日)

明治二十六年勅令第五百五十九號警視廳官制中左ノ通改正ス

第一條 警視廳ニ左ノ職員ヲ置ク

警視總監

警視

技師

警察醫長

消防司令長

典獄

警部

警視屬

技手

消防士

警察醫

監獄書記

看守長

消防機關士

第二條 警視ハ二十六人、警察醫長、消防司令長及典獄ハ各一人奏任トス

第十四條 警視廳ニ總監官房ヲ置ク

總監官房ニ三課ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ

第一課

一 各部署成案ノ審査及制規ニ關スル事項

二 官吏ノ進退及身分ニ關スル事項

三 公文ノ編纂保存統計並書籍ノ管守ニ關スル事項

四 文書ノ往復及官印應印ノ管守ニ關スル事項

五 他課及各部署ノ主務ニ關セサル事項

第二課

一 高等警察ニ關スル事項

二 外國人ニ關スル事項

第三課

一 經費豫算、決算及金銭出納ニ關スル事項

二 金錢物品出納ノ検査ニ關スル事項

三 需用物品ノ調度及地所建物ニ關スル事項

四 官沒並保管ノ金錢物品及不用品ニ關スル事項

第十五條 總監官房各課長ハ警視ヲ以テ之ニ補シ 課員ハ警部、警察醫ヲ以テ之ニ充ツ

課長ハ警視總監ノ命ヲ承ケ其ノ課ノ事務ヲ掌理シ 部下ノ官吏ヲ監督ス 課員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ

其ノ課ノ庶務ニ従事ス

第十六條 第四部ヲ刪ル

第十七條 第一部ニ二課ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ

第一課

一 營業及風俗警察、銃砲火藥刀劍等ニ關スル事項

第二課

一 交通警察、竝田野森林河海堤防取締及水火災豫防等ニ關スル事項

第十九條 刪除

第二十條 中第四部ヲ第三部ニ改ム

第二十一條 第一部長及第二部長ハ警視ヲ以テ之ニ補シ、第三部長ハ警察醫長ヲ以テ之ニ充ツ

部長事故アルトキハ警視總監ニ於テ警視廳官吏ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム

第一部及第二部ノ課長ハ警部又ハ警視廳、課員ハ警部、警視廳ヲ以テ之ニ充ツ

第三部ノ課長ハ警視廳又ハ警察醫課員ハ警視廳、警察醫ヲ以テ之ニ充ツ

〔參照〕

勅令第五百十九號警視廳官制(明治二十六年十月三十一日官報)抄錄

第一條 警視廳ニ左ノ職員ヲ置ク

警視總監

警視

技師

消防司令長

警察醫長

典獄

警部

警視廳

技手

消防士

警察醫

監獄書記

看守長

消防機關士

第三條 警視ハ二十六人消防司令長、警察醫長及典獄ハ各一人委任トス

第十四條 警視廳ニ總監官房ヲ置ク

總監官房ニ二課ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ

第一課

一 各部署成案ノ審査及制規ニ關スル事項

二 官吏ノ進退及身分ニ關スル事項

三 公文ノ編纂、保存、統計、並書籍ノ管守ニ關スル事項

四 文書ノ往復及官印、印ノ管守ニ關スル事項

五 他課及各部署ノ主務ニ關セサル事項

第二課

一 經費豫算、決算及金繰出納ニ關スル事項

二 金錢物品出納ノ検査ニ關スル事項

三 需用物品ノ調度及地所建物ニ關スル事項

四 官收、官保、官管ノ金錢物品及用品ニ關スル事項

第十五條 總監官房各課長ハ警視課員ハ警視廳ヲ以テ之ニ充ツ

課長ハ警視總監ノ命ヲ承ケ其ノ課ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス、課員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ課ノ庶務ニ従事ス

第十六條 警視廳ニ左ノ部署ヲ置ク

第一部

第二部

第三部

第四部

消防署

監獄署

第一課

第十七條 第一部ニ二課ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ

一 新聞紙雜誌及政治風俗ニ關スル出版物、並政社集會ニ關スル事項

第二課

一 外國人ニ關スル事項

第十九條 第三部ニ課ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ

第一課

一 營業及風俗警察並銃砲火藥刀劍等ニ關スル事項

第二課

一 交通警察並田野森林河海堤防取締及水火災豫防等ニ關スル事項

第二十條 第四部ニ課ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ

第一課

一 衛生警察ニ關スル事項

第二課

一 警察監獄ニ關スル醫務及分析等ニ關スル事項

第二十一條 第一部長、第二部長及第三部長ハ警視第四部長ハ警察署長ヲ以テ之ニ充ツ部長事故アルトキハ警視總監ニ於テ警視廳官吏ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム

第一部、第二部長及第三部長ハ警部又ハ警視廳、課員ハ警部、警視廳ヲ以テ之ニ充ツ

第四部ノ課長ハ警視廳又ハ警察醫、課員ハ警視廳、警察醫ヲ以テ之ニ充ツ

○

朕警視廳高等官俸給令ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年六月十日

勅令第二百五十二號(官報六月十一日)

警視廳高等官俸給令

内閣總理大臣臨時代理

樞密院議長伯爵黑田清隆

内務大臣伯爵板垣退助

第一條 警視廳高等官ノ年俸左ノ如シ

警視總監

警視 第一部長ニ補スル者

警視 第二部長ニ補スル者

警視 官房第一課長ニ補スル者

警視 官房第二課長ニ補スル者

警視 官房第三課長ニ補スル者

警視 警察署長ニ補スル者

警察署長

消防司令長

典獄

第二條 警察署長ニ補スル警視ノ俸給區別ハ内務大臣其ノ警察署ニ就テ之ヲ指定スヘシ

第一級 四千圓

第二級 二千二百圓

第三級 千八百圓

第一級 千八百圓

第二級 千六百圓

第三級 千四百圓

第一級 千五百圓

第二級 千二百圓

第三級 千二百圓

第一級 千二百圓

第二級 八百圓

第三級 七百圓

第一級 八百圓

第二級 七百圓

第三級 七百圓

第一級 千五百圓

第二級 千二百圓

第三級 八百圓

勅令第二百五十四號(官報六月十五日)

內務省官制中左ノ通改正ス

第十二條 內務省ニ專任技師二人專任技手四人ヲ置ク

〔參照〕

勅令第二百二十七號內務省官制(明治二十六年十月三十一日官報)抄錄
第十二條 內務省ニ技師二人技手四人ヲ置ク

朕祝關官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年六月十五日

內閣總理大臣臨時代理

樞密院議長伯爵黑田清隆

大藏大臣子爵渡邊國武

勅令第二百五十五號(官報六月十六日)

稅關官制中左ノ通改正ス

第五條中屬「百八十二人」ヲ「百九十四人」ニ監吏「二十六人」ヲ「三十二人」ニ監吏補「二百八十六人」ヲ「二百十六人」ニ改ム

〔參照〕

勅令第三百三十八號稅關官制(明治二十六年十月三十一日官報)抄錄
第五條 各稅關ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

監定官 二人 奏任
屬 百八十二人 判任

監定吏 二十四人 判任
監吏 二十六人 判任
監吏補 二百八十六人 判任

朕陸軍軍樂學會條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年六月十六日

陸軍大臣侯爵大山 巖

勅令第二百五十六號(官報六月十七日)
陸軍軍樂學會條例中「舍」ヲ「校」ニ改ム

朕鐵道會議規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年六月十九日

內閣總理大臣臨時代理

樞密院議長伯爵黑田清隆

遞信大臣 白根專一

勅令第二百五十七號(官報六月二十日)
鐵道會議規則中左ノ通改正ス

第四條第一項中「二十人」ヲ「二十一人」ニ改メ第二項中「農商務省」ノ下ニ「拓殖務省」ノ四字ヲ加フ

〔參照〕

勅令第五百五十三號鐵道會議規則(明治二十七年八月二十四日官報)抄錄
第四條 鐵道會議ハ職員二十人以上以内ヲ以テ之ヲ組織ス
選任者高等官四人、陸軍省及參謀本部高等官二人、内務省大臣、農商務省高等官各一人ハ職員ニ加フヘキモノトス

朕海軍高等武官候補生規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年六月二十日

内閣總理大臣臨時代理

樞密院議長伯爵黑田清隆

海軍大臣侯爵西郷從道

勅令第二百五十八號(官報 六月二十二日)

海軍高等武官候補生規則中左ノ通改正ス

第五條 海軍少主計候補生ハ官立公立尋常中學校ヲ卒業シ若クハ之ト同等以上ノ學力ヲ有シ且法律及經濟學ヲ教授スル學校ニ於テ三年以上ノ課程ヲ終ヘタル者ニ就キ身體檢查學術試驗ヲ行ヒ合格シタル者ヨリ其ノ成績順序ニ從ヒ採用ス

第十四條 削除

第十五條 中「及實務」ノ二字ヲ削ル

〔參照〕

勅令第二百五十一號海軍高等武官候補生規則(明治二十六年十二月十八日官報)抄錄
第五條 海軍少主計候補生ハ官立公立尋常中學校若クハ海軍大臣ニ於テ之ト同等以上ノ學力ヲ有シ且法律及經濟學ヲ教授スル學校ニ於テ三年以上ノ課程ヲ終ヘタル者ニ就キ身體檢查學術試驗ヲ行ヒ合格シタル者ヨリ其ノ成績順序ニ從ヒ採用ス

第十四條 候補生海軍高等武官任用條例第二條ノ學術試驗ニ合格セサルトキハ六箇月ノ後再試驗ヲ行ヒ仍不合格ノ者ハ之ヲ免ス

第十五條 身體檢查學術及實務試驗ニ關スル規程ハ海軍大臣之ヲ定ム

級順序ニ從ヒ採用ス

第十四條 候補生海軍高等武官任用條例第二條ノ學術試驗ニ合格セサルトキハ六箇月ノ後再試驗ヲ行ヒ仍不合格ノ者ハ之ヲ免ス

第十五條 身體檢查學術及實務試驗ニ關スル規程ハ海軍大臣之ヲ定ム

朕血清及痘苗代價納付ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年六月二十五日

内務大臣伯爵板垣退助
大藏大臣子爵渡邊國武

勅令第二百五十九號(官報 六月二十六日)

政府ニ納ムヘキ血清及痘苗代價ハ其ノ金額ニ相當スル登記印紙ヲ以テ納メシムルコトヲ得本令ハ明治二十九年七月一日ヨリ施行ス

朕臨時廣島軍用水道施設部ニ於テ要スル「セメント」ノ購入ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年六月二十九日

陸軍大臣侯爵大山 巖

勅令第二百六十號(官報 六月三十日)

臨時廣島軍用水道施設部ニ於テ水道工事ニ要スル「セメント」ノ購入ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

朕占領地總督部條例廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年六月二十九日

勅令第二百六十一號(官報六月三十日)

明治二十八年勅令第三十八號占領地總督部條例明治二十九年六月三十日限り廢止ス

陸軍大臣侯爵大山 巖

朕航路標識視察船及海底電線布設船乘組員ニ食卓料ヲ支給スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年七月一日

陸軍大臣侯爵大山 巖
遞信大臣 白根專一

勅令第二百六十二號(官報七月二日)

第一條 航路標識視察船及海底電線布設船乘組員ニハ左ノ等級ニ應シ別表ニ依リ食卓料ヲ支給ス
但外國人ヲ乘組マシムルトキハ特ニ一日金二圓迄ヲ支給スルコトヲ得

一等食卓料 船 長 一等機關手
二等食卓料 一等運轉手以下 二等機關手以下 事務員 醫員
三等食卓料 水火夫長以下
第二條 主務大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ一等運轉手、二等機關手、事務員又ハ醫員ニ一等食卓料ヲ支給スルコトヲ得

附則
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス
(別表)

種別	等級	一	二	三
航海申一日分		金七十五錢	金五十錢	金十六錢
碇泊中一日分		金六十錢	金四十錢	金十三錢

朕衆議院議員選舉法及貴族院令ニ於テ直接國稅ト稱スル種目ニ關スル明治二十二年勅令第四十一號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年七月二日

內閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黑田清隆
內務大臣伯爵板垣退助
大藏大臣子爵渡邊國武

勅令第二百六十三號(官報 七月三日)

明治二十二年勅令第四十一號中「所得稅」ノ次ニ「營業稅」ノ一項ヲ追加ス

〔參照〕

勅令第四十一號(明治二十二年三月二十七日官報)

衆議院議員選舉法及貴族院令ニ於テ直接國稅ト稱スルモノ左ノ如シ

地租

所得稅

朕學校職員恩給審查規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年七月二日

文部大臣侯爵西園寺公望

勅令第二百六十四號(官報 七月三日)
學校職員恩給審查規程

第一章 公立學校職員恩給審查委員

第一條 文部省ニ公立學校職員恩給審查委員ヲ置キ委員長一人及委員四人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

長及教員ノ退隱料及遺族扶助料ヲ受クヘキ資格及權利ヲ審查ス

第二條 公立學校職員恩給審查委員長ハ審查ニ關スル事務ヲ管理シ審查ノ結果ヲ文部大臣ニ具申ス

第三條 公立學校職員恩給審查委員長及委員ハ文部省高等官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ命ス

第四條 文部省ニ恩給顧問醫三人ヲ置キ内一人ヲ常務顧問醫トス

恩給顧問醫ハ公立學校職員恩給審查委員長ノ諮詢ニ應シ退隱料及遺族扶助料ニ關スル醫術上ノ事項ヲ審查ス但委員長ニ於テ總顧問醫ノ意見ヲ聞クコトヲ必要ト認メサルモノハ常務顧問醫之ヲ審查ス

第五條 審查上特殊ノ専門家ヲ要スル場合ニ於テハ臨時顧問醫ヲ加フルコトヲ得

第六條 恩給顧問醫ハ文部大臣之ヲ命ス

第七條 常務顧問醫ニハ一箇年五百圓以内其ノ他ノ顧問醫ニハ事件ノ輕重難易ヲ斟酌シ每件三圓以上十圓以下ノ手當ヲ給ス

第八條 公立學校職員恩給審查委員ノ事務ニ關シ書記ヲ置キ文部屬ヲ以テ之ニ充ツ

第二章 市町村立小學校教員恩給審查委員

第九條 北海道廳府縣ニ市町村立小學校教員恩給審查委員ヲ置キ委員長一人及委員四人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

市町村立小學校教員恩給審査委員ハ市町村立小學校教員並ニ市町村立徒弟學校及實業補習學校ノ學校長及教員ノ退隱料及遺族扶助料ヲ受クヘキ資格及權利ヲ審査ス

第十條 市町村立小學校教員恩給審査委員長ハ審査ニ關スル事務ヲ管理シ審査ノ結果ヲ北海道廳長官府縣知事ニ具申ス

第十一條 市町村立小學校教員恩給審査委員長ハ其ノ廳高等官委員ハ其ノ廳官吏ノ中ヨリ北海道廳長官府縣知事之ヲ命ス

第十二條 北海道廳府縣ニ恩給顧問醫二人以內ヲ置ク

恩給顧問醫ハ市町村立小學校教員恩給審査委員長ノ諮詢ニ應シ退隱料及遺族扶助料ニ關スル醫術上ノ事項ヲ審査ス

第十三條 審査上特殊ノ専門家ヲ要スル場合ニ於テハ臨時顧問醫ヲ加フルコトヲ得

第十四條 恩給顧問醫ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ命ス

第十五條 顧問醫ニハ相當ノ手當ヲ給ス其ノ費用ハ北海道廳及沖繩縣ニ在テハ地方經濟ニ屬スル費用ノ負擔トシ其ノ他ノ府縣ニ在テハ府縣ノ負擔トス

第十六條 市町村立小學校教員恩給審査委員ノ事務ニ關シ書記ヲ置キ北海道廳府縣屬ヲ以テ之ニ充ツ

○ 朕市町村立小學校教員年功加俸ノ支給ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十九年七月二日

大藏大臣子爵渡邊國武
文部大臣侯爵西園寺公望

○ 朕佛國博覽會ニ關スル物件ノ買賣貸借及工事請負ヲ隨意契約ニ依リ處分スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十九年七月四日

農商務大臣子爵榎本武揚

○ 勅令第二百六十五號(官報 七月三日)

市町村立小學校教員年功加俸國庫補助法ニ依リ支給スル加俸ハ毎月下旬ニ當月分ヲ支給スルコトヲ得

勅令第二百六十六號(官報 七月六日)

明治三十三年佛國巴里府ニ於テ開設スル萬國博覽會ニ關スル物件ノ買賣貸借及工事請負ハ隨意契約ニ依リ之ヲ處分スルコトヲ得

○ 朕大阪市ノ區ノ區域變更ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十九年七月十日

內閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黑田清隆
內務大臣伯爵板垣退助

勅令第二百六十七號(官報 七月十一日)

大阪市ノ區ノ區域ヲ變更スルコト左ノ如シ

○ 明治三十九年七月十日

內閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黑田清隆
內務大臣伯爵板垣退助

○ 勅令第二百六十七號(官報 七月十一日)

大阪市ノ區ノ區域ヲ變更スルコト左ノ如シ

○ 明治三十九年七月十日

內閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黑田清隆
內務大臣伯爵板垣退助

○ 勅令第二百六十七號(官報 七月十一日)

大阪市ノ區ノ區域ヲ變更スルコト左ノ如シ

○ 明治三十九年七月十日

內閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黑田清隆
內務大臣伯爵板垣退助

○ 勅令第二百六十七號(官報 七月十一日)

大阪市ノ區ノ區域ヲ變更スルコト左ノ如シ

○ 明治三十九年七月十日

內閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黑田清隆
內務大臣伯爵板垣退助

○ 勅令第二百六十七號(官報 七月十一日)

大阪市ノ區ノ區域ヲ變更スルコト左ノ如シ

○ 明治三十九年七月十日

內閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黑田清隆
內務大臣伯爵板垣退助

○ 勅令第二百六十七號(官報 七月十一日)

大阪市ノ區ノ區域ヲ變更スルコト左ノ如シ

○ 明治三十九年七月十日

內閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黑田清隆
內務大臣伯爵板垣退助

- 一 大阪市西區ニ左ノ區域ヲ編入ス
 - 一元西成郡九條村
 - 一元西成郡三軒家村
 - 一元西成郡天保町
 - 一元西成郡川南村ノ内水津川以西
 - 一元西成郡川北村ノ内傳法川以南
- 二 大阪市南區ニ左ノ區域ヲ編入ス
 - 一元西成郡西濱町
 - 一元西成郡難波村
 - 一元西成郡木津村ノ内勝間街道ヨリ西ハ字高畑字東開ノ北ヲ通スル道路南端以北及字開キ東ノ樋ヨリ開キ大樋ニ達スル井路以北勝間街道ヨリ東ハ大阪鐵道線路敷地南端以北
 - 一元西成郡今宮村ノ内大阪鐵道線路敷地南端以北
 - 一元東成郡天王寺村ノ内大阪鐵道線路中本線ト城東線ト分岐スル所ヨリ西ハ線路敷地南端以北本線ト城東線ト分岐スル所ヨリ北ハ城東線敷地東端以西
- 三 大阪市東區ニ左ノ區域ヲ編入ス
 - 一元東成郡西高津村
 - 一元東成郡東平野町
 - 一元東成郡清堀村
 - 一元東成郡玉造町

- 一元東成郡鶴橋村ノ内大阪鐵道線路城東線ト猫間川ト接スル所ヨリ南ハ城東線敷地東端以西、城東線ト猫間川ト接スル所ヨリ北ハ猫間川以西
- 一元東成郡中本村ノ内猫間川以西
- 四 大阪市北區ニ左ノ區域ヲ編入ス
 - 一元西成郡北野村
 - 一元西成郡曾根崎村
 - 一元西成郡上福島村
 - 一元西成郡下福島村
 - 一元西成郡川崎村ノ内字西流山惡水路ノ右岸以南
 - 一元西成郡野田村ノ内中津川以東
 - 一元西成郡豐崎村ノ内大字國分寺、大字木庄ノ内字東流山千五十一番地以南字東流山ト字猿樂トノ間ヲ通スル惡水路ノ右岸以南字浮田八百二十四番地ノ北ヨリ字上中野四百七十六番地ノ北ニ通スル道路ノ北端以南字南中野四百五番地以南字三味ノ側二百九十一番地乃至二百九十番地以南及大字南濱ノ内字蘆原蓮田及石橋ヲ通スル惡水路ノ右岸以南
 - 一元東成郡鯉江村ノ内大阪鐵道線路城東線敷地東端以西
 - 一元東成郡都島村ノ内大字善源寺字九ヶ惡水路ノ右岸以南
 - 一元東成郡野田村ノ内字東七反田ノ西ヲ通スル井路ノ左岸以西

本令ハ明治三十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕工事ニ要スル機械器具鐵軌車輛船舶建物及其ノ附屬物其ノ他材料素品ニ關スル隨意契約ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年七月十日

內務大臣伯爵板垣退助
大藏大臣子爵渡邊國武

勅令第二百六十八號(官報 七月十一日)

政府ニ於テ工事ニ要スル機械器具鐵軌車輛船舶建物及其ノ附屬物其ノ他材料素品ヲ府縣郡市町村及公共組合ヨリ買上ケ借入レ又ハ官有ノ機械器具鐵軌車輛船舶及其ノ附屬物其ノ他材料素品ヲ工事ノ爲メ府縣郡市町村及公共組合ニ賣渡シ貸渡ストキハ競争ニ付セス隨意契約ニ依ルコトヲ得

朕營業稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年七月二十日

大藏大臣子爵渡邊國武

勅令第二百六十九號(官報 七月二十一日)

營業稅法施行規則

第一條 營業稅法第一條ノ營業ヲ爲ス者ニシテ同法第二條以下ノ規程ニ依リ營業稅ヲ課セラルヘキ者ハ其ノ店舖其ノ他ノ營業場所所在地ノ地方長官ニ同法第十三條ノ届出ヲ爲スヘシ但シ同法第十五條第二項末段ノ場合ニ於テハ其ノ主ナル店舖其ノ他ノ營業場所所在地ノ地方長官ニ届出ヘシ左ニ掲グル者ハ同法第十三條第一項但書ニ依リ開業後十日以内ニ地方長官ニ新規開業ノ届出ヲ

爲スヘシ

一 新ニ同法第一條ノ營業ヲ開始スル者

二 同法第十五條第二項末段ノ場合ニ該當セサル者ニシテ新ニ店舖其ノ他ノ營業場ヲ増設スル者

三 新ニ營業ノ種類ヲ増加スル者

第二條 同一人ニシテ數種ノ營業ヲ爲ストキハ店舖其ノ他ノ營業場ノ同一ナルト否トヲ問ハス營業ノ種類竝ニ各店舖其ノ他ノ營業場毎ニ區分シテ營業稅法第十二條ノ課稅標準ヲ計算スヘシ但シ課稅標準トナルヘキモノヲ數種ノ營業ニ共通シテ使用スル場合ニ於テハ稅率ノ最重キ營業稅率等シキハ其ノ重ナル營業ノ一方ニ其ノ課稅標準ヲ計算スヘシ

第三條 同一人ニシテ數箇ノ店舖其ノ他ノ營業場ニ於テ同種ノ營業ヲ爲ストキハ各店舖其ノ他ノ營業場毎ニ營業稅法第十二條ノ課稅標準ヲ計算スヘシ

第四條 營業稅法第十五條第二項末段ニ依リ數箇ノ店舖其ノ他ノ營業場ヲ合セテ營業稅ヲ課セラレハキ場合ニ於テハ總テノ店舖其ノ他ノ營業場ヲ通シテ同法第十二條ノ課稅標準ヲ計算スヘシ

第五條 株式會社ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金額ハ前年中ノ各月末ニ於ケル拂込株式金額及名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ有スル資産金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス

第六條 合資會社ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金額ハ前年中各月末ニ於ケル登記濟出資金額及名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ有スル資産金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス

第七條 合名會社ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金額ハ前年中各月末ニ於ケル總社員ノ出資額及名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ有スル資産金額トシ月割平均ヲ以

テ之ヲ算定ス

前項總社員ノ出資額中勞力ノ出資アルトキハ其ノ價格ハ會社契約ニ定メタル價額ニ依ル但シ會社契約ニ其ノ勞力ノ價額ヲ定メサルトキハ各社員損益共分ノ割合ニ從ヒ之ヲ算定スルモノトス

第八條 一個人ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金額ハ他ヨリ借入レタルト否トヲ問ハス前年中各月末ニ於ケル固定資本及運轉資本ノ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス

前項固定資本ハ直接ニ營業ノ用ニ供スル土地建物、築造物、船舶、諸器具、器械ノ價格ヲ計算ス其ノ價格ハ時價相當ノ見積金額ニ依ル

第九條 課稅標準額ヲ豫算スルトキハ届出當時ノ實況ニ依リ尙ホ過去將來ノ形情ヲ斟酌シテ之ヲ算出スヘシ

第十條 營業稅法第十七條ニ依リ控除スヘキ營業費ハ營業上直接ニ必要ト認ムヘキ費用ニ就テ算定スヘシ

第十一條 營業稅法第十八條第二項ノ場合ニ於テ借地料借家料ヲ支拂フニ金錢ニアラサル物品ヲ以テスルトキハ其ノ物品ノ時價ニ依リ之ヲ定ムヘシ

營業者借地ニ於テ自己ノ建物ヲ所有スルトキハ其ノ土地ハ營業稅法第十八條第二項ニ依リ建物ハ同條第三項ニ依リ其ノ賃賃價格ヲ計算スヘシ

營業者借家中ニ於テ其ノ建物ノ一部分ヲ所有スルトキハ自己所有ノ部分ハ營業稅法第十八條第三項ニ依リ其ノ建物賃賃價格ヲ計算スヘシ建物中雜作全部ヲ借主ニ於テ所有スルトキ亦同シ

第十二條 從業者ハ營業主ヲ始メ店舗其ノ他ノ營業場ニ居住スルト否ト使役ノ常時タルト臨時タルトヲ問ハス總テ直接ニ營業ニ從事スル者ヲ計算スヘシ但シ營業主ト同一戸籍内ニ在ル者ハ計算セズ

第十三條 相續讓渡其ノ他原因ノ何タルヲ問ハス營業ヲ繼續スル者ハ其ノ繼續後十日以内ニ地方

長官ニ其ノ旨ヲ届出ヘシ

第十四條 營業者住所氏名ヲ變更シ又ハ店舗其ノ他ノ營業場ヲ移轉シタルトキハ十日以内ニ地方長官ニ其ノ旨ヲ届出ヘシ其ノ移轉他ノ管轄地方ニ涉ルトキハ雙方ニ届出ヘシ

第十五條 營業稅法第十五條第二項末段ニ該當スル場合ニシテ店舗其ノ他ノ營業場ヲ増設シタル者ハ其ノ増設後十日以内ニ其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ヘシ

第十六條 地方長官ハ營業者ノ申告ヲ相當ト認ムルトキハ營業稅法第十二條ノ稅率ニ從ヒ其ノ營業稅ヲ賦課スヘシ

營業者ノ申告ナキトキハ地方長官ハ營業稅法第十六條ノ算定方法ニ依リ其ノ課稅標準ヲ計算シ其ノ營業稅ヲ賦課スヘシ

第十七條 地方長官營業者ノ申告ヲ相當ト認メ資本金額又ハ建物賃賃價格ヲ算定シタルトキハ其ノ計算書ヲ添ヘ之ヲ營業者ニ通知スヘシ

第十八條 前條ノ算定ニ對シ異議アル者再審査ヲ求メントスルトキハ其ノ理由ヲ詳記シ營業稅法第二十七條ノ期限内ニ地方長官ニ申出ヘシ

第十九條 地方長官ハ資本金額再審査ノ請求ヲ受ケタルトキハ更ニ營業者ノ提出シタル理由書ニ據リ當初ノ算定ヲ再査シ其ノ訂正スヘキハ之ヲ訂正シ決定書ヲ作り之ヲ異議申立人ニ通知スヘシ

第二十條 地方長官ハ建物賃賃價格再審査ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ土地建物所在地ノ市町村長ニ通知シ評價人ヲ選定セシメ同時ニ政府ヨリ命スヘキ評價人ヲ選定スヘシ

第二十一條 評價人ハ滿二十歳以上ノ男子ニ就テ選定スヘシ但シ異議申立人ノ親族其ノ他當該事件ニ利害ノ關係ヲ有スル者及治産ノ禁ヲ受ケタル者ハ之ヲ選定スルコトヲ得ズ

土地建物ノ敷市町村ニ在リテ其ノ賃賃價格ヲ合算スル場合ニ於テハ其ノ所在市町村毎ニ評價人

ヲ選定スヘシ

第二十二條 評價人定リタルトキハ地方長官ハ場所期日ヲ定メ評價人ヲ會合シ其ノ評價ヲ爲サシムヘシ
評價人評價ヲ終リタルトキハ直ニ評價書ヲ作り評價金額並ニ其ノ理由ヲ記載シ地方長官ニ提出スヘシ
地方長官ハ前項評價書ニ依リ建物賃賃價格ヲ定メ其ノ決定書ヲ作り之ヲ異議申立人ニ通知スヘシ

第二十三條 營業稅法第十五條第二項末段ニ該當スル場合ニ於テ營業者數箇ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ有シ其ノ管轄地方ヲ異ニスルトキハ其ノ資本金額建物賃賃價格ノ算定審査ニ關スル事務ハ其ノ主ナル店舗其ノ他ノ營業場所所在地ノ地方長官之ヲ爲スヘシ但シ建物賃賃價格ノ評價ニ關スル事務ハ之ヲ土地建物所在地ノ地方長官ニ囑託スヘシ

第二十四條 營業稅法第二十八條第二項但書ニ依リ異議申立人ノ負擔スヘキ費用ハ評價人ノ手當及評價人集會ノ費用トス

第二十五條 前條評價人ノ手當ハ每事件一人金一圓五十錢トシ評價人集會ノ費用ハ會場借料並ニ會場雜費ニ限ル

第二十六條 營業者ヨリ營業稅法第二十九條ノ申出アリタルトキハ地方長官ハ課稅標準額算定ノ方法ニ依リ其ノ年營業ノ實況ヲ調査シ同法第三十一條第一號又ハ同條第二號ニ該當スルトキハ其ノ課稅標準額ノ全部ヲ改算スヘシ

第二十七條 營業者店舗其ノ他ノ營業場外ニ居住シ又ハ旅行シ店舗其ノ他ノ營業場ニ不在ナルトキハ營業稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲メ納稅管理人ヲ定メ地方長官ニ届出ヘシ
第二十八條 營業稅法第三十三條ニ依リ收稅官吏營業ニ關スル帳簿物件ヲ検査スルトキハ地方長

官ノ検査章ヲ其ノ營業者ニ示スヘシ

附則

第二十九條 營業稅法第二十一條第二項但書ニ該當スル營業者ハ同法第十三條ノ届書ニ要スル事項ヲ詳記シタル書類ヲ添ヘ明治二十年一月三十一日迄ニ地方長官ニ其ノ開業年月日ヲ届出ヘシ

朕地方衛生會規則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年七月二十三日

内閣總理大臣侯爵伊藤博文
内務大臣伯爵板垣退助

勅令第二百七十號(官報 七月二十四日)

地方衛生會規則

第一條 地方衛生會ハ府縣知事ノ監督ニ屬シ其ノ府縣内公衆衛生獸畜衛生ニ關スル事項ニ就キ警視總監府縣知事ノ諮詢ニ應ジ意見ヲ開申ス

第二條 地方衛生會ハ前條ノ事項ニ就テハ警視總監府縣知事ニ建議スルコトヲ得

第三條 地方衛生會ハ議事整理ノ爲メ規則ヲ議定シ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 地方衛生會ハ會長一人委員十五人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

會長ハ府縣知事ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ府縣書記官、警部長(東京府ハ警視廳第三部長)參事官、名譽職府縣參事會員四人、府縣廳所在地ノ郡長又ハ市長(沖繩縣ニ於テハ區長)、醫師藥學家獸醫若干人ヲ以テ之ニ充ツ

考備 上級者ニ關員アルトキ其ノ關員ヲ超過セサル限リハ次級以下ノ定員ヲ増置スルコトヲ得		合計 四十六人		司令長官 海軍將官		知港事 副知港事		豫備艦部長ヲシテ兼ネシム 海軍少佐若クハ大尉		海軍一等下士 十六	
		幕 參謀長 參謀 秘書		海軍大佐 海軍少佐 海軍大尉 海軍大尉若クハ大主計		海軍大佐 海軍少佐 海軍大尉 海軍大尉若クハ大主計		海軍大尉 海軍少佐 海軍大尉 海軍大尉若クハ大主計		海軍上等兵曹 海軍大尉 海軍大尉若クハ大主計	
合計 四十六人		二百七十八人		司令長官 海軍將官		知港事 副知港事		豫備艦部長ヲシテ兼ネシム 海軍少佐若クハ大尉		海軍一等下士 十六 海軍二等下士 十四 海軍三等下士 十 海軍三等卒 十七	

吳鎮守府定員表

考備 上級者ニ關員アルトキ其ノ關員ヲ超過セサル限リハ次級以下ノ定員ヲ増置スルコトヲ得		合計 三十八人		司令長官 海軍將官		知港事 副知港事		豫備艦部長ヲシテ兼ネシム 海軍少佐若クハ大尉		海軍一等下士 十六 海軍二等下士 十三 海軍三等下士 八 海軍三等卒 十六	
		院 病院長 軍醫 藥劑官		海軍大尉 海軍少佐 海軍大尉 海軍大尉若クハ大主計		海軍大尉 海軍少佐 海軍大尉 海軍大尉若クハ大主計		海軍大尉 海軍少佐 海軍大尉 海軍大尉若クハ大主計		海軍上等機關兵曹 海軍看護師 海軍上等筆記 海軍一等下士 十六 海軍二等下士 十三 海軍三等下士 八 海軍三等卒 十六	
合計 三十八人		百八十五人		司令長官 海軍將官		知港事 副知港事		豫備艦部長ヲシテ兼ネシム 海軍少佐若クハ大尉		海軍一等下士 十六 海軍二等下士 十四 海軍三等下士 十 海軍三等卒 十七	

朕臨時橫濱築港局官制廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年七月二十五日

内閣總理大臣 侯爵伊藤博文
内務大臣 子爵板垣退助

勅令第二百七十二號 (官報 七月二十七日)

臨時橫濱築港局官制明治二十九年七月三十一日限り廢止ス

朕東京郵便電信學校官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年七月二十七日

内閣總理大臣 侯爵伊藤博文
逓信大臣 白根專一

勅令第二百七十三號 (官報 七月二十八日)

東京郵便電信學校官制中左ノ通改正ス

第五條中委任トシノ下ニ「專任」ノ二字ヲ加フ

第六條中判任トシノ下ニ「專任」ノ二字ヲ加フ

〔參照〕

勅令第五百四十四號東京郵便電信學校官制(明治二十四年七月二十七日官報)抄錄

第五條 教授ハ委任トシ五人ヲ以テ定員トス校長ノ監督ヲ承ケ生徒ノ教授ヲ掌ル

第六條 助教ハ判任トシ八人ヲ以テ定員トス校長ノ監督ヲ承ケ教授ノ職掌ヲ助ク

御名 御璽

明治二十九年七月二十七日

農商務大臣 子爵榎本武揚

勅令第二百七十四號 (官報 七月二十八日)

朕農商工高等會議議長副議長議員及臨時議員ノ旅費支給ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

農商工高等會議議長副議長議員及臨時議員ノ旅費ハ明治二十五年勅令第九號鐵道會議議長議員及臨時議員旅費支給規則ノ例ニ依リ之ヲ支給ス

朕大藏省官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年七月二十八日

内閣總理大臣 侯爵伊藤博文
大藏大臣 子爵渡邊國武

勅令第二百七十五號 (官報 七月二十九日)

大藏省官制中左ノ通改正ス

第九條第三項ヲ左ノ通改ム

大藏省ニ鑑定官補三人技手四人ヲ置ク判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ鑑定建築ニ關スル各事務ニ從事ス

第十條中「二百九十一人」ヲ「二百八十七人」ニ改ム

〔參照〕

勅令第三百三十五號大藏省官制(明治二十六年十月三十一日官報)抄錄
第九條第三項 大藏省ニ鑑定官補三人ヲ置ク判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ鑑定ニ關スル事務ニ從事ス
第十條 大藏省屬ハ二百九十一人ヲ以テ定員トス

朕地方官官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年七月二十八日

内閣總理大臣 侯爵伊藤博文
内務大臣 伯爵板垣退助

勅令第二百七十六號(官報 七月二十九日)
地方官官制中左ノ通改正ス

第四條中收稅屬「四千四人」ヲ「五千六百五人」ニ改ム

朕明治二十二年勅令第三十三號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年七月二十八日

大藏大臣 子爵渡邊國武

勅令第二百七十七號(官報 七月二十九日)

明治二十二年勅令第三十三號中但書ヲ刪除シ自家用料酒鑑札料以下ノ種目ヲ左ノ通改正ス
一 自家用酒稅

一 賣藥營業稅
一 營業稅

附則

本令ハ自家用酒稅ニ付キテハ本年十月一日ヨリ其ノ他ノ稅ニ付キテハ明治二十年一月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第三十三號(明治二十二年三月十四日官報)
左ニ掲クル國稅ハ明治二十二年法律第九號國稅徵收法第三條第一項ニ依リ市町村之ヲ徵收スヘシ但菓子稅以下六項ハ臨時收入ニ係ルモノヲ除ク
一 所得稅
一 酒造稅則附則自家用料酒鑑札料
一 菓子稅中製造稅、製造營業稅、卸賣營業稅、小賣營業稅
一 煙草稅中製造營業稅、仲賣營業稅、小賣營業稅
一 賣藥稅中營業稅
一 船稅
一 車稅
一 牛馬賣買免許稅
一 銃獵免許稅

朕臺灣總督府所屬稅關監吏補巡查及看守ヲシテ銃器ヲ攜帶セシムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年七月二十九日

陸軍大臣 侯爵大山 巖
拓殖務大臣 子爵高島綱之助

勅令第二百七十八號(官報 七月三十日)

臺灣總督ハ其ノ所屬ノ税關監吏補巡查及看守ヲシテ銃器ヲ携帶セシムルコトヲ得其ノ銃器ハ陸軍大臣ノ定メタルモノニシテ左ニ記載スル場合ノ外之ヲ用ウルコトヲ得ス

一 暴行ヲ受クルトキ

二 其ノ監守スル場所或ハ物件又ハ人ヲ防衛スルニ銃器ヲ用ウルノ外他ニ手段ナキトキ又ハ銃器ヲ以テセサレハ抗抵ニ勝ツ能ハサルトキ

非常ノ場合ニ際シ前項ノ人員集團事ニ從フトキハ其ノ地ノ守備隊長ノ指揮ニ從フモノトス

除東京市區改正委員會組織權限ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年七月三十日

内閣總理大臣 侯爵伊藤博文
内務大臣 伯爵板垣退助

勅令第二百七十九號(官報 七月三十一日)

東京市區改正委員會組織權限

第一條 東京市區改正委員會ハ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

- 委員長 一人
- 委員 一人
- 内務省高等官 三人
- 大藏省高等官 二人
- 陸軍省高等官 二人

- 海軍省高等官 一人
- 農商務省高等官 一人
- 逓信省高等官 二人
- 警視廳高等官 一人
- 東京府高等官 二人
- 東京市會議員 十人
- 臨時委員 若干人

警視總監及東京府知事ハ定員ノ外委員トシテ會議ニ列席シ決議ノ數ニ加ハルコトヲ得

第二條 委員長、高等官ヨリ出ツル委員及臨時委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

東京市會議員ヨリ出ツル委員ハ市會ニ於テ之ヲ選定ス但シ市會議員ヨリ出ツル委員總テ關員ニ

屬シ市會ニ於テ補闕選舉ヲ行フコト能ハサルトキハ名譽職參事會員中ヨリ互選ヲ以テ之ニ充ツ

前項ノ委員確定シタルトキハ東京市參事會ハ内務大臣及東京市區改正委員會ニ報告スヘシ

第三條 委員長ハ會務ヲ掌理シ議事ヲ整頓ス

委員長事故アルトキハ其ノ指名シタル委員ヲシテ事務ヲ代理セシム

第四條 委員會ハ東京市區改正ノ設計及毎年度ニ於テ施行スヘキ事業其ノ他設計ニ關シ必要ナル

事項ヲ議定ス

委員會ニ於テ議定シタル事項ハ其ノ都度内務大臣ニ報告スヘシ

第五條 委員會ノ議事規則ハ該會ニ於テ之ヲ議定シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 會議ハ過半数ニ依テ決ス可否同數ナルトキハ委員長ノ可否スル所ニ依リ

第七條 委員會ニ幹事一人書記若干人ヲ置ク

幹事ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命シ書記ハ委員長之ヲ命ス

幹事ハ委員長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理シ書記ハ委員長幹事ノ指揮ヲ承ケ議事ノ筆記及庶務ニ従事ス

第八條 委員長委員及幹事ニハ一箇年五百圓以内臨時委員ニハ事件ノ輕重ニ應シ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

書記ニハ一箇月五十圓以内ノ給料ヲ給スルコトヲ得

第九條 技術又ハ學術ニ涉リ其ノ他特ニ調査ヲ要スル場合ニ於テハ委員長ハ委員ノ外何人ト雖其ノ調査ヲ囑託シ相當ノ報酬ヲ與フルコトヲ得

第十條 委員長ハ委員中ヨリ五名以内ヲ選ミ常務委員ト爲シ會議ニ提出スヘキ議案ニ就キ豫メ審査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十一條 委員會ハ市區改正ニ關スル事項ニ付各省大臣ノ諮詢ニ應シ又ハ各省大臣ニ建議シ又ハ各廳ニ照會往復スルコトヲ得

第十二條 委員會ハ市區改正事業ノ實施ニ方リ委員ヲ派遣シテ之ヲ檢察セシメ設計ニ違フモノアレハ東京市參事會ニ照會シテ其ノ改正ヲ要求シ時宜ニ依リ内務大臣ニ具狀スルコトヲ得

朕北海道廳直營事業ニ使用スル職工人夫ノ雇備ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年八月六日

拓殖務大臣子爵高島鞆之助

勅令第二百八十號(官報八月七日)

北海道廳ニ於テ施行スル築港運河架橋及墜道ニ關スル工事ヲ競争ニ付スルモ入札者ナキ爲メ又ハ會計規則第七十七條ニ依リ再度ノ入札ニ付スルモ尙ホ豫定價格ノ制限ニ達セサル爲メ之ヲ北海道廳ノ直營事業ト爲シタルトキ之ニ使用スル職工人夫ノ雇備ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得
本年勅令第二百八號ハ北海道廳ニ於テ直接ニ從事スル鐵道工事ニ要スル職工人夫ノ雇備ニモ適用ス

〔参照〕

勅令第二百八號(明治二十九年五月十三日官報)
遞信省ニ於テ直接ニ從事スル鐵道工事ニ要スル職工人夫雇備ノ請負ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

朕皇族附陸軍武官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年八月十日

内閣總理大臣侯爵伊藤博文
陸軍大臣侯爵大山 巖

勅令第二百八十一號 (官報 八月十一日)
皇族附陸軍武官官制左ノ通定ム

皇族附陸軍武官官制

- 第一條 陸軍武官タル皇族ニハ皇族附陸軍武官ヲ附屬シ各兵科大尉ヲ以テ之ニ補ス
- 第二條 皇族附陸軍武官ハ其附屬スル皇族ノ威儀整飾ヲ奉助シ行軍、觀兵、演習其他ノ軍務及祭儀禮典宴會等ニ隨從スルヲ任トス
- 第三條 皇族附陸軍武官ハ祭儀禮典宴會等ノ事項ニ關シテハ宮内省ノ規定ヲ遵守スヘシ

朕都督部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年八月十日

陸軍大臣 侯爵 大山 巖

勅令第二百八十二號 (官報 八月十一日)
都督部條例

- 第一條 都督ハ陸軍大將若クハ陸軍中將ヲ以テ之ニ補シ
天皇ニ直隸シ所管内ノ防禦計畫並ニ所管内各師團共同作戰ノ計畫ニ任セシム但シ防禦ニ關シ特ニ規定アルモノハ此限ニアラス
- 第二條 都督ハ所管内各師團動員計畫ノ整否ヲ監視ス
- 第三條 都督ハ所管内各師團ノ教育ヲシテ齊一ニ進歩セシムルノ責ニ任ス但シ騎砲工輜重兵科專門ノ事ヲ除ク
- 第四條 都督ハ陸軍軍隊檢閱條例ニ依リ隨時所管内師團ノ檢閱ヲ行フ

第五條 都督ハ主任ノ事ニ關シ所管内ノ各師團長ニ訓令若クハ訓示ヲ與ヘ且必要ノ報告ヲ爲サシムルヲ得

第六條 都督ハ部内ノ軍政及人事ニ關シテハ陸軍大臣、防禦作戰並ニ動員計畫ニ關シテハ參謀總長、軍隊教育ニ關シテハ監軍ノ區處ヲ受ク

第七條 都督ハ防禦作戰並ニ動員ニ關スル事項ハ參謀總長ヲ經、軍隊教育ニ關スル事項ハ監軍ヲ經テ奏上ス

第八條 都督部ニ幕僚ヲ置キ之ヲ參謀部副官部ニ分ツ

第九條 參謀長ハ都督ヲ補佐シ幕僚ヲ統ヘ事務整理ノ責ニ任ス

第十條 幕僚ノ各將校及軍吏ハ參謀長ノ區處ヲ受ケ部務ヲ擔任ス

附則
第十一條 本條例實施ノ期限ハ陸軍大臣告示ヲ以テ之ヲ定ム

朕鑛山監督署官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年八月十二日

内閣總理大臣 侯爵 伊藤博文
農商務大臣 子爵 榎本武揚

勅令第二百八十三號 (官報 八月十四日)

鑛山監督署官制

- 第一條 鑛山監督署ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ鑛山監督ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第二條 鑛山監督署ニ左ノ職員ヲ置ク

明治二十九年八月 勅令 第二百八十三號

鑛山監督官
鑛山監督官補
書記

- 第三條 鑛山監督署長ハ每署一人監督官ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ署中全般ノ事務ヲ掌理ス
- 第四條 鑛山監督官ハ委任トシ各鑛山監督署ヲ通シテ十二人ヲ以テ定員トス鑛山監督署ニ分屬シテ署務ニ從事ス
- 第五條 鑛山監督官補ハ判任トシ各鑛山監督署ヲ通シテ六十八人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ署務ニ從事ス
- 第六條 書記ハ判任トシ各鑛山監督署ヲ通シテ十人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
- 第七條 鑛山監督署ノ名稱、位置及其ノ管轄區域ハ別表ニ依ル

(別表)

鑛山監督署名稱位置管轄區域表

名	稱	位	置	管	轄	區	域
東京鑛山監督署	武藏國東京	郡馬縣	新潟縣	神奈川縣	埼玉縣	富山縣	
盛岡鑛山監督署	陸中國盛岡	愛知縣	靜岡縣	岐阜縣	茨城縣	千葉縣	
大阪鑛山監督署	攝津國大阪	宮城縣	釧路縣	青森縣	長野縣	山梨縣	
		京都府	大阪府	廣島縣	兵庫縣	奈良縣	
		三重縣	石川縣	滋賀縣	和歌山縣	福井縣	
		高知縣	德島縣	島取縣	香川縣	岡山縣	
		愛媛縣	島根縣				

福岡鑛山監督署	筑前國福岡	長崎縣	大分縣	山口縣	福岡縣	熊本縣
札幌鑛山監督署	石狩國札幌	佐賀縣	鹿兒島縣	宮崎縣	沖繩縣	
		北海道				

御名 御璽

明治二十九年八月十二日

内閣總理大臣 侯爵伊藤博文
農商務大臣 子爵榎本武揚

- 勅令第二百八十四號(官報八月十四日)
- 大小林區署及鑛山監督署判任官ノ月俸左ノ如シ
- 林務官補 判任官俸給八級以上
- 鑛山監督官補 判任官俸給令ニ依ル
- 大林區署書記 判任官俸給二級以下
- 鑛山監督署書記 判任官俸給三級以下
- 營林主事補 一級 二十五圓以下 二十二圓以上
- 森林監守 二級 二十圓以下 十六圓以上
- 附則 三級 十五圓以下 十三圓以上
- 四級 十二圓以下 八圓以上
- 十二圓以下 五圓以上

明治二十六年勅令第七十六號大小林區署及鑛山監督署職員俸給令ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

明治二十九年八月 勅令 第二百八十四號

朕文武判任官等級表中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年八月十二日

内閣總理大臣侯爵伊藤博文

勅令第二百八十五號(官報八月十四日)

文武判任官等級表中左ノ通改正ス

林務官補ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ營林主事補ノ項左ノ通改ム

鑛山監督官補 同	鑛山監督官補 同	鑛山監督官補 同	營林主事補 二級	鑛山監督官補 九級
營林主事補 二級	營林主事補 三級	營林主事補 四級	營林主事補 三級	營林主事補 四級

〔參照〕

勅令第四十三號(明治二十七年四月十三日官報)抄錄

文武判任官等級表中

一 等	二 等	三 等	四 等	五 等
			營林主事補 二級	營林主事補 八級

朕海軍下士卒再服役條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年八月十四日

海軍大臣侯爵西鄉從道

勅令第二百八十六號(官報八月十五日)

海軍下士卒再服役條例中左ノ通改正ス

第二條ニ左ノ但書ヲ加フ

但海軍機關學校條例第三十四條第四海軍砲術練習所條例第十六條第三及海軍水雷術練習所條例第十六條第三ノ服役義務ヲ有スル者ハ各其ノ年限マテ再服役ヲ請フコトヲ得

〔參照〕

勅令第五十七號海軍下士卒再服役條例(明治二十二年四月三十日官報)抄錄

第二條 再服役ハ滿三年ヲ以テ一期トシ毎期之ヲ請フコトヲ得

朕酒造税法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年八月十七日

大藏大臣子爵渡邊國武

勅令第二百八十七號(官報八月十八日)

酒造税法施行規則

第一條 酒類ヲ製造セムトスル者ハ其ノ酒類製造場及製造スヘキ酒類ヲ定メ其ノ居所氏名ヲ記シ地方長官ニ申請シ其ノ免許ヲ受クヘシ但シ商事會社ヲ組織シテ酒類ヲ製造セムトスル者ハ合名會社合資會社ニ在テハ其ノ契約書原本ヲ添ヘ社員ヨリ、株式會社ニ在テハ發起認可書ノ原本及假定款原本ヲ添ヘ發起人ヨリ申請スヘシ

酒類ノ製造場ヲ移轉セムトスルトキ又ハ製造スヘキ酒類ヲ變更セムトスルトキハ地方長官ニ申請シ其ノ免許ヲ受クヘシ

第二條 酒類ノ製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第三條 酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ製造場毎ニ地所建物ノ詳細ナル圖面竝ニ酒造用容器、器具、器械ノ目錄ヲ調製シ事業著手前ニ地方長官ニ提出スヘシ

前項ノ容器、器具、器械ヲ修理シ又ハ前項ノ圖面目錄ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ

酒類製造主ノ居所氏名ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第四條 酒類製造主ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ同第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ地方長官ハ其ノ容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲スヘシ其ノ檢定後ニアラサレハ酒類製造主ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五條 酒類製造主ハ每酒造年度ニ於テ製造スヘキ每酒類ノ見込造石數、製造著手ノ時期、製造方法及其ノ仕込數ヲ記載シ其ノ酒造年度開始前ニ地方長官ニ申告スヘシ

前項ニ依リ申告シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ都度申告スヘシ但シ製造方法ノ變更ニ係ルモノハ承認ヲ受クヘシ

第六條 酒類製造主ノ相續人ニ於テ其ノ製造事業ヲ繼續セムトスルトキハ其ノ旨地方長官ニ申出製造繼續ノ免許ヲ受クヘシ

相續ノ場合ヲ除ク外酒類製造ノ事業ヲ引繼カムトスル者ハ總テ第一條ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ前製造主ハ酒造稅法第二條ニ依リ其ノ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第七條 酒類ノ造石稅ハ其ノ製造場所在ノ地方ニ於テ之ヲ徵收ス

第八條 酒類ノ造石數ハ容器ノ容量ニ依リ一容器毎ニ其ノ現在スル酒類ノ總量ニ就キ之ヲ査定スヘシ

第九條 清酒ノ造石數ヲ査定スルトキハ其ノ石數ヨリ百分ノ二ヲ滓引減量トシテ控除スヘシ但シ犯則ニ係ル清酒ハ滓引減量ヲ控除スルノ限ニ在ラス

第十條 酒類製造主自己ノ製造シタル酒類若ハ製造場外ヨリ移入シタル醪又ハ酒類ヲ以テ酒類ヲ製造シタルトキハ其ノ製成酒類ノ總石數ニ就キ造石數ヲ査定スヘシ

第十一條 酒造原料用ノ爲メ酒類ヲ製造スルトキハ其ノ成功ノ時之ヲ檢査スヘシ酒造用原料品トシテ酒類ヲ製造場内ニ移入シタルトキ亦同シ

第十二條 酒造用原料品トシタル酒類ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費スルトキ若ハ公賣セラレトキ又ハ製造場外ニ移出スルトキハ其ノ造石數ヲ査定スヘシ但シ他ヨリ讓受シタルモノニ係ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 酒類製造主酒類ヲ粕漉セムトスルトキハ著手前ニ其ノ數量時期等ヲ地方長官ニ申告スヘシ

第十四條 酒類製造主酒類ノ粕漉ヲ爲シタルトキ其ノ原酒類ノ石數ヲ確證スル能ハサル場合ニ於テハ其ノ總石數ニ就キ造石數ヲ査定スヘシ

第十五條 酒滓、酒粕、蒸溜粕ヲ使用シテ製造スル酒類ハ割水其ノ他如何ナル名稱ヲ附スルモ總テ其ノ造石數ヲ査定スヘシ

第十六條 酒類製造主其ノ製造用ニ供スル醪ヲ他人ニ讓渡シ若ハ飲料ニ供シ又ハ酒類製造用ノ外ニ供セムトスルトキハ其ノ旨直ニ地方長官ニ申告スヘシ

第十七條 酒母、醪又ハ原料用酒類ノ廢棄亡失若ハ腐敗シタルトキハ酒類製造主ハ其ノ旨直ニ地方長官ニ申告スヘシ

第十八條 酒造稅法第十二條ニ依リ未納造石稅ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ其ノ事實ノ生シタルト

キ直ニ地方長官ニ申請スヘシ

第十九條 前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ地方長官ハ其ノ事實ヲ調査シ其ノ廢棄若ハ亡失ヲ認ムル
トキ又ハ廢敗ノ爲メ使用ノ途ナキヲ認ムルトキハ未納税金ノ免除處分ヲ爲スヘシ
廢敗酒ヲ以テ蒸溜酒ノ製造用ニ供セムトスルモノハ未納税金ノ免除處分ヲ爲シ其ノ酒類ハ燒酎
又ハ酒精ノ原料品ノ取扱ヲ爲スヘシ

第二十條 地方長官酒類ノ造石數ヲ査定シタルトキハ其ノ際酒類製造主ヨリテ酒造税法第十三條
ニ依リ保證物ヲ提供セシムヘシ但シ酒類製造主ハ見込造石數ニ依リ豫メ保證物ノ提供ヲ申請ス
ルコトヲ得

酒類製造主保證物ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ酒造税法第十四條ノ一方法又ハ數方法ヲ選ミ之
ヲ申請スヘシ

第二十一條 保證物ノ種類ハ左ニ掲グルモノニ限ル

一 金錢

二 利付國債證券地方債證券

三 政府ノ保護又ハ監視ヲ受クル株式會社ノ株券又ハ債券

四 土地

五 酒類製造場内ノ建物但シ火災保險ニ付シタルモノニ限ル

第二十二條 保證物ノ保證價格ヲ定ムルハ有價證券ハ市場ニ於ケル前月ノ平均價格、土地ハ土地
臺帳ニ登記シタル地價、建物ハ被保險額ニ依ル

第二十三條 酒類製造主保證物ヲ提供スルトキハ金錢有價證券ハ之ヲ供託シ供託受領證ヲ地方長
官ニ提出シ土地建物ハ書入ノ登記ヲ爲スヘシ第三者ニ於テ酒類製造主ノ爲メ保證物ヲ提供スル
トキ亦同シ

第二十四條 保證物トシテ提供シタル證券債券ノ償却ヲ受クルニ至リタルトキ若ハ建物ノ壞倒亡
失シタルトキ又ハ保險契約ノ消滅シタルトキハ酒類製造主ハ地方長官ノ指定期限内ニ更ニ保證
物ヲ提供スヘシ但シ建物ニ對スル保險金ヲ受領シタルトキハ其ノ保險金ヲ保證物トシテ供託ス
ヘシ

第二十五條 酒造税法第十三條ノ保證物ヲ提供セサルトキハ收稅官吏ハ製造酒類ニ封緘ヲ附シ之
ヲ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルヲ停止スルコトヲ得

第二十六條 納稅保證人ハ地方長官ニ於テ納稅保證ニ堪フル資力アリト認ムル者ニ限ル

第二十七條 地方長官ハ納稅保證人ノ資力納稅保證ニ堪ヘサルニ至リタリト認ムルトキハ之ヲ變
換セシムルコトヲ得

第二十八條 收稅官吏ハ納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ニ封緘ヲ附スルコトヲ得

第二十九條 地方長官ハ納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類納稅保證ニ適セサルニ至リタリ
ト認ムルトキハ之ヲ變換セシムルコトヲ得

第三十條 酒類製造主ハ地方長官ニ申出保證物、納稅保證人又ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ノ變
換ヲ求ムルコトヲ得

第三十一條 酒類製造主税金ヲ納メサルトキハ納稅保證人ニ通知シ其ノ税金ヲ納メシメ又ハ滯納
處分ノ手續ニ依リ其ノ保證物又ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ公賣スヘシ

納稅保證人税金ヲ完納セサルトキ又ハ保證物若ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ公賣シ尙ホ税金ニ
不足アルトキハ酒類製造主ニ對シ滯納處分ヲ行フヘシ

前項滯納處分ノ後尙ホ税金ニ不足アルトキハ保證人ニ對シ滯納處分ヲ行フヘシ

第三十二條 同一製造場内ニ於テ清酒並ニ濁酒ヲ製造セムトスル者ハ其ノ釀造藏置ニ供スル場所
ヲ酒類別ニ特定シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

- 第三十三條 地方長官、容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲シタルトキハ之ニ其ノ番號容量其ノ他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙記スルコトヲ得
- 第三十四條 收稅官吏ハ隨時酒類製造場ニ就キ酒類、酒造用原料品、器具、器械、容器、帳簿又ハ書類ヲ檢査スヘシ
- 第三十五條 收稅官吏ハ榨器械、蒸溜器械ノ使用停止中ニ封緘ヲ附スヘシ但シ修理其ノ他必要ノ事故アルトキハ之ヲ解除スルコトヲ得
- 第三十六條 自己ノ所有ト否トヲ問ハス容器、器具、器械及酒造用原料品ハ收稅官吏ノ承認ヲ受クルニアラザレハ酒類製造中ハ之ヲ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス
- 第三十七條 酒造用原料品中酒母又ハ醪ノ檢査ハ熟成ノ時ニ於テ之ヲ行フ但シ其ノ熟成シタル酒母又ハ醪ヲ製造場内ニ移入シタルトキハ其ノ移入ノ時ニ於テ之ヲ行フ但シ其ノ熟成シタル酒母、醪以外ノ原料品ハ其ノ使用前便宜之ヲ檢査スヘシ其ノ檢査後ニアラザレハ酒類製造主ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス
- 第三十八條 酒類製造主ハ製造方法ノ異ナル毎ニ竝ニ一仕込毎ニ酒母及醪ニ記號ヲ附シテ之ヲ區分シ收稅官吏ノ承認ヲ受クルニアラザレハ彼此混淆スルコトヲ得ス
- 第三十九條 酒類製造主左ニ掲グル事項ヲ行ハムトスルトキハ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ
 - 一 熟成シタル酒母ヲ醪ニ仕込ムコト
 - 二 熟成シタル醪ヲ酒母ニ代用シ添掛ヲ爲スコト
 - 三 酒母、醪又ハ原料用酒類ノ容器ヲ變換スルコト
 - 四 仕込濟ノ醪ニ水ヲ混和スルコト
 - 五 原料用酒類ノ用途ヲ變更スルコト

- 六 藏出前ニ於ケル自己製造ノ酒類ニ買入酒類ヲ混和シ又ハ割水ヲ爲スコト
- 第四十條 酒類製造場外ヨリ酒類製造場内ニ酒母、醪又ハ酒類ヲ移入シタルトキハ其ノ旨直ニ地方長官ニ申告スヘシ
- 第四十一條 二仕込以上ノ醪ヲ合併シテ清酒ヲ榨揚ケムトスルトキハ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ但シ七仕込以上ノ醪ハ之ヲ合併スルコトヲ得ス
- 第四十二條 酒粕ハ其ノ榨揚ケタル酒類ノ造石數査定ノ時之ヲ檢査スヘシ
- 酒類製造主ハ前項檢査後ニアラザレハ酒粕ヲ製造場外ニ移出シ又ハ使用シ若ハ他ノ酒粕ト混合スルコトヲ得ス
- 第四十三條 酒類製造主ハ酒造用原料品及酒粕ノ受拂、酒母及醪ノ仕込、燒酎又ハ酒精ノ造り込、酒類ノ藏出、受拂、増減ニ關シ詳細明瞭ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ但シ他ノ法律命令又ハ商業上ノ慣例ニ依リ設備スル帳簿ニシテ本文ノ事項ヲ明ニスルモノアルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 附則
- 第四十四條 酒造税法施行前ニ於テ明治十三年布告第四十號ニ依リ酒造營業ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ尙ホ引續キ酒造税法第二條ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ明治二十九年九月三十日迄ニ第三條ノ圖面、目錄ヲ添ヘ其ノ旨地方長官ニ申請スヘシ
- 第四十五條 酒造税法第二十六條ニ該當スル者ハ明治十三年以前ヨリ引續キ酒類ヲ製造スルコトノ事實ヲ具シ地方長官ニ免許ヲ申請スヘシ

朕混成酒税法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年八月十七日

大藏大臣子爵渡邊國武

勅令第二百八十八號(官報八月十八日)

混成酒税法施行規則

- 第一條 混成酒ヲ製造スル者ハ毎年十二月三十一日迄ニ其ノ翌年中ニ製造スヘキ混成酒ノ酒類石數及製造方法ヲ地方長官ニ申告スヘシ
- 前項申告シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ
- 第二條 地方長官ハ混成酒製造高ノ多少ニ從ヒ毎月一回以上時日ヲ定メ豫メ其ノ期間ノ混成酒製造高ヲ申告セシムヘシ
- 第三條 混成酒ノ製造用ニ供スル酒精又ハ飲料酒類ハ他ヨリ其ノ製造場ニ移入スルモノハ移入ノ時、其ノ製造場ニ在ルモノハ原料品ト定メタルトキ地方長官ニ申告スヘシ
- 前項ノ申告アリタルトキハ收稅官吏ハ其ノ酒精又ハ飲料酒類ヲ検査シ必要ト認ムヘキ場合ニハ封緘ヲ附スルコトヲ得
- 第四條 混成酒ノ原料ニ供スル酒精又ハ飲料酒類ハ前條ノ検査ヲ受ケ且收稅官吏ノ承認ヲ受ケタル後ニアラサレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス
- 第五條 混成酒ヲ製造スル者酒造税法ノ酒類其ノ他ノ飲料酒類ヲ製造場ニ移入シタルトキハ混成酒製造用ニアラサルモ其ノ旨直ニ地方長官ニ申告スヘシ
- 第六條 酒造税法施行規則第一條第二條第三條第四條第六條第七條第八條第九條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第二項第四十三條ノ規程ハ混成酒ヲ製造スル者ニモ適用ス

附則

第七條 明治二十九年十月一日以降同年十二月三十一日迄ノ間ニ混成酒ヲ製造セムトスル者ハ第一條ノ規程ニ準シ同年九月三十日迄ニ地方長官ニ申告スヘシ

朕自家用酒税法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年八月十七日

大藏大臣子爵渡邊國武

勅令第二百八十九號(官報八月十八日)

自家用酒税法施行規則

- 第一條 自家用酒税法第一條ニ依リ自家用トシテ酒類ノ製造免許ヲ受ケムトスル者ハ其ノ居所氏名及製造スヘキ酒類並ニ左ノ種別ヲ記シ地方長官ニ申請スヘシ
 - 第一種 造石數二石未滿
 - 第二種 造石數一石未滿
- 前項申請書ニハ其ノ製造時期及酒類ノ製造方法ニ關スル事項ヲ附記スヘシ附記事項ヲ變更シタルトキハ其ノ際申告スヘシ
- 第二條 免許ヲ受ケタル酒類又ハ第一條ノ種別ヲ變更セムトスルトキハ更ニ第一條ノ申請書ヲ地方長官ニ差出スヘシ但シ一酒造年度中ニ於テハ免許酒類又ハ種別ノ變更ヲ許可セス
- 第三條 自家用酒製造者其ノ居所氏名ヲ變更シタルトキハ直ニ地方長官ニ申告スヘシ
- 第四條 自家用酒ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨地方長官ニ申告シ免許ノ取消ヲ求ムヘシ
- 自家用酒製造者死亡若クハ失踪シタルトキハ相續人又ハ其ノ他ノ者ヨリ其ノ旨地方長官ニ申告ス

スヘシ

第五條 此ノ規則ニ依リ地方長官ニ提出スヘキ書類ハ所轄市町村長 特別市制ヲ施行スル市ニ於テ
ル地方ニ於テハ區長 特別市制ヲ施行セザ
ル地方ニ於テハ區長 特別市制ヲ施行セザ
又ハ之ニ準スヘキ者 ヲ經由スヘシ

朕陸軍軍隊檢閱條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年八月十八日

陸軍大臣 侯爵 大山 巖

勅令第二百九十號 (官報 八月十九日)

陸軍軍隊檢閱條例

第一條 檢閱ハ軍隊ニ於ケル軍紀ノ張弛、服務ノ勤惰、教育ノ精粗及保育ノ良否ヲ檢シ條例規則實
施ノ度ヲ察シ出戰整備ノ完否ヲ監シ軍備ヲシテ壅塞礙滯ノ患勿ラシメンカ爲メ閱視檢實スルヲ
謂フ而シテ之ヲ分テ特命檢閱、都督ノ檢閱、師團長ノ檢閱、兵監ノ檢閱ノ四トス
第二條 特命檢閱使ヲ除ク外各檢閱官ハ第一條ニ示ス檢閱ノ諸件中各自己ノ責任ニ屬スル事項ニ
就キ檢閱ヲ行フモノトス

其一 特命檢閱

第三條 監軍ハ 勅ヲ奉シ檢閱使トナリ一師團若クハ數師團ノ軍隊ヲ檢閱ス
第四條 檢閱使ノ屬員ハ將校若干ヲ以テ之ニ充ツ
但時トシテ將校相當官ヲ以テ屬員ト爲スコトアルヘシ

第五條 檢閱使ハ檢閱ノ事ニ就キ意見ヲ都督並ニ師團長ニ訓示スヘシ

第六條 檢閱使使務ヲ終レハ其實況ヲ 上奏復命シ並ニ必要ノ事項ハ陸軍大臣、參謀總長ニ移ス
ヘシ

其二 都督ノ檢閱

第七條 都督ハ臨時所管内ニ於ケル一師團若クハ數師團ノ軍隊ヲ檢閱ス
第八條 都督ハ其檢閱スヘキ師團並ニ時期ヲ豫メ監軍ニ報告スヘシ

第九條 都督ハ檢閱ノ事ニ就キ意見ヲ師團長ニ訓示スヘシ

第十條 都督ハ其檢閱シタル所ノ實況ヲ監軍ヲ經テ 上奏シ並ニ陸軍大臣、參謀總長ニ報告スヘ
シ

其三 師團長ノ檢閱

第十一條 師團長ノ檢閱ハ分テ定期檢閱、臨時檢閱ノ二トス

定期檢閱ハ師團長毎年各兵科教育期ノ終ニ於テ部下軍隊ヲ檢閱スルモノトス
臨時檢閱ハ師團長定期檢閱ニ於テ悉ササル所ヲ臨時ニ檢閱スルモノトス

第十二條 師團長ハ檢閱ノ事ニ就キ意見ヲ各隊長ニ訓示スヘシ

第十三條 師團長ハ其檢閱シタル所ノ實況ヲ都督、監軍ヲ經テ 上奏シ並ニ陸軍大臣、參謀總長ニ
報告スヘシ

其四 兵監ノ檢閱

第十四條 兵監ハ臨時一師管若クハ數師管ヲ巡迴シ當該兵科ノ聯(大)隊ニ就キ檢閱ス
第十五條 兵監ハ檢閱ノ事ニ就キ意見ヲ各隊長ニ訓示スヘシ

第十六條 兵監檢閱ヲ終レハ其實況ヲ監軍ニ報告ス

朕要塞司令部條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年八月十八日

陸軍大臣侯爵大山 巖

勅令第二百九十一號(官報八月十九日)

要塞司令部條例中左ノ通改正ス

第四條ノ次へ左ノ一條ヲ加へ第五條ヲ第六條トス

第五條 要塞司令官ハ當該要塞砲兵隊ノ教育訓練ヲ監視シ意見アレハ之ヲ師團長ニ具申シ且之ヲ

要塞砲兵監ニ告知スルヲ得

第六條ヲ第七條トシ左ノ通改ム第七條以下順次繰下ク

第七條 要塞司令官ハ要塞防禦計畫書竝ニ要塞動員計畫訓令ニ基キ要塞動員計畫書ヲ作り毎年三

月東京灣要塞ニ在テハ東京防禦總督、吳、佐世保要塞ニ在テハ該地鎮守府司令長官其他ノ要塞ニ

在テハ當該師團長ヲ經テ參謀總長及海軍軍令部長ニ進達シ且東京灣、吳、佐世保ノ要塞ニ在テハ

同時ニ之ヲ當該師團長ニ報告スヘシ

第八條ノ「防禦方案ヲ」要塞動員計畫ニ改ム

〔參照〕

勅令第三十九號要塞司令部條例(明治二十八年四月五日官報)抄錄

第八條 各要塞ニ於テ防禦方案ヲ策定スル爲メ防禦諮詢會議ヲ設置ス

朕法律命令ノ臺灣ニ於ケル施行期限ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年八月十九日

内閣總理大臣侯爵伊藤博文

勅令第二百九十二號(官報八月二十日)

法律命令ノ臺灣ニ於ケル施行期限ハ其ノ各縣島廳ニ到達シタル翌日ヨリ起算シテ七日トス但シ公

文式第十三條ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

〔參照〕

勅令第一號公文式(明治十九年二月二十六日官報)抄錄

第十三條 法律命令ノ發布ノ當日ヨリ施行セシムルコトヲ要シ又ハ特ニ施行ノ日ヲ掲ケタルモノハ第十條第十一條第十二

條ノ例ニ依ラス

朕臺灣ニ稅關法ヲ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年八月十九日

内閣總理大臣侯爵伊藤博文

勅令第二百九十三號(官報八月二十日)

拓殖務大臣子爵高島綱之助

明治二十三年法律第八十號稅關法ヲ臺灣ニ施行ス

朕稅關規則第四十三條第二項ノ除外例ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年八月十九日

内閣總理大臣侯爵伊藤博文
拓殖務大臣子爵高島綱之助

勅令第二百九十四號(官報八月二十日)

明治二十三年勅令第二百三號稅關規則第四十二條第二項ニ掲クル裁定ハ臺灣ニ於テハ臺灣總督之ヲ行フ

(參照)

勅令第二百三號稅關規則(明治二十三年九月八日官報)抄錄
第四十二條第二項

稅關長ノ判定ニ不服アル者ハ判定ノ日ヨリ三十日以内ニ判定書ヲ添ヘ大藏大臣ニ裁定ヲ請フコトヲ得

朕錄事任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年八月十九日

内閣總理大臣侯爵伊藤博文
海軍大臣侯爵西鄉從道
陸軍大臣侯爵大山 巖

勅令第二百九十五號(官報八月二十日)

錄事任用令

- 第一條 錄事ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ任用ス
- 一 錄事登用試験ヲ經テ其ノ合格證書ヲ有スル者
 - 二 二箇年以上裁判所書記ノ職ニ在ル者及在リタル者
 - 三 嘗テ二箇年以上錄事ノ職ニ在リタル者

四 裁判所書記登用試験ヲ經テ其ノ及第證書ヲ有スル者

第二條 陸軍准士官下士ニシテ試験ヲ要セス判任文官タルノ資格ヲ有スル者ハ陸軍ニ限り之ヲ錄事ニ任用スルコトヲ得

第三條 錄事登用試験ニ關スル規則ハ陸軍大臣海軍大臣各之ヲ定ム

附則

第四條 高等學校ノ法學部ヲ卒業シタル者及判事檢事登用試験規則第五條ニ依リ司法大臣ノ指定シタル公私立ノ學校又ハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學ヲ教授スル私立學校ニ於テ法律學ヲ卒業シタル者ハ本令施行後五箇年間ハ文官普通試験委員ノ銓衡ヲ經テ錄事ニ任用スルコトヲ得

朕臺灣島及澎湖島ニ駐在スル海軍准士官以上外宿下士及文官ノ家族移轉料給與ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年八月十九日

海軍大臣侯爵西鄉從道

勅令第二百九十六號(官報八月二十日)

海軍准士官以上外宿下士及文官ニハ左ノ場合ニ於テ海軍内國旅費規則ニ定ムル移轉料ヲ給與スルコトヲ得

- 一 東京以外ニ在ル海軍官廳勤務ノ海軍准士官以上及文官ニシテ臺灣島若クハ澎湖島駐在ヲ命セラル該官廳所在地ヨリ東京ニ家族ヲ移轉スルトキ

二 所轄鎮守府所在地外ニ在ル海軍官廳勤務ノ外宿下士前項ノ場合ニ於テ該官廳所在地ヨリ所轄鎮守府所在地ニ家族ヲ移轉スルトキ

附則
本令ハ本令施行前ヨリ引續キ現ニ臺灣島若クハ澎湖島ニ駐在スル海軍准士官以上外宿下士及文官ニモ適用ス

○ 朕千住製絨所長特別任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年九月二日

勅令第二百九十七號 (官報 九月三日)

千住製絨所長特別任用令

千住製絨所長ハ文官任用令ノ規定ニ依ラス陸軍監督及豫備役後備役陸軍監督又ハ技師ノ中ヨリ文官高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ之ニ任用スルコトヲ得

○ 朕文部省直轄諸學校官制及職員定員中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年九月二日

勅令第二百九十八號 (官報 九月三日)

明治二十六年勅令第八十六號 文部省直轄諸學校官制第一條第二項中山口高等學校ノ下「及鹿兒島高等中學造士館」ノ十一字ヲ削除ス

同年勅令第八十七號 文部省直轄諸學校職員定員第一條中鹿兒島高等中學造士館ノ部ヲ削除ス

明治二十九年九月 勅令 第二百九十七號 第二百九十八號

〔參照〕

勅令第八十六號文部省直轄諸學校官制(明治二十六年八月二十五日官報)抄錄

第一條第二項 諸學校通則第一條ニ依リ文部大臣ノ管理ニ屬スル高等學校ハ山口高等學校及鹿兒島高等中學進士館トシ總テ此ノ官制ノ規定ニ依ラシム

勅令第八十七號文部省直轄諸學校職員定員(明治二十六年八月二十五日官報)抄錄

第一條 文部省直轄諸學校職員ノ定員ハ左ノ如シ但兼任ハ此ノ限ニアラス

- 校長 一人
- 教授 十八人
- 助教授 六人
- 書記 五人

朕北海道衛生會規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年九月五日

勅令第二百九十九號(官報 九月七日)

北海道衛生會規則

内閣總理大臣伯耆黒田清隆
拓殖務大臣子爵高島鞆之助

第一條 北海道衛生會ハ北海道廳長官ノ監督ニ屬シ其ノ諮詢ニ應シテ管内公衆衛生獸畜衛生ニ關スル事項ヲ審議ス

第二條 北海道衛生會ハ前條ノ事項ニ就テハ北海道廳長官ニ建議スルコトヲ得

第三條 北海道衛生會ハ議事整理ノ爲メ規則ヲ議定シ北海道廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 北海道衛生會ハ會長一人委員十二人ヲ以テ之ヲ組織ス

會長ハ北海道廳長官ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ書記官一人警部長、參事官一人、郡區長四人、醫師三人、獸醫一人、藥學家一人ヲ以テ之ニ充

第五條 臨時必要ノ場合ニ於テハ前條定員ノ外臨時委員ヲ命スルコトヲ得但シ臨時委員ハ三人以

上ヲ超ユルコトヲ得ス

第六條 委員(警部長ヲ除ク)及臨時委員ハ北海道廳長官之ヲ命ス

第七條 醫師獸醫藥學家ヨリ出ツル委員ノ任期ハ二箇年トス但滿期後再任セラルルコトヲ得

第八條 會長ハ會務ヲ總管シ議事規則ニ依リ議事ヲ整理シ其ノ決議ヲ北海道廳長官ニ具申ス

第九條 會長事故アルトキハ書記官之ヲ代理シ書記官ヨリ出ツル委員事故アルトキハ北海道廳長

官ノ指名シタル委員ヲシテ事務ヲ代理セシム

第十條 委員ハ第一條ノ事項ニ就キ意見アルトキハ何時ニテモ會長ニ開申スルコトヲ得

第十一條 北海道衛生會ニ書記ヲ置キ北海道廳屬ヲ以テ之ニ充ツ

第十二條 書記ハ會長ノ指揮ヲ承ケ議事ノ筆記及庶務ニ従事ス

第十三條 委員及臨時委員ニシテ有給ノ官職ヲ帶ヒサル者ニハ開會中一日一圓五十錢以内ノ手當

ヲ給スルコトヲ得

○ 朕衛戍條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

御名 御璽

明治二十九年九月五日

陸軍大臣侯爵大山 巖

勅令第三百號(官報九月七日)

衛戍條例中左ノ通改正ス

第三條中「武庫」ノ二字ヲ削ル

第四條ニ左ノ但書ヲ加フ

但衛戍勤務ヲ以テ近衛師團ノ禁關守衛勤務ヲ妨クルコトナシ
第九條中「近衛師團及」ノ五字ヲ削ル

〔參照〕

勅令第三百三十八號衛戍條例(明治二十八年十月四日官報)抄錄

第三條 各衛戍地ニハ所要ニ應シ病院、武庫、監獄ヲ置キ衛戍司令官ノ管轄トス又其衛戍地ノ陸軍諸官解及陸軍ノ建築物ニ
關スル火災水害等ノ救防ハ衛戍勤務ニ關ス

第四條 衛戍司令官ハ衛戍地警備ノ責ニ任シ衛戍勤務ニ關シテハ其地駐屯ノ軍隊ヲ指揮シ衛兵ノ部署及其人員ヲ定ム

第九條 近衛師團及憲兵隊ニ在テハ第五條第六條及第七條ヲ除クノ外衛戍勤務ニ干與セス

朕海軍准士官下士任用進級條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年九月五日

勅令第三百一號(官報九月七日)

海軍大臣侯爵西鄉從道

海軍准士官下士任用進級條例

第一條 海軍准士官ハ海軍一等下士ヨリ任用ス

第二條 海軍下士ハ三等ヲ初任トシ左ノ區別ニ從ヒ任用ス

一 二等兵曹ハ一等水兵ヨリ任用ス

二 二等信號兵曹ハ一等信號兵ヨリ任用ス

三 二等船匠手ハ一等木工ヨリ任用ス

四 二等軍樂手ハ一等軍樂生ヨリ任用ス

五 二等機關兵曹ハ一等機關兵ヨリ任用ス

六 二等鍛冶手ハ一等鍛冶ヨリ任用ス

七 二等看護手ハ一等看護ヨリ任用ス

八 三等廚宰ハ一等主廚ヨリ任用ス

三等筆記ノ任用ハ明治二十九年勅令第四百四十六號及第四百四十四號ニ依ル

第三條 年齢二十年未滿ノ者ハ海軍下士ニ任用スルコトヲ得ス

第四條 海軍准士官下士ノ任用進級ハ總テ拔擢ヲ以テシ級ヲ逐ヒ歷進セシム但シ缺員ナキトキハ
任用進級ヲ行ハス

第五條 海軍准士官下士ハ任用進級試験ニ合格シタル者ニアラサレハ任用進級セシムルコトヲ得
ス但シ特殊ノ技能ヲ有スル者ニ限リ其ノ試験ヲ用ヒスシテ任用進級セシムルコトヲ得

戰時若クハ事變ニ際シテハ前項ノ試験ヲ行ハスシテ任用進級セシムルコトヲ得

任用進級試験ニ關スル規程ハ海軍大臣之ヲ定ム

第六條 任用進級試験ハ第七條ニ掲グル實役停年最下期限ヲ超エタル者ニアラサレハ受クルコト
ヲ得ス

第七條 實役停年最下期限ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 一等卒ヨリ三等下士ニ任スルハ海上勤務一箇年若クハ陸上勤務一箇年四箇月

二 二等下士ヨリ其ノ上級ノ官ニ進ムハ海上勤務一箇年若クハ陸上勤務一箇年四箇月

三 二等下士ヨリ其ノ上級ノ官ニ進ムハ海上勤務一箇年半若クハ陸上勤務二箇年
 四 一等下士ヨリ准士官ニ任スルハ海上勤務二箇年若クハ陸上勤務一箇年八箇月
 第八條 實役停年ハ海上勤務若クハ陸上勤務ヲ以テ算ス
 海上勤務ヲ陸上勤務ニ改算スルニハ海上勤務日數ニ其ノ三分ノ一ヲ加ヘ陸上勤務ヲ海上勤務ニ
 改算スルニハ陸上勤務日數ヨリ其ノ四分ノ一ヲ減ス
 第九條 海上勤務トハ艦船ニ乗組ミ服務スルヲ謂フ其ノ艦船ノ種類ハ海軍大臣之ヲ定ム
 第十條 海上勤務ノ者ニシテ公務ニ原因セサル傷疾疾病ニ依リ陸上若クハ病院船ニ在ル間ノ日數
 ハ海上勤務ニ算入スルコトヲ得ス
 第十一條 逃亡、收禁、處刑及自己ノ願ニ依リ歸省中ノ日數竝ニ正當ノ理由ナクシテ敵ノ捕虜トナ
 リタル間ノ日數ハ實役停年ニ算入スルコトヲ得ス
 第十二條 戰時ニ在テハ實役停年最下期限ヲ其ノ半ニ減スルコトヲ得
 第十三條 將校及其ノ相當官ハ各其ノ職權ニ依リ部下ヲ拔擢スルノ權ヲ有ス但シ直屬長官アル者
 ハ其ノ監督ノ下ニ在テ之ヲ行フ
 第十四條 下士ノ任用進級ハ海兵團在籍ノ區別ニ從ヒ所管鎮守府司令長官之ヲ行ヒ其ノ艦隊ニ屬
 スル者ハ艦隊司令長官之ヲ行フ
 一等下士ヨリ准士官ニ任スルハ海軍大臣之ヲ行フ
 任用進級取扱ニ關スル規程ハ海軍大臣之ヲ定ム
 第十五條 前諸條ハ現役者ニノミ適用ス
 第十六條 戰時若クハ事變ニ際シ現役海軍准士官下士ニ缺員ヲ生シタル場合ニ於テ現役海軍下士
 若クハ一等卒ヨリ任用進級セシメ其ノ補充ヲナス能ハサルトキハ前諸條ニ準據シ召集中ノ豫備
 役後備役海軍下士及二等卒ヲ任用進級セシムルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ召集中ノ勤務日數ヲ現役中ノ勤務日數ニ通算ス
 第十七條 戰時若クハ事變ニ際シ勳績アル者又ハ多年現役ニ服シ任用進級資格ヲ備ヘ且拔群ノ勳
 勞アル者ニシテ現役ヲ退キタルトキハ其ノ際特ニ任用進級セシムルコトヲ得但シ恩給ヲ受クル
 資格ニ在テハ前官等若クハ前職ニ依ル
 第十八條 豫備役後備役海軍下士若クハ一等卒ニシテ戰時若クハ事變ニ際シ召集中勳績アリタル
 者召集ヲ解キタルトキハ其ノ際特ニ任用進級セシムルコトヲ得但シ恩給ヲ受クル資格ニ在テハ
 新官等ニ依ルコトヲ得ス
 第十九條 左ノ場合ニ在テハ第十四條ニ依ルノ外他ノ定規ニ關セス任用進級セシムルコトヲ得
 一 敵前ニ在テ殊勳ヲ奏セシトキ
 二 戰時ニ在テ人員多ク缺乏シ敘任ノ定規ヲ履ム能ハサルトキ
 附則

第二十條 明治二十三年勅令第五百二十二號海軍下士任用進級條例及明治二十七年勅令第九十九
 號海軍豫備後備武官進級任用條例ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

〔參照〕
 明治二十九年四月廿七勅令第四百四十六號ハ海軍筆記任用令、同年六月廿八勅令第二百四十四號ハ海軍主府ニシテ海軍筆記
 任用令施行以前ヨリ現役ニ在ル者ハ同令ニ依リ學術試験ヲ行ヒ其及第者ヲ海軍筆記ニ任用スルコトヲ得ルノ件ナリ

朕海軍徵兵現役中事故又ハ傷疾疾病ニ依リ服役免除ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 御名 御璽
 明治二十九年九月五日
 海軍大臣 侯爵西鄉從道

勅令第三百二號 (官報 九月七日)

第一條 海軍徵兵現役中本人ヲ要スルニアラサレハ家族自活シ能ハサル事故ヲ生スルトキハ其ノ家族ノ願ニ依リ鎮守府司令長官ニ於テ現役ヲ免ス

第二條 前條ニ依リ免役ヲ願出テトスル者ハ其ノ願書ニ近鄰戸主二名ノ保證書ヲ添ヘ島司郡市長ヲ經テ本人在籍ノ鎮守府司令長官ニ願出ヘシ但町村ニ於テハ町村長ノ與書證印ヲ受クルモノトス

第三條 島司郡市長ハ其ノ事實ヲ審査シ狀況書ヲ作り願書ト共ニ鎮守府司令長官ニ送附スヘシ

第四條 海軍徵兵現役中傷痍又ハ疾病ニ依リ現役ニ堪ヘ難キ者ハ鎮守府司令長官ニ於テ現役ヲ免ス

第五條 海軍徵兵現役中傷痍又ハ疾病ニ依リ常備後備ノ役ニ堪ヘ難キ者ハ鎮守府司令長官ニ於テ其ノ役ヲ免シ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

第六條 第一條及第四條ニ依リ現役ヲ免シタル者ハ現役ヲ通シテ七箇年ニ滿ツルマテ豫備役ニ充テ二箇年ニ滿ツルマテ後備役ニ服セシム又第五條ニ依リ常備後備ノ役ヲ免シタル者ハ第一國民兵役ニ服セシム

附則

市制町村制ヲ施行セサル地方ニ在テ本令中市町村長ノ職務ハ區戸長及之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

朕臺灣總督府稅關管轄區域ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年九月七日

内閣總理大臣 伯爵 黑田清隆
 拓殖務大臣 子爵 高島綱之助

勅令第三百三號 (官報 九月八日)

淡水稅關管轄區域
 富基岬ヨリ南方西螺溪ニ至ル沿岸
 安平稅關管轄區域
 西螺溪ヨリ南方阿公店溪ニ至ル沿岸及澎湖島ノ沿岸
 打狗稅關管轄區域
 阿公店溪ヨリ南方鶯鷺鼻ヲ經テ北方花蓮港ニ至ル沿岸及小琉球島江頭嶼火燒嶼ノ沿岸
 基隆稅關管轄區域
 花蓮港ヨリ北方三貂角ヲ經テ西方富貴岬ニ至ル沿岸

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

朕騎兵聯隊軍旗改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年九月七日

陸軍大臣 侯爵 大山 巖

勅令第三百四號 (官報 九月八日)

明治七年布告第百二十號中騎兵聯隊軍旗ノ圖ニ一尺四寸七分五厘「トアルヲ」ニ「七寸」トアルヲ「五寸」ニ改ム

朕臺灣總督府國語學校同附屬學校及國語傳習所生徒學資金及旅費日當支給ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年九月十四日

拓殖務大臣子爵高島綱之助

勅令第三百五號(官報九月十五日)

臺灣總督府國語學校同附屬學校及國語傳習所ノ生徒ニハ其ノ種類ニ依リ學資金及旅費日當ヲ支給スルコトヲ得其ノ支給細則ハ臺灣總督之ヲ定ム

朕陸軍通譯生ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年九月十五日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆
陸軍大臣侯爵大山 巖

勅令第三百六號(官報九月十六日)

第一條 外國語ヲ通譯スルノ必要アル陸軍官衙及各部ニ於テハ判任官定員以內ヲ以テ陸軍通譯生ヲ置クコトヲ得

第二條 陸軍通譯生ハ判任トス

第三條 陸軍通譯生ハ文官任用令ノ規程ニ依ラス文官普通試驗委員ノ銓衡ヲ經テ任用スルコトヲ得

朕文武判任官等級表中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年九月十五日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆

勅令第三百七號(官報九月十六日)

文武判任官等級表中左ノ通改正ス

陸地測量手ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

陸軍通譯生
陸軍通譯生
陸軍通譯生
陸軍通譯生

朕陸軍所屬特別文官俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年九月十五日

陸軍大臣侯爵大山 巖

勅令第三百八號(官報九月十六日)

明治二十六年勅令第三百七十五號陸軍所屬特別文官俸給令第二表中左ノ通改正ス
陸地測量手ノ次ニ陸軍通譯生ヲ加フ

〔参照〕

勅令第三百七十五號陸軍所屬特別文官俸給令(明治二十六年十月三十一日官報)抄錄
第二表中

日本帝國ヨリ聯合王國マケテノ遞送料	十片	一志八片	二志六片
聯合王國內地郵便料	五片	十片	一志三片
配達及税關手数料	二片	二片	二片
合計	一志十片	三志六片	五志二片

第五條

小包遞送ニ用フル容器ノ費用ハ兩郵政廳互ニ其ノ一半ヲ負擔スヘシ

第六條

兩約定國ノ一方ヨリ發シ他ノ一方ヘ宛タル小包ニハ第四條及第七條ニ規定スル郵便料ヲ除キ其ノ他ハ何等ノ郵便料ヲ課スルヲ得ス

第七條

受取人其ノ住所ヲ移轉セシニ因リ一方ノ國ヨリ他ノ一方ノ國ヘ宛小包ヲ再發スルトキ及配達シ難キ小包ヲ返還スルトキハ第四條ニ規定スル郵便料ヲ更ニ受取人又ハ差出人ヨリ徵收スヘシ既ニ納付シタル關稅ハ之ヲ拂戻ヲ受クルコトヲ得

第八條

信書若クハ通信文ノ性質ヲ具フル書類又ハ關係諸國ノ稅關若クハ其ノ他ニ關スル法律規則ニ依リ遞送ヲ許サレサル物品ヲ包有スル小包ハ小包郵便ニ依リ之ヲ發送スルヲ禁ス

第九條

第一項 天災其ノ他避クヘカラサル場合ヲ除キ小包ノ亡失又ハ損傷セシトキハ差出人又ハ差出人不在ナルトキ若クハ差出人ノ請求アルトキハ受取人ハ其ノ亡失又ハ損傷ヨリ生スル損失ノ實額ニ相當スル賠償ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ賠償ハ重量七封度(八百四十匁)ヲ超ヘサル小包ニ關シテハ十二志重量七封度(八百四十匁)ヲ超ユル小包ニ關シテハ一磅ヲ超過スヘカラス又亡失

シタル小包ノ差出人ハ其ノ郵便料ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第二項 賠償金支拂ノ義務ハ差出局ヲ管理スル郵政廳ニ屬スルモノトス但シ該郵政廳ハ賠償ノ責ヲ負フコトヲ得

第三項

小包ヲ異議ナク受領シタル後之ヲ受取人ニ配達シ又ハ次ノ郵政廳ヘ正當ニ送達シタルコトヲ證明スル能ハサル郵政廳ハ反對ヲ證明スル迄ハ責任ヲ有スルモノトス

第四項

差出郵政廳ハ成ルヘク速ニ賠償金ヲ支拂フヘシ遲クモ賠償請求ノ日ヨリ起算シ一箇年ヲ超過スヘカラス又賠償ノ責アル郵政廳ハ差出郵政廳ヘ速ニ賠償金額ヲ還付スヘシ

第五項

賠償ノ請求ハ小包ヲ郵便局ヘ差出シタル日ヨリ起算シ一箇年以内ニ限り之ヲ受理ス此ノ期限經過ノ後ハ請求人賠償ヲ受クルノ權利ヲ失フモノトス

第六項

兩國間ニ小包遞送中ノ亡失又ハ損傷シ其ノ亡失又ハ損傷カ何レノ管掌中ニ於テ發生セシヤヲ確定シ難キ場合ニ於テハ兩郵政廳ハ各其ノ賠償金額ノ半額ヲ分擔スヘシ

第七項

郵政廳ハ受取權利者ニ於テ小包ヲ受領セシ後ハ其ノ責ヲ免ルルモノトス

第十條

各郵政廳ハ小包郵便業務ヲ停止スルヲ以テ相當ナリト認ムル非常ノ場合ニ於テハ一時其ノ全部若クハ一部ヲ停止スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ速ニ他ノ郵政廳ニ報告スヘシ至急ヲ要スルトキハ電報ヲ以テ通知スヘシ

第十一條

本約定中明文ナキ事項ニ就テハ兩約定國內國ノ法令ヲ適用スヘキモノトス

第十二條

兩約定國ノ郵政廳ハ外國小包郵便物ヲ取扱フ郵便局若クハ地方ヲ指定シ竝ニ該小包遞送ニ關スル

方法及其ノ他本約定實施ノ爲ニ要用ナル詳細ノ手續ヲ規定スヘシ

第十三條

- 第一項 本約定ノ實施期日ハ兩約定國郵政廳ニ於テ協議シ之ヲ決定ス
 - 第二項 本約定ハ兩約定國ノ一方ニ於テ廢止セント欲シ他ノ一方ハ其ノ意思ヲ報知シタル後尙一箇年間效力ヲ有スルモノトス
 - 第三項 本約定ヲ確證セン爲下ニ署名スルモノハ各其ノ相當ニ與ヘラレタル權限ニ依リ此ノ約定ニ記名調印ス
- 本約定書ニ通テ調製シ明治二十九年五月二十一日東京ニ於テ及千八百九十六年六月二十三日倫敦ニ於テ記名調印スルモノナリ

遞信大臣白根專一
郵政院長ノルフーク

朕拓殖務省官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年九月二十一日

内閣總理大臣伯爵松方正義
拓殖務大臣子爵高島鞆之助

勅令第三百九號(官報九月二十三日)

本年勅令第八十七號拓殖務省官制中左ノ通改正ス

- 第一條 拓殖務大臣ハ左ノ事務ヲ管理ス
- 一 臺灣ニ關スル諸般ノ政務

- 二 北海道ニ關スル諸般ノ政務ニシテ從來内務省ノ主管ニ屬シタル事項但醫師及藥劑師ノ業務並藥品賣藥取締ニ關スル事項ハ此ノ限ニアラス
- 三 北海道ニ於ル鐵道、山林原野及水産ニ關スル事項

〔參照〕

勅令第八十七號拓殖務省官制(明治二十九年三月三十一日官報)抄錄

- 第一條 拓殖務大臣ハ左ノ事務ヲ管理ス
- 一 臺灣ニ關スル諸般ノ政務
- 二 北海道ニ關スル諸般ノ政務ニシテ從來内務省ノ主管ニ屬シタル事項

朕臺灣總督府ニ於テ隨意契約ヲ以テ工事又ハ物件ノ買入借入ヲ爲スノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年九月二十一日

拓殖務大臣子爵高島鞆之助

勅令第三百十號(官報九月二十三日)

臺灣總督府ニ於テ千五百圓ヲ超エサル工事又ハ物件ノ買入借入ヲ爲ストキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

朕臺灣官有森林原野及產物特別處分令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年九月二十一日

拓殖務大臣子爵高島綱之助

勅令第三百十二號(官報九月二十三日)

臺灣官有森林原野及產物特別處分令

- 第一條 臺灣總督ハ左ノ場合ニ限り官有森林原野及其ノ產物ヲ競争ニ付セス隨意ノ契約ヲ以テ貸渡シ又ハ賣渡スコトヲ得
 - 一 官廳又ハ公共ノ用ニ供スル爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ賣渡シ及其ノ建築材料ヲ賣渡ストキ
 - 二 開墾若クハ牧畜ノ爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ賣渡ストキ
 - 但森林原野ヲ賣渡スニハ其ノ買受豫約人ニ於テ豫定ノ事業ヲ成功シタル後ニ限ル
 - 三 鑛業ノ爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ建築材料又ハ薪炭材ヲ賣渡ストキ
 - 四 植樹ノ爲メ森林原野ヲ貸渡ストキ
 - 五 非常ノ災害ニ罹リタル地方人民ノ爲メ建築材料ヲ賣渡ストキ
 - 六 部分木ヲ仕付人ニ賣拂フトキ
 - 七 從來ノ慣行ニヨリ地元人民ニ木竹薪炭材下草秣小柴若クハ土石ヲ賣渡ストキ
 - 八 地籍調査ニ依リ發見シタル開墾地ヲ其ノ開墾人ニ賣渡ストキ
 - 九 建築其ノ他ノ用ニ供スヘキ土石ヲ發見シタル場合ニ於テ之ヲ其ノ發見人ニ賣渡ストキ
 - 十 季節アル生産物ヲ賣拂フトキ
 - 十一 開墾牧畜若クハ植樹ノ爲メ貸渡シタル森林原野ノ區域内ニアル產物ヲ其ノ借受人ニ賣拂フトキ
 - 十二 林業附帶ノ用ニ供スル爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ產物ヲ賣渡ストキ

- 十三 部分方法ニ依リ林產物製造ノ爲メ其ノ原料ヲ請負人ニ賣渡ストキ
- 十四 見積借地料ニ箇年金二百圓ニ超エサル森林原野ヲ貸渡ストキ
- 十五 見積代價二百圓ニ超エサル主副產物ヲ賣拂フトキ
- 十六 河海沼湖濠池ヲ埋立ニ要スル土石ヲ賣渡ストキ
- 第二條 臺灣總督ハ競争ニ付シタル物件ノ豫定價格ニ達セス該入札ヲ取消シタル場合ニ於テ爾後三十日以内ニ豫定價格ヨリ低カラサル代價ヲ以テ同一物件ノ拂下若クハ貸下ヲ望ムモノアルトキハ隨意之ヲ賣渡若クハ貸渡スコトヲ得
- 第三條 臺灣總督ハ森林保護ノ爲メ必要ト認ムルトキハ制限ヲ附シ地元人民ニ森林ノ副產物ヲ無料ニテ採取セシムルコトヲ得
- 第四條 臺灣總督ハ森林手入ノ爲メ採取シタル產物ノ全部又ハ一部ヲ手入料トシテ下付スルコトヲ得
- 第五條 本令施行ニ關スル細則ハ臺灣總督之ヲ定ム

除海軍砲術練習所條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年九月二十三日

海軍大臣侯爵西鄉從道

勅令第三百十三號(官報九月二十四日)

海軍砲術練習所條例中左ノ通改正ス

第二條 海軍砲術練習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長 海軍大佐
 教官 海軍少佐
 教官兼分隊長 海軍大尉
 軍醫長 海軍大軍醫
 主計長 海軍大主計
 前項ノ外海軍少尉、少軍醫及少主計ヲ置ク
 第七條 少尉ハ所長ノ指定ニ依リ教官若クハ分隊長ニ屬シ其ノ命ヲ承ケ服務ス
 第九條中「軍醫ハ」ヲ「少軍醫ハ」ニ改ム
 第十條 主計長ハ所長ノ命ヲ承ケ會計給與及庶務ヲ掌ル
 第十一條中「主計ハ」ヲ「少主計ハ」ニ改ム
 第十二條 第二條ニ掲グル職員ノ外左ノ諸員ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム
 海軍上等兵曹
 海軍下士
 海軍卒
 前項職員ノ外書記ヲ置キ編修ニ從事セシムルコトヲ得
 第十三條 海軍砲術練習所ニ於テ砲術ノ教授ヲ受クル者ハ第十四條ニ掲グル砲術練習生ノ外左ノ諸項ノ一ニ該ル者タルヘシ
 一 海軍大學校將校科ヲ卒業シタル者
 二 海軍少尉
 三 海軍上等兵曹
 前項ノ外海軍少佐、大尉及進級資格ヲ有スル海軍少尉候補生ヲ入學セシムルコトヲ得

第十六條 掌砲兵ト爲ルヘキ者ハ海軍一等兵曹以下三等水兵以上ニシテ左ノ諸項ニ適合スル者タルヘシ
 一 身體強健、視力完全且品行方正ナル者
 二 卒業後五箇年間現役ニ服スヘキ者
 三 試験ニ合格シタル者
 第二十一條中「附與シ且加俸ヲ給ス」ヲ「附與ス」ニ改ム
 第二十二條中「除キ且加俸ヲ止ム」ヲ「除ク」ニ改ム
 第二十四條 海軍砲術練習所ニ於テ商船學校學生ニ砲術ヲ教授ス
 第二十四條ノ次ニ左ノ一條ヲ加ヘ附則第二十五條ヲ削ル
 第二十五條 本所ノ定員ハ別表定ムル所ニ依ル
 (別表)

海軍砲術練習所定員表

所長	海軍大佐	九
教官	海軍少佐	七
教官兼分隊長	海軍大尉	四
軍醫長	海軍大軍醫	一
主計長	海軍大主計	一
	海軍少主計	一
	海軍上等兵曹	百〇三
	海軍下士	四十三
	書記	一
	海軍卒	一

【参照】
 勅令第二百十九號海軍砲術練習所條例(明治二十六年十二月一日官報)抄録
 第二條 海軍砲術練習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長	海軍大佐	一人
教官	海軍少佐	五人
分隊長	海軍大尉	五人
分隊長	海軍少尉	五人
軍醫長	海軍大軍醫	四人
軍醫	海軍少軍醫	一人
主計長	海軍大主計	一人
主計	海軍少主計	一人
第七條	分隊長ハ分隊長ノ命ヲ承ケ服務ス	一人
第九條	軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス	一人
第十條	主計長ハ所長ノ命ヲ承ケ服務ス	一人
第十一條	主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス	一人
第十二條	第二條ニ掲ル職員ノ外左ノ諸員ヲ置キ上旨ノ命ヲ承ケ服務セシム	八人
海軍上等兵曹	教員	八人
海軍下士		三十三人
海軍卒		八十九人
前項職員ノ外書記一人ヲ置キ編修ニ從事セシムルコトヲ得		八十九人
第十三條	海軍砲術練習所ニ於テ砲術ヲ教授ス受ル海軍將校及海軍上等兵曹ハ左ノ諸項ノ一二ニ該ル者タルヘシ	
一	海軍大學校將校科ヲ卒業シタル者	
二	海軍大尉以上ニシテ志願スル者	
三	海軍少尉	
四	海軍上等兵曹ニシテ海軍砲術練習所ニ於テ砲術ヲ修得シタル者	
前項ノ外進級資格ヲ有スル海軍少尉候補生ヲ入學セシムルコトヲ得		
第十六條	學砲兵ト爲ルヘキ者ハ海軍三等兵曹以下三等水兵以上ニシテ左ノ諸項ニ適合スル者タルヘシ	
一	身體強健視力完全且品行方正ナル者	
二	二箇年以上海上勤務ニ服シタル者但四等水兵ヨリ起算ス	
三	卒業後五箇年間現役ニ服スヘキ者	
四	試験ニ合格シタル者	
第二十一條	學砲証狀若クハ砲術教員適任證書ヲ授與シタル者ニハ臂章ヲ附與シ且加俸ヲ給ス	

第二十二條 學砲証狀ノ有效期限ハ滿五箇年トシ砲術教員適任證書ノ有效期限ハ滿三箇年トス其ノ期滿レハ臂章ヲ除キ且加俸ヲ止ム但戰時若クハ事變ニ際シテハ其ノ有效期限ヲ延スコトヲ得

第二十四條 海軍砲術練習所ニ於テ商船學校生徒ニ砲術ヲ教授スルコトヲ得

附則

第二十五條 砲術練習艦條例ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

朕海軍水雷術練習所條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年九月二十三日

海軍大臣侯爵西鄉從道

勅令第三百十三號(官報九月二十四日)

海軍水雷術練習所條例中左ノ通改正ス

第三條 海軍水雷術練習所ニ左ノ職員ヲ置ク

- 所長 海軍大佐
- 教官 海軍少佐
- 教官兼分隊長 海軍大尉
- 教官兼分隊長 海軍大機關士
- 軍醫長 海軍大軍醫
- 主計長 海軍大主計

前項ノ外海軍少尉、少軍醫及少主計ヲ置ク

第七條 少尉ハ所長ノ指定ニ依リ教官若クハ分隊長ニ屬シ其ノ命ヲ承ケ服務ス

第九條 中軍醫ハ「少軍醫」ニ改ム

